

統監府 司法廳
統監府 裁判所及檢事局
統監府 警視
統監府 警部

刑ノ執行猶豫ニ關スル取扱規程左ノ通定ム

刑ノ執行猶豫ニ關スル取扱規程

- 第一條 一定ノ住所ヲ有セサル犯人ニ對シテ刑ノ執行猶豫ノ言渡アリタル場合ニ於テハ檢事ハ犯人ヲシテ速ニ其ノ住所ヲ定メ之ヲ届出テシムヘシ
- 第二條 檢事ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル犯人ニ猶豫期間ノ始期及終期並刑法第二十六條及第二十七條ノ旨趣ヲ告知スヘシ
- 第三條 地方裁判所ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル場合ニ於テハ檢事ハ犯人ノ氏名、年齢、住所、罪名、刑名、刑期、猶豫期間及其ノ始期、終期其ノ他必要ト認ムル事項ヲ所轄警察官署ニ通知スヘシ
- 若シ犯人其ノ裁判所ノ管轄地外ニ住スル者ナルトキハ管轄地方裁判所ノ檢事ニモ前項ノ通知ヲ爲スヘシ
- 第四條 區裁判所ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル場合ニ於テハ檢事ハ其ノ區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及所轄警察官署ニ前條第一項ニ定ムル事項ヲ通知スヘシ
- 若シ犯人區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄地外ニ住スル者ナルトキハ管轄地方裁判所ノ檢事ニモ前項ノ通知ヲ爲スヘシ
- 第五條 高等法院又ハ控訴院ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル場合ニ於テハ檢事ハ犯人ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事、第三條第一項ニ定ムル事項ヲ通知シ其ノ通知ヲ受ケタル檢事ハ之ヲ所轄警察官署ニ通知スヘシ高等法院ニ於テ上告ヲ棄却シタル場合亦同シ
- 第六條 地方裁判所ノ檢事警察官署ヨリ刑ノ執行猶豫ヲ受ケタル犯人其ノ住所ヲ轉シタルコトノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ第三條第一項ニ定ムル事項ヲ所轄警察官署ニ通知シ且刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事ニ住所ヲ轉シタルコトヲ通知スヘシ若シ轉住地其ノ裁判所ノ管轄地外ナルトキハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス轉住地内地ナルトキ亦同シ
- 第七條 檢事局ニハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル犯人ノ名簿ヲ備フヘシ
- 前項ノ名簿ハ其ノ裁判所ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ受ケタル犯人、管内區裁判所ノ檢事ノ通知ニ係ルモノ及其ノ他ノ裁判所ノ檢事ノ通知ニ係ルモノニ付各別ニ之ヲ調製スヘシ
- 第八條 第一項ノ名簿ニハ執行猶豫表及執行猶豫事故表ニ掲記スヘキ一切ノ事項ヲ記載スヘシ
- 第九條 檢事刑ノ執行猶豫ヲ受ケタル犯人ニ付言渡取消ノ原因ヲ覺知シタルトキハ犯人所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ニ之ヲ通知スヘシ
- 第十條 執行猶豫ノ言渡ヲ取消シタル場合ニ於テハ檢事ハ所轄警察官署、刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事及最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ニ犯人ノ氏名及取消ノ原因ヲ通知スヘシ
- 第十一條 檢事刑ノ執行猶豫事故表ニ掲タル猶豫取消以外ノ事故發生シタルコトヲ覺知シタルトキハ刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事及最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ニ之ヲ通知スヘシ
- 第十二條 前三條ノ規定ハ最後ノ住所地内地ナル場合ニ之ヲ準用ス
- 第十三條 刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事局ハ刑ノ執行猶豫ノ裁判確定シタルモノニ付三月毎ニ左表ヲ製シ其ノ翌月末日迄ニ統監府司法廳ニ提出スヘシ

執行猶豫表(第一)

何裁判所檢事局

猶豫言渡確定年月日	罪名	刑名刑期	猶豫期間	檢事請求又ハ職權言渡ノ區別	猶豫人氏名	年齢

計	執行猶豫事故表(第二)				人内 未成年	何裁判所 檢事局		
	猶豫期 間滿了	再犯	餘罪發覺	取 前科發見				
計				計	行先不明	移轉	死亡	其他
備考								

第二表 凡例

- 一 檢事ノ請求ニ係ルモノハ更ニ其ノ數ヲ相當欄内ノ傍ニ朱書ス
- 二 他欄ニ於テ取消サレタルモノアルトキハ其ノ數、取消事由並所在地又ハ最後ノ住所地ノ管轄欄ノ處分ナルヤ否ヤヲ備考欄ニ記ス
- 三 所在判明、復歸、入營又ハ外國渡航等ハ其他欄ニ掲記シ且其ノ事故ヲ備考欄ニ記ス

●特赦及減刑ニ關スル制 四十二年九月 改正 四三年 勅令第二百三十號

朕明治四十一年勅令第二百十五號ヲ韓國、臺灣、關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スル地域ニ於ケル特赦及減刑ニ準用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治四十一年勅令第二百十五號ハ韓國、臺灣、關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スル地域ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ特赦又ハ減刑ノ上奏ニ付之ヲ準用ス但シ同令中司法大臣ノ職務ハ韓國ニ在リテハ統監、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東都督、帝國カ治外法權ヲ行使スル地域ニ於ケル者ニ關シテハ外務大臣之ヲ行ヒ檢事ノ職務ハ檢察官、統監府裁判所檢事、民政署長又ハ領事官之ヲ行フ

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス (参照)

●特赦及減刑ニ關スル制 四十二年九月 勅令第二百十五號

朕特赦及減刑ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 通常裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ特赦又ハ減刑ノ上奏ハ司法大臣之ヲ爲ス

第二條 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ受刑者ノ在監スル監獄ノ長ハ司法大臣ニ特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第三條 特赦又ハ減刑ノ申立書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 判決謄本
 - 二 刑ノ執行指揮書ノ謄本
 - 三 刑期計算書
 - 四 戸籍ノ謄本
 - 五 犯罪ノ情狀、本人ノ性行、受刑中ノ行狀、將來ノ生計其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ニ關スル調査書類
- 第四條 監獄ノ長ノ爲スル特赦又ハ減刑ノ申立ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ
- 第五條 檢事ハ必要ナル事項ニ付調査ヲ爲シタル上意見ヲ附シ申立書ヲ司法大臣ニ進達スヘシ
- 第六條 司法大臣ハ特赦又ハ減刑ノ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ檢事又ハ檢事ヲ經由シテ監獄ノ長ニ通知スヘシ
- 第七條 特赦又ハ減刑ノ裁可アリタルトキハ司法大臣ハ裁可狀ノ謄本ヲ作り刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ之ヲ送付スヘシ
- 第七條 裁可狀ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル檢事ハ直ニ其ノ謄本ヲ作り之ヲ本人ニ下付スヘシ本人假出獄中ナルトキハ其ノ旨ヲ監獄ノ長ニ通知スヘシ
- 本人在監中ナルトキハ其ノ監獄ノ長ニ前項ノ謄本ヲ送致シ下付ノ手續ヲ爲サシムヘシ
- 本人他ノ裁判所ノ管轄區域内ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事ニ謄本ノ下付ヲ囑託スルコトヲ得

第八條 司法大臣ヨリ送付ヲ受ケタル裁可狀ノ謄本ハ之ヲ判決書ニ添附スヘシ

訴訟記録他ノ裁判所ノ檢事局ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事ニ前項ノ手續ヲ爲シタル旨ヲ通知スヘシ

第十一輯 刑事、監獄

前項ノ通知書ハ之ヲ訴訟記録ニ添附スヘシ

第九條 裁可狀ノ謄本ヲ本人ニ下付シタルトキハ檢事又ハ檢事ヲ經由シテ監獄ノ長ハ速ニ其ノ旨ヲ司法大臣ニ申報スヘシ

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●刑事判決ノ正本、謄本及抄本ノ手数料 四十二年十月 統令第三十八號

刑事判決ノ正本、謄本及抄本ノ手数料ニ關スル件左ノ通定ム

刑事判決ノ正本、謄本及抄本ヲ求ムル者ハ其ノ用紙一枚ニ付手数料トシテ金五錢ヲ納付スヘシ其ノ一枚ニ滿タサルトキ亦同シ

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●統監府監獄事務取扱ニ關スル制 四十二年十月 勅令第二百三十九號

朕統監府監獄事務取扱ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 統監府監獄ニ於ケル事務ノ取扱ニ關シテハ普通監獄ニ於ケル例ニ依ル但シ管刑ニ付テハ韓國法規ニ依ル

第二條 監獄事務ニ關シ司法大臣ニ屬スル職務ハ統監之ヲ行フ

第三條 韓國法規ニ定メタル刑ハ左ノ對照ニ依リ其ノ刑名ヲ刑法ノ刑名ト看做ス

韓國法規ノ刑 刑法ノ刑

死刑 死刑

流刑

禁錮

懲役

懲役

禁獄

禁錮

拘留

拘留

第四條 韓國人ニ對スル死刑ハ韓國ノ國忌慶節日ニハ之ヲ執行セス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●監獄領置取扱規程 四十二年十二月 統令第四十五號

統監府監獄

監獄領置品取扱規程左ノ通定ム

監獄領置品取扱規程

第一條 監獄及分監ニ於ケル領置品ハ領置品取扱主任之ヲ保管スヘシ

第二條 典獄ハ部下ノ吏員中ヨリ領置品取扱主任ヲ命スヘシ

第三條 領置品取扱主任ハ典獄又ハ分監長ノ命令ニ依リ領置品ノ出納ヲ爲スヘシ

第四條 領置品取扱主任ハ領置品基帳(第一號 樣式)ヲ設ケ領置品ノ品目、數量、評價格、事由及顛末ヲ登記スヘシ

第五條 領置品取扱主任差入人ヨリ領置品ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ請求アリタルトキハ領收證(第二號 書式)ヲ交付スヘシ

第六條 領置品ヲ交付スルトキハ領收證ヲ徵スヘシ但シ監房ニ携入セシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第七條 領置品ノ内有價證券、實印其ノ他貴重品ト認ムヘキモノハ鎖鑰ヲ施シタル堅牢ナル函ニ藏メテ保管スヘシ

スヘシ

前項以外ノ物品ハ倉庫内ニ納メテ保管スヘシ

第八條 領置品國庫ニ歸屬シタル場合ニ於テハ典獄又ハ分監長ハ領置品取扱主任ヲシテ賣却ノ手續ヲ爲サシムヘシ但シ現品ヲ以テ直ニ慈惠ノ用ニ充テムトスルモノニ付テハ賣却ヲ爲ササルコトヲ得
前項但書ニ依リ賣却ヲ爲ササル物品ハ領置品取扱主任ニ於テ之ヲ保管シ其ノ出納ハ慈惠用品受拂簿(第三號)ニ之ヲ登記スヘシ

第九條 領置品取扱主任故意怠慢ニ依リ領置品ヲ亡失毀損シ爲ニ國庫ニ損失ヲ生セシメタルトキハ典獄又ハ分監長ハ辨償ヲ命スヘシ此ノ場合ニ於テハ事實ヲ詳具シ統監ニ報告スヘシ

第十條 典獄又ハ分監長ハ毎年一回以上部下ノ吏員ニ検査員ヲ命シ領置品ニ關スル帳簿及現在品ヲ検査セシムヘシ領置品取扱主任交替ノ場合亦同シ

前項ノ検査ヲ爲スニ當リ領置品取扱主任死亡其ノ他ノ事故ニ由リ検査ヲ受ケル能ハサルトキハ典獄又ハ分監長ハ他ノ吏員ニ立會人ヲ命スヘシ

検査員第一項ノ検査ヲ了シタルトキハ検査調査ヲ調製シ典獄又ハ分監長ニ提出スヘシ

第十一條 領置品ヲ爲ササル物品ハ假留品トシテ保管シ領置品ノ例ニ依リ取扱フヘシ
領置品取扱主任ハ假留品書留簿(第四號)ヲ設ケ假留品ノ品目、數量、評價格、事由及顛末ヲ登記スヘシ

第十二條 領置品取扱主任ハ没入及廢棄簿(第五號)ヲ設ケ没入又ハ廢棄スヘキ物品ノ品目、數量及事由等ヲ登記シ典獄又ハ分監長ノ決裁ヲ受クヘシ

第一號様式 領置品基帳

入 監	明治何年何月何日	刑名	何刑何年	番 號	第何號	氏 名	何 某
出 監	明治何年何月何日	刑期					

年月日	品目形質	數量	評價	數量	評價	數量	評價	監房差	事由及顛末
何年何月何日	黑羅紗外套	一	一〇〇〇	一	一〇〇〇				何年何月何日賣却(印)
何年何月何日	絹張洋傘	一	五〇〇		五〇〇				何年何月何日差下領收人氏名證印(印)
何年何月何日	縞木綿縮入	二	二〇〇〇						
何年何月何日	練肌著	一	三〇〇						
何年何月何日	木綿三尺帶	一	一〇〇						
何年何月何日	銀側時計	一	三〇〇〇						特別便宜
月 日									以上拜承 在監人氏名證印(印)
何年何月何日	足 袋	二	二〇〇						何某ヨリ差入(印)
月 日									何年何月何日出監ニ付全部下付(印)
月 日									右領收氏名證印

取扱例

一 出納ノ命令ヲ爲シタルトキハ典獄又ハ分監長ハ本帳適宜ノ欄ニ捺印スヘシ但シ他ノ簿書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

二 本帳ハ(郵券)(其他物品)ノ二種ニ區別スヘシ

三 書類、閱讀濟ノ信書類ノ出納ハ便宜ノ帳簿ヲ設ケテ之ニ登記シ本帳ノ登記ヲ略スルコトヲ得

- 四 領置品ノ數量評價ニ對スル認證並下付シタル物品ニ對スル領收ノ證明ハ他ノ書類ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 五 領置品中第七條第一項ニ依リ保管スル物品ニ付テハ本帳當該品ノ欄ニ特別保管ノ印ヲ押捺スヘシ
- 六 監房ニ携入ヲ許シタル物品ニ付テハ其ノ員數ヲ本帳監房差下數量ノ欄ニ登記シ還納セシメタルトキハ常該欄ニ還納ノ印ヲ押捺スヘシ
- 七 領置品ノ評價ハ本人又ハ差入人ノ申立ヲ參酌シテ之ヲ評定スヘシ但シ在監中購買シタル物品ハ其ノ購買價格ニ依ル
- 八 死亡者及逃走者ノ遺留品ニシテ國庫ニ歸屬シタルモノアルトキハ其ノ年月日及事由ヲ記入スヘシ

第二號書式 領收證

在監者 氏名		差入人 氏名
一何品	何箇	
右差入品領收ス		
明治 年 月 日		
何監獄領置品取扱主任 官 氏 名 印		

取扱例
一本證ヲ發スルトキハ領置品基帳ト契印ヲ爲スヘシ
第三號樣式 慈惠用品受拂簿

年 月 日	摘 要	受	拂	殘	品名															
					何	何	何	何	何	何	何	何	何	何						
何年何日	在監人某遺留品國庫ニ歸屬ニ付	二																		
何月何日	出監者某ニ惠與ニ付																			
月 日																				
月 日																				
月 日																				
月 日																				
月 日																				
月 日																				
月 日																				
月 日																				

取扱例

一出納ノ命令ヲ爲シタルトキハ典獄又ハ分監長ハ本簿適宜ノ欄ニ捺印スヘシ但シ他ノ簿書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

七二二

第四號様式 假留品書簿

年月日	品目	數量	評價	事	由	顛	末
何年何月何日	木綿拾羽織	-	二〇〇〇	在監者某ニ宛テ送致シ來リタルモ差出人不明ニ付差入ヲ許可セザリシモノ	何月何日没入		
何月何日	何品	-	五〇〇	在監者某ノ所有品ナルモ領置ヲ解キタルモノ	何月何日金何圓ニテ何某ニ賣却シ代金ヲ領置ス		
月日							
月日							
月日							
月日							
月日							
月日							
月日							
月日							

月日

取扱例

一出納ノ命令ヲ爲シタルトキハ典獄又ハ分監長ハ本簿適宜ノ欄ニ捺印スヘシ但シ他ノ簿書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第五號様式 没入及廢棄簿

月日	典獄 決裁	主任 認印	品目	數量	事	由	處	分
何月何日	印	印	木綿拾羽織	-	在監者某ニ宛テ送致シ來リタルモ差出人不明ニ付差入ヲ許可セザルモノ	没入シ金何圓ニテ何某へ賣却シ可然哉何月何日賣却濟		
月日								
月日								
月日								
月日								
月日								
月日								
月日								
月日								

月 日
月 日
月 日

監獄職員銃器携帯ノ制 明治四十二年十一月

監獄職員ニ於テ、職務ノ外ノ作業ニ銃ヲ受持者、戒嚴、要所ノ警備及護送ニ從事スル者ニ、常ニ銃ヲ携帯セシム。
前項ノ外典章ニ於テ必要ト認めタル場合、於テハ戒嚴ニ從事スル監獄職員ニ臨時ニ銃ヲ携帯セシム。

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス。

第十二輯 裁判

第十二輯 裁判

● 統監府裁判所司法事務取扱令

四十二年十月
勅令第二百三十七號

朕統監府裁判所司法事務取扱令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
統監府裁判所司法事務取扱令

第一章 總則

第一條 統監府裁判所ニ於ケル司法事務ノ取扱ニ關シテハ通常裁判所ニ於ケル例ニ依ル

第二條 司法事務ニ關シ司法大臣ニ屬スル職務ハ統監之ヲ行フ

第三條 執達吏ニ屬スル職務ハ統監府裁判所書記之ヲ行フ但シ裁判所又ハ檢事局ノ長ハ警察官吏其ノ他適當ト認ムル者ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第四條 辯護士ノ行フヘキ職務ハ韓國ノ辯護士亦之ヲ行フコトヲ得

第五條 裁判所ハ必要ナル場合ニ於テ辯護士ニ非サル者ヲ訴訟代理人又ハ辯護人ニ選任スルコトヲ得

第二章 民事訴訟手續

第六條 民事ノ當事者ハ辯護士ノアルトキト雖裁判所ノ許可ヲ得テ訴訟能力者ヲ代理人ト爲スコトヲ得

前項ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第七條 假住所ニ於テスル送達ハ之ヲ受クヘキ人ニ出會サルトキハ假住所ノ主人又ハ成長シタル同居ノ親族若ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第八條 書記裁判所内ニ於テ送達ヲ受クヘキ者ニ書類ヲ交付シ受取證ヲ差出サシメタルトキハ送達ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ生ス

第九條 訴訟關係人カ期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シタルトキハ期日呼出ヲ爲シタルト同一

ノ效力ヲ生ス

第十條 期日ノ變更又ハ期間ノ伸長ハ當事者合意ノ場合ト雖相當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ許サス

第十一條 受命判事又ハ受託判事ハ檢證ノ場合ニ於テ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ決定ヲ待タス檢證事項ニ關シ證人ヲ訊問シ又ハ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第十二條 證人及鑑定人ハ之ヲ忌避スルコトヲ得ス

第十三條 判決ハ職權ヲ以テ之ヲ送達ス

第十四條 判決ノ送達ハ其ノ正本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第十五條 再度ノ開席判決ニ對シテハ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十六條 控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ原裁判所ニ差出シテ之ヲ爲ス

第十七條 判然許スヘカラサル控訴又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス若ハ其ノ期間ノ經過後ニ起シタル控訴ハ原裁判所決定ヲ以テ之ヲ却下ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第十八條 前條ノ場合ヲ除クノ外控訴ノ提起アリタルトキハ書記ハ速ニ訴訟記録ト共ニ控訴狀ヲ控訴裁判所ニ送致スヘシ

第十九條 控訴裁判所ハ事件ヲ原裁判所ニ差戻スヘキ場合ニ於テモ當事者合意ノ申立アルトキハ直ニ本案ノ辯論及判決ヲ爲スコトヲ得

第二十條 事件ノ移送又ハ差戻ノ判決ヲ受ケタル當事者カ其ノ判決確定ノ日ヨリ六月内ニ移送又ハ差戻ヲ受ケタル裁判所ニ口頭辯論期日指定ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ申請ヲ爲ス權ヲ失フ

第二十一條 第十五條乃至第十七條ノ規定ハ上告ニ之ヲ準用ス

第二十二條 檢事ハ必要ト認ムルトキハ裁判所ノ通知ヲ求メ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十三條 民事訴訟法第五編ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三章 刑事訴訟手續

第二十三條 裁判所ハ官吏、公吏ノ作リタル書類ニシテ刑事訴訟法第二十條、第二十一條其ノ他同法規定ノ形式ニ瑕疵アルモノニ付テハ當該官吏、公吏ヲシテ之ヲ補正セシメ有效ナラシムルコトヲ得

第二十四條 刑事訴訟法第七十八條及第四百條ノ規定ニ依リ市町村長ノ立會ヲ要スル場合ニ於テハ相當ノ立會人アルヲ以テ足ル

第二十五條 檢事ハ急速ノ處分ヲ要スルモノト思料スルトキハ公訴提起前ニ限り檢證、搜索、物件差押ヲ爲シ又ハ被告人、證人ヲ訊問シ若ハ鑑定ヲ命スル等豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ拘留狀ヲ發シ罰金、科料及費用賠償ノ言渡ヲ爲シ又ハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二十六條 檢事ハ司法警察官ヲシテ前項ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條 裁判所又ハ豫審判事ハ必要ナル場合ニ於テハ司法警察官ヲシテ檢證、搜索、物件差押ヲ爲シ又ハ證人ヲ訊問シ若ハ鑑定ヲ命セシムルコトヲ得

第二十八條 前項ノ場合ニ於テハ司法警察官ハ罰金、科料及費用賠償ノ言渡ヲ爲シ又ハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十九條 受命判事又ハ受託判事ハ檢證ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ノ決定ヲ待タス搜索物件差押ヲ爲シ證人ヲ訊問シ又ハ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第三十條 裁判所ハ公判開廷前ト雖檢證、搜索、物件差押又ハ證人、鑑定人ノ呼出ヲ決定スルコトヲ得

第三十一條 刑事訴訟法第二百三十七條及第二百六十四條第三項ノ規定ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該當スヘキ事件ニ限り之ヲ適用ス

第三十二條 裁判所ハ一年以下ノ懲役、禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノト認メタル事件ニ於テ被告人カ其ノ罪ヲ自白シタルトキハ他ノ證憑ノ取調ヲ爲ササルコトヲ得

第三十三條 一年以下ノ懲役、禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ヲ言渡シタル判決ニ付テハ證據ニ關スル理由ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ控訴ノ申立アリタルトキハ判決裁判所ハ理由書ヲ作成シ記録ト共ニ之ヲ控訴裁判所ニ送

略スルコトヲ得

第十二輯 裁判

七二七

致スヘシ

第三十二條 刑事訴訟法第二百六十九條ノ場合ヲ除クノ外第一審ノ訴訟手續カ法律ニ違ヒタルコトアリト雖判決ニ影響ヲ及ホササルトキハ控訴裁判所ハ控訴ヲ棄却スヘシ

第三十三條 故障、控訴、上告又ハ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ハ期間内ト雖其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第三十四條 辯護人ハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

韓國ニ於ケル裁判事務取扱規則ハ之ヲ廢止ス

●韓國人ニ係ル司法ニ關スル制 四十二年十月 勅令第二百三十八號

朕韓國人ニ係ル司法ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 統監府裁判所ハ本令其ノ他ノ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外韓國人ニ對シテハ韓國法規ヲ適用ス

第二條 韓國人ト韓國人ニ非サル者トノ間ノ民事事件ニ付テハ左ノ變更ヲ以テ日本法規ヲ適用ス但シ韓國人ニ對スル裁判ノ執行ハ韓國法規ニ依ル

一 原告又ハ被告口頭辯論ノ期日ニ出頭セサル場合ニ於テハ裁判所適當ナリト思料シタルトキニ限り申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ闕席判決ヲ爲スコトヲ得

二 民事訴訟法第一百一條第二項第三項第二百十條、第二百四十六條乃至第二百四十八條、第二編第二章第二節、第四百二十八條及第四百二十九條ノ規定ハ之ヲ適用セス

三條 檢事又ハ司法警察官ハ統監ノ許可ヲ受ケ韓國ノ親任官又ハ勅任官ヲ逮捕スルコトヲ得但シ急速ヲ要スルトキハ直ニ之ヲ逮捕シ報告ヲ爲スヘシ

第四條 假出獄ニ關スル規定ハ韓國法規ニ依リ處刑セラレタル者ニ亦之ヲ適用ス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●裁判上共助ニ關スル制 四十年九月 法律第五十二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル裁判所、臺灣總督府法院、統監府法務院又ハ理事廳ト關東都督府法院トノ間ニ於ケル法律上ノ共助ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

裁判所及臺灣總督府法院共助法ノ規定ハ裁判所、臺灣總督府法院、統監府法務院又ハ理事廳ト關東都督府法院トノ間ニ於ケル法律上ノ共助ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

●裁判所及臺灣總督府法院共助法 三十三年五月 法律第八十三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル裁判所及臺灣總督府法院共助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

裁判所及臺灣總督府法院共助法

第一條 民事及刑事ニ關シ裁判所及臺灣總督府法院ノ間ニ於テハ相凡ニ左ノ事項ヲ囑託スルコトヲ得

- 一 訴訟書類ノ送達
- 二 證據調
- 三 令狀ノ執行

第二條 共助ニ關スル費用及囚人刑事被告人ノ押送ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十二輯 裁判

●裁判上共助ニ關スル費用及囚人刑事被告人押送ニ

關スル制 四十二年九月
勅令第二百九十二號

朕裁判所、臺灣總督府法院、統監府法務院又ハ理事廳及關東都督府法院共助ニ關スル費用及囚人刑事被告人押送ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 裁判所、臺灣總督府法院、統監府法務院又ハ理事廳及關東都督府法院相互ノ間ニ於ケル共助ニ關スル費用ハ囑託ヲ受ケタル各官署ノ支辨トス

第二條 囚人及刑事被告人ノ押送ニ關スル手續ハ押送地ノ規定ニ依リ其ノ費用ハ押送ヲ爲ス各官署ノ支辨トス但シ内地、臺灣、韓國及關東州相互ノ間ニ於ケル航海中ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●判決執行ニ關スル共助ニ關スル制 四十二年四月
法律第三十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル裁判所、臺灣總督府法院、統監府法務院及理事廳ノ判決ノ執行ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 裁判所ノ言渡シタル民事ノ判決ハ其ノ執行力アル正本ニ基キ臺灣及韓國ニ於テ、臺灣總督府法院、統監府法務院及理事廳ノ言渡シタル民事ノ判決ハ其ノ執行力アル正本ニ基キ内地ニ於テ各其ノ強制執行ヲ爲スコトヲ得但シ執行地ノ法令ニ依リ許スヘカラサル請求ニ付テノ強制執行ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 裁判所ノ言渡シタル刑事ノ判決ハ臺灣總督府地方法院檢察官又ハ理事廳理事官ニ、臺灣總督府法院、統監府法務院及理事廳ノ言渡シタル刑事ノ判決ハ地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事ニ各其ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得但シ死刑又ハ管刑ヲ言渡シタル判決ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ囑託ヲ爲スニハ判決原本ヲ送付スヘシ

第三條 裁判所及臺灣總督府法院ノ言渡シタル刑ニシテ刑名同シキモノハ其ノ執行ニ關シテハ同一ノ刑ト看做ス

第四條 臺灣總督府法院ノ言渡シタル判決ヲ韓國ニ於テ、統監府法務院及理事廳ノ言渡シタル判決ヲ臺灣ニ於テ執行スルコトニ關シテハ前三條ノ例ニ依ル

●外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法 三十八年三月
法律第六十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法

第一條 裁判所ハ外國裁判所ノ囑託ニ因リ民事及刑事ノ訴訟事件ニ關スル書類ノ送達及證據調ニ付法律上ノ補助ヲ爲ス

法律上ノ補助ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第二條 受託事項カ他ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ受託裁判所ハ囑託ヲ管轄裁判所ニ移送スヘシ

●執達吏ニ屬スル職務ヲ行フ場合ニ於ケル手数料 四十二年十月
勅令第三十六號

執達吏ニ屬スル職務ヲ行フ場合ニ於ケル手数料ニ關スル件左ノ通定ム
執達吏ニ屬スル職務ヲ行フ場合ニ於ケル手数料ハ執達吏手数料規則ノ例ニ依ル
官吏ニ非サル者執達吏ノ職務ヲ行ヒタルトキノ手数料ハ其ノ者ノ所得トス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●辯護士規則

四十二年十月
統令第三十四號

辯護士規則左ノ通定ム

辯護士規則

第一條 統監府裁判所ニ於テ辯護士ノ職務ヲ行フ者ハ辯護士名簿ニ登録セラルルコトヲ要ス

第二條 各地方裁判所検事局ニ辯護士名簿ヲ置ク

辯護士ハ其ノ氏名ヲ登録シタル地方裁判所ノ所屬トス

第三條 左ニ記載シタル者ハ辯護士名簿ノ登録ヲ申請スルコトヲ得

一 辯護士法ニ依リ辯護士タルノ資格ヲ有スル者

二 韓國人辯護士試験ニ合格シタル者

三 韓國人ニシテ韓國ノ判事、検事、辯護士又ハ統監府裁判所ノ判事、検事タリシ者

第四條 左ニ記載シタル韓國人ハ辯護士名簿ニ登録セラルルコトヲ得ス

一 禁獄又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 懲戒處分ニ因リ判事、検事若ハ辯護士ノ資格ヲ喪失シタル者

第五條 辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ登録ヲ受ケムトスル地方裁判所検事局ヲ經由シテ統監ニ申請書ヲ差出スヘシ

登録申請書ニハ資格ニ關スル證明書ヲ添附スヘシ

第六條 地方裁判所検事局ニ於テ登録申請書ヲ受理シタルトキハ檢事正ハ第三條及第四條ノ要件ヲ調査シ意見ヲ附シテ之ヲ統監ニ差出スヘシ

第七條 辯護士名簿ノ登録ハ統監ノ命令ニ依リ地方裁判所検事局之ヲ爲ス

第八條 辯護士名簿ノ登録ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ所屬地方裁判所検事局之ヲ爲ス

一 申請アリタルトキ

二 死亡シタルトキ

三 除名セラレタルトキ

四 第四條ニ該當シタルトキ

第九條 辯護士名簿ノ登録又ハ其ノ取消ヲ申請スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ

一 新規登録 金二十圓

二 登録換 金十圓

三 登録ノ取消 金一圓

手数料ノ納付ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ爲スヘシ

第十條 地方裁判所検事局ニ於テ辯護士名簿ニ登録ヲ爲シタルトキハ其ノ登録ノ番號及年月日ヲ統監ニ報告シ且之ヲ本人ニ通知スヘシ

登録ヲ取消シタルトキ亦前項ニ準ス

第十一條 辯護士名簿ノ登録又ハ其ノ取消ヲ爲シタルトキハ統監府公報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十二條 辯護士ハ所屬地方裁判所又ハ其ノ管内ノ區裁判所所在地ニ事務所ヲ設ケ之ヲ所屬地方裁判所検事局ニ届出ツヘシ

所屬地方裁判所管轄地外ニ事務所ヲ設ケタルトキハ所屬地方裁判所検事局及事務所所在地ノ地方裁判所検事局ニ之ヲ届出ツヘシ

第十三條 辯護士ハ所屬地方裁判所毎ニ辯護士會ヲ設クヘシ但シ五人ニ滿タサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ辯護士五名以上ニ達シタルトキハ三十日以内ニ辯護士會ヲ設クヘシ

第十四條 監督官ハ事情ニ因リ韓國人辯護士ヲシテ別ニ辯護士會ヲ設ケシメ又ハ韓國人辯護士ニ辯護士會ニ加入スルコトヲ免シ若ハ其ノ退會ヲ許スコトヲ得

第十五條 辯護士ハ辯護士會ニ加入シタル後ニアラサレハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス但シ辯護士會ノ設立ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 辯護士及辯護士會ハ所屬地方裁判所檢事正ノ監督ヲ受ク

第十七條 監督官ハ辯護士ノ職務ニ關スルト否トヲ問ハス其ノ品位ヲ汚損スヘキ行狀ニ付諭告ヲ爲スコトヲ得

第十八條 監督官ハ辯護士ノ會議ニ臨席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第十九條 辯護士會ニ會長ヲ置ク又常議員ヲ置クコトヲ得

會長及常議員ハ辯護士ノ總會ニ於テ之ヲ選舉シ監督官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ定メ監督官ヲ經由シテ統監ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 辯護士會會則ニハ會長、常議員ノ選舉、職務、任期ニ關スル規程、議事ニ關スル規程、辯護士ノ風紀保持ニ關スル規程並報酬金ニ關スル規程其ノ他會務ノ處理ニ必要ナル規程ヲ設クヘシ

第二十二條 辯護士會ノ設クナキ場合又ハ第十四條ニ依リ辯護士會加入ヲ免シ若ハ其ノ退會ヲ許シタル場合ニ於テハ監督官ハ辯護士會會則ニ代ルヘキ命令ヲ發スヘシ

第二十三條 第十二號第二項ノ場合ニハ事務所在地ノ地方裁判所檢事正ノ監督ヲ受ケ且其ノ地ノ辯護士會會則又ハ之ニ代ルヘキ監督官ノ命令ヲ遵守スヘシ

前項ノ規定ハ所屬地方裁判所檢事正ノ監督權及必要ナル限度ニ於テ所屬辯護士會會則又ハ之ニ代ルヘキ監督官ノ命令ヲ遵守スヘキ義務ニ影響ヲ及ホスコトナシ

第二十四條 辯護士會議ノ日時、場所及議題ハ辯護士會ヨリ豫メ之ヲ監督官ニ届出ツヘシ

第二十五條 辯護士會議ニ於テハ左ノ事項ノ外議スルコトヲ得ス

一 法令又ハ辯護士會會則ニ規定シタル事項

二 統監、裁判所又ハ檢事局ヨリ諮問シタル事項

第二十六條 辯護士會議ノ議決ニシテ法令又ハ辯護士會會則ニ違反スルモノアルトキハ統監ハ之ヲ無効トスルコトヲ得

第二十七條 辯護士本令又ハ辯護士會會則若ハ監督官ノ命令ニ違反スル所爲アルトキハ監督官ハ會長ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ懲戒處分ヲ統監ニ申請スヘシ

第二十八條 懲戒ハ左ノ四種トシ統監之ヲ行フ

一 譴責

二 三百圓以下ノ過料

三 一年以下ノ停職

四 除名

第二十九條 懲戒處分ハ統監府公報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三十條 辯護士名簿ハ別記様式ニ依ル

第三十一條 本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條 明治四十二年統監府令第九號辯護士規則ハ之ヲ廢止ス

第三十三條 本令施行ノ際理事廳及韓國裁判所檢事局ニ於テ辯護士名簿ニ登録アル者ハ本令施行ノ日ヨリ三十日內ニ本令ニ規定シタル辯護士名簿ノ登録ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ手数料ヲ免除ス

第三十四條 前條ノ申請ヲ爲シタル者ハ其ノ申請ノ日ヨリ辯護士ノ職務ヲ行フコトヲ得

第三十五條 本令施行前ニ係ル辯護士ノ所爲ト雖本令ニ照シ懲戒スヘキモノアルトキハ本令ニ依リ之ヲ懲戒ス

第三十六條 明治四十二年七月二十四日以前ニ理事官ノ許可ヲ得タル訴訟代理業者ハ當分ノ内其ノ理事廳所

附則

第十三輯 租 稅

第十三輯 租 稅

●租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託方

四十年四月
法律第三十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 法令ノ規定ニ依リ國稅ヲ徵收セラルヘキ者又ハ其ノ者ノ財產ニシテ其ノ法令施行地外ニ在ルトキハ

當該官吏ハ本人又ハ財產所在地ノ當該官吏又ハ吏員ニ其ノ徵收ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル國稅ノ徵收ハ囑託ヲ受ケタル地ノ當該法令ニ依ル

第二條 前條ノ規定ハ公共團體又ハ之ニ準スヘキモノノ租稅其ノ他ノ收入ヲ徵收セラルヘキ者又ハ其ノ者ノ財產カ其ノ公共團體又ハ之ニ準スヘキモノノ區域外ニ在ル場合ニ之ヲ準用ス

(參照)

●國稅徵收法

三十年三月
法律第二十一號

改正

三十五年
法律三六號

三八年
四六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法

第一章 總 則

第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル

第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第三條 納稅人ノ財產上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス

第四條ノ一 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ

之ヲ徵收スルコトヲ得

- 一 國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
 - 二 府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
 - 三 強制執行ヲ受クルトキ
 - 四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
 - 五 競賣ノ開始アリタルトキ
 - 六 法人カ解散ヲ爲シタルトキ
 - 七 納稅人脫稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ
- 第四條ノ二 前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手数料及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セシ
- 督促手数料及滯納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先チテ之ヲ徵收ス但シ第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手数料及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セシ
- 第四條ノ三 相續開始ノ場合ニ於テハ國稅、督促手数料及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戸主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得
- 國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ國稅、督促手数料及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス
- 第四條ノ四 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル國稅、督促手数料及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス
- 第四條ノ五 同年ノ地租、營業稅、所得稅、醬油稅及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ稅金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ稅金ニ充ツルコトヲ得

第四條ノ六 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納稅代理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル

第四條ノ七 納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財産管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス

第四條ノ八、書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國內ニ住所、居所アラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ稅金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

前項地租徵收ノ費用ハ其ノ市町村ノ負擔トシ其ノ他ノ國稅ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間稅金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ但

シ第四條ノ一ニ依リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス
前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料ヲ徵收ス

第三章 滯納處分

第十條 左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ財産ヲ差押フヘシ

- 一 納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手数料及税金ヲ完納セサルトキ
- 二 第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納稅者納期ノ到ラサル國稅納付ノ告知ヲ受ケ税金ヲ完納セサルトキ

第十一條 收稅官吏滯納處分ノ爲財産ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證票ヲ示スヘシ
第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ督促手数料、滯納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ止ム

第十三條 收稅官吏滯納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日前マテニ所有者タルノ證憑ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ツヘシ

第十五條 滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財産ノ差押ヲ免ルル爲故意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知リ讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ヲ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 一 滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及厨具
- 二 滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭
- 三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印
- 四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地

五 系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付類

六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣

七 勳章其ノ他名譽ノ章票

八 滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具

九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ

第十七條 左ニ掲クル物件ハ他ニ督促手数料、滯納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス

- 一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料
- 二 職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラルコトナシ

第二十條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ヲ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

第三者ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滯納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得

前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族雇人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員制

町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區長及市町村吏員若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 動産及有價證券ノ差押ハ收稅官吏占有シテ之ヲ爲ス但シ差押物件運搬ヲ爲スニ困難ナルトキハ

市町村長、滞納者又ハ第三者ヲシテ保管ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ

差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

第二十三條ノ一 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ政府ハ督促手數料、滞納處分費及稅金額ヲ限度トシテ債權者ニ代位ス

第二十三條ノ二 債權及所有權以外ノ財產權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ其ノ權利者ニ通知スヘシ

前項ノ財產權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登錄ヲ要スルモノニ在リテハ差押ノ登記又ハ登錄ヲ關係官廳ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ニ付テモ亦同シ

第二十三條ノ三 不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

差押ノ爲不動産ヲ分割又ハ區分シタルトキハ收稅官吏ハ分割又ハ區分ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ合併又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

第二十三條ノ四 差押ノ解除ニ關シテハ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要セス

第二十四條 差押ヘタル動産、有價證券、不動産及第二十三條ノ一ニ依リ收稅官吏カ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除クノ外公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上クルコトヲ得

債權及所有權以外ノ財產權ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滞納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接ト問ハス其ノ賣却物

件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滞納處分費ハ財産ノ差押、保管、運搬、公賣ニ關スル費用及通信費トス

第二十八條 物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨及第二十三條ノ一ニ依リ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル通貨ハ督促手數料、滞納處分費及稅金ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ交付ス

賣却シタル物件質權、抵當權ノ目的物タルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、滞納處分費及稅金ヲ控除シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテラ債權者ニ交付シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ交付ス但シ第三條ニ掲ケタル質權、抵當權ノ目的タル物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、滞納處分費ヲ徴シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテラ債權者ニ交付シ次ニ稅金ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ交付ス

第二十九條 會社ニ對シ滞納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ督促手數料、滞納處分費及稅金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 此ノ法律ニ依リ債權者又ハ滞納者ニ交付スヘキ金錢ハ之ヲ供託スルコトヲ得

第三十一條 滞納處分ヲ結了シ若ハ之ヲ中止シタルトキハ納稅義務及督促手數料、滞納處分費納付ノ義務ハ消滅ス

第四章 罰則

第三十二條 滞納者又ハ滞納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

沖繩縣及東京府管内小笠原島、伊豆七島ニハ當分ノヲ施行セス
市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指
定ス

北海道水産物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第
四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●國稅徵收法施行規則

三十五年四月
勅令第三百三十五號

改正

三十八年
勅令六七號

朕國稅徵收法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法施行規則

第一條 收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納
稅告知書ヲ發スヘシ但シ金庫ニ納付セシムル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得

第二條 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏書面ヲ以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知スヘシ

市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘ
シ

第三條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到ラサル稅金ヲ徵收セムトスルトキハ納期日ヲ定メ第一條ノ告
知又ハ第二條ノ通知ヲ爲スト同時ニ其ノ旨告知又ハ通知スヘシ

納稅告知ヲ爲シタル後國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期日前之ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ納期日
ノ變更ヲ納稅人ニ告知スヘシ

前項ノ國稅ニシテ市町村ノ徵收スルモノナルトキハ納稅人ニ告知スルト同時ニ其ノ旨市町村ニ通知スヘシ
第四條 市町村ニ於テ稅金ヲ徵收シタルトキハ領收證ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第五條 市町村ニ於テ徵收シタル稅金ハ送付書ヲ添ヘ漸次之ヲ金庫ニ送付スヘシ但シ納期後三日ヲ過クルコ
トヲ得ス

第六條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由
シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條 市町村ハ納期内ニ稅金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額滯納ノ
事由ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第八條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ掲クルモノニシテ納期ニ到リ稅金ノ徵
收ヲ完ウスルコト能ハスト認ムルモノニ限ル

一 納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅

二 造石數査定濟ノ酒類、酒精、酒精含有飲料並醬油ノ造石稅及造石數査定濟ノ麥酒稅

三 當該年分ノ自家用醬油製造稅

第九條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告ス
ヘシ

納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前二項ノ申告ハ其ノ市町村ヲ經由スヘシ

第十條 國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ

第十一條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ納稅者ニ對シ督促狀ヲ發ス
ヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ手数料トシテ金十錢ヲ徵收ス

第十二條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財産ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ督促手数料、滯納處分費及稅

金額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ
國稅ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前項ノ通知ヲ受ケ其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證憑書類ヲ添ヘ其ノ事實ヲ證明スヘシ

第十三條 民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ強制管理人ニ通知スヘシ假處分ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキ亦之ニ準ス

第十四條 差押フヘキ財産管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産所在地ノ收稅官吏ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十五條 差押フヘキ財産數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均キモノトシテ處分スヘシ

第十六條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタルトキハ差押調書ニ通ヲ作り立會人ト共ニ之ニ署名捺印シ其ノ一通ハ立會人ニ交付スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ

差押調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所
- 二 差押財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所在ヲ明ニスル事項
- 三 差押ノ事由
- 四 調書ヲ作りタル場所年月日

前二項ノ規定ハ債權ノミノ差押ニハ之ヲ適用セス

第十七條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ督促手数料、滯納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財産ノ差押ヲ解クヘシ

第十八條 公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十九條 國稅徵收法第二十四條ニ依リ公賣ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所
- 二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所在ヲ明ニスル事項
- 三 入札又ハ競賣ノ場所、日時
- 四 開札ノ場所、日時
- 五 保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額
- 六 代金納付ノ期限

第二十條 財産公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ

落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金ハ之ヲ政府ノ所得トス

第二十一條 公賣ハ財産所在ノ市區町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 公賣ハ公告ノ初日ヨリ十日ノ期間ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相應ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ虞アルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 財産ヲ公賣セムトスルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置クヘシ

第二十四條 賣却シタル財産ニ付滯納者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ

前項ノ期間内ニ滯納者其ノ手續ヲ爲ササルトキハ收稅官吏ハ滯納者ニ代リテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同キトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

第二十六條 財産ヲ公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコトアルヘシ

第二十七條 公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限マテニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ收税官吏ハ其ノ買買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第二十八條 前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第二十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第二十九條 國稅徵收法第四條ノ一第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於テハ收税官吏ハ當該官廳、公共團體、執行裁判所、執達吏、強制管理人、破産主任官又ハ清算人ニ督促手数料、滯納處分費及滯納税金ノ交付ヲ求ムヘシ但シ他ニ差押フヘキ財産アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨ケス

第三十條 滯納處分ヲ結了シタルトキハ收税官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作り之ヲ滯納者ニ交付スヘシ賣却シタル財産ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ收税官吏ニ求ムルコトヲ得

第三十一條 納稅告知督促及滯納處分ニ關スル公告ハ稅務署ニ之ヲ爲スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ稅務署ノ外適當ノ場所ニ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

附則

第三十二條 市制町村制ヲ施行セサル地方稅務署所在ノ地ヲ除クノ戶長ハ稅務署收税官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒精、酒精含有飲料並糖油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除クヲ徵收シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第三十三條 前條ニ依リ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ納期內ニ完納セサル者アルトキハ戶長ハ本則中ニ規定セル市町村ノ例ニ準シ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第三十四條 本令中市町村ニ關スル規定ハ國稅徵收法第三十三條ニ依リ指定セラレタル公共團體ニ之ヲ準用ス

第三十五條 本令ハ明治三十五年法律第三十六號國稅徵收法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年勅令第二百二十一號ハ之ヲ廢止ス

●韓國政府ノ公布シタル法令ニ定ムル税金ヲ理事官ナシテ

強制徵收セシムル制 明治四十二年五月 統令第十五號 改正 四十二年 統令二五號

左ニ指定スル韓國政府ノ公布シタル法令ニ定ムル税金又ハ賦課金ヲ期限內ニ納付セサル者アルトキハ理事官ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ國稅徵收法第三十二條ニ當ル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 明治四十二年統監府告示第十二號ヲ以テ其ノ譯文ヲ告示シタル家屋稅法、酒稅法及煙草稅法
- 二 明治四十一年統監府告示第二百二十二號及明治四十二年統監府告示第六十一號ヲ以テ其ノ譯文ヲ告示シタル地稅ニ關スル伴並地方費法

前項ノ韓國法令中罰則ノ規定ニ違背シタル者アルトキハ理事官ハ二十五圓以下ノ過料ニ處シ之ヲ徵收ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四輯 學事及時

第十四輯 學事及時

●御影竝 勅語謄本奉置心得

四十二年五月
統訓第十四號

御影竝 勅語謄本奉置心得

第一條 御影ハ學校内ニ特別ナル奉置所ヲ設ケ若ハ校舍内ニ最清淨ナル場所ヲ選ヒ一室又ハ一區域ヲ設ケ唐櫃等ニ納メ最尊重ニ奉置スヘシ

學校ニ適當ナル場所ナキトキハ理事廳民團役所等ニ於テ前項ニ準シ奉置スルコトヲ得

第二條 勅語謄本ハ 御影ト共ニ奉置所ニ奉置スヘシ

勅語謄本ノミヲ下付セラレタル學校ニ在リテハ校舍内最清淨ナル場所若ハ職員室内ノ高所ニ尊重ニ奉置スヘシ

第三條 御影竝 勅語謄本ヲ奉置セル學校ニ在リテハ職員ヲシテ宿直セシムヘシ

勅語謄本ノミ奉置セル學校ニ於テモ亦同シ

學校内ニ教員住宅ノ設アリテ管守ヲ缺カサルモノハ特ニ宿直ヲ置クコトヲ要セス

第四條 非常變災ノ爲豫メ奉遷所ヲ定メ置クヘシ

第五條 御影竝 勅語謄本ハ儀式ヲ舉行スル場合ノ外他ニ假用セシムルコトヲ得ス

第六條 御影竝 勅語謄本奉置ノ學校ニシテ廢校シタル場合ハ 御影竝 勅語謄本ヲ返納スヘシ

●在外指定學校ニ關スル規程

三十八年十一月
文令第二十號

在外指定學校ニ關スル規程左ノ通相定ム

在外指定學校ニ關スル規程

第一條 在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法第一條ニ關シ指

- 定ヲ受ケントスルトキハ學校ノ設立者若ハ其ノ代表者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ外務文部兩大臣ニ申請スヘシ
- 一 學校ノ名稱
 - 二 學校ノ沿革
 - 三 學則
 - 四 職員ノ氏名及其ノ履歷書
 - 五 現在生徒學年別及學級別人員
 - 六 校地校舍及附屬舍等ノ平面圖
 - 七 學校經費ニ關スル收入支出豫算
- 前項第一號第三號ノ變更ハ外務文部兩大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二條 學則ニ規定スヘキ事項概テ左ノ如シ
- 一 修業年限、學年、學期、休日ニ關スル事項
 - 二 學科課程教授時數ニ關スル事項
 - 三 生徒ノ入學、退學、課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項
 - 四 授業料入學料等ヲ徵收スルトキハ之ニ關スル事項
 - 五 寄宿舎ヲ設クルトキハ之ニ關スル事項
- 第三條 第一條ノ申請ニ基キ外務文部兩大臣ニ於テ指定ヲ爲スヘキ學校ハ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具フルモノニ限ル
- 第四條 第一條ニ依リ指定セラレタル學校ヲ廢止セントスルトキハ其ノ事由並生徒ノ處分方法ヲ具シ外務文部兩大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 小學校ノ教科ヲ授クル在外指定學校ノ訓導ニハ小學校ノ正教員タルヲ得ヘキ免許狀ヲ有スル者ヲ、准訓導ニハ小學校ノ准教員タルヲ得ヘキ免許狀ヲ有スル者ヲ採用スヘシ

- 學校長ヲ採用スルトキハ小學校ノ本科正教員タルヲ得ヘキ免許狀ヲ有スル者タルヘシ
- 第六條 中學校、高等女學校ノ教科ヲ授クル在外指定學校ノ教諭、助教諭ニハ中學校ノ教員免許狀又ハ高等女學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ採用スヘシ但シ高等女學校ノ教科ヲ授クル學校ニ於テハ第二學年以下ノ教授ヲ擔任セシムル爲小學校本科正教員タルヲ得ヘキ免許狀ヲ有スル者ヲ採用スルコトヲ得
- 第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ何等ノ名稱ヲ以テスルモ在外指定學校ノ職員ニ採用スルコトヲ得ス
- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニアラス
 - 二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサルモノ
 - 三 懲戒ニ依リ免官若ハ免職ニ處セラレタル後二箇年ヲ經過セサル者
 - 四 教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經過セサル者
 - 五 明治二十九年法律第八十號ニ依リ在留禁止ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ解禁後二箇年ヲ經過セサル者
 - 六 性行不良ト認ムヘキ者
- 第八條 在外指定學校職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然其ノ職ヲ解カレタルモノトス
- 一 教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタルトキ
 - 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 - 三 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキ
 - 四 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 第九條 居留民團ノ設立ニ係ルモノヲ除ク外在外指定學校ノ職員ノ採用、解職、増俸、減俸其ノ他ノ進退ヲ爲スニハ學校ノ設立者又ハ其ノ代表者ニ於テ所管領事官ノ認可ヲ受クヘシ但シ第十九條ノ命令ニ基キ解職スル場合ハ此ノ限ニアラス
- 第十條 居留民團ノ設立ニ係ル在外指定學校ノ學校長、教諭、助教諭、訓導、舍監及書記ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ所管領事官ハ之ニ休職ヲ命スルコトヲ得但シ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニ就キ

テハ外務文部兩大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

- 一 學校編制ノ變更事務ノ伸縮等ニ依リ其ノ人ヲ要セサルトキ
- 二 傷痍若ハ疾病ニ罹リ職務ヲ行フニ妨ケアルトキ
- 三 刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

第十一條 居留民團ノ設立ニ係ル在外指定學校ノ學校長、教諭、助教諭、訓導、舍監及書記ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタルトキハ當然休職者トス

第十二條 休職ノ期間ハ第十條第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ一箇年トシ同條第三號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ第十一條ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後向三箇月トス

第十三條 休職者ハ職務ニ從事セス及俸給ヲ減セラレ又ハ全ク之ヲ受ケサルノ外總テ本職者ト異ルコトナシ
第十四條 居留民團ノ設立ニ係ル在外指定學校ノ職員ニシテ服務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ所管領事官ハ懲戒處分ヲ行フ其處分ハ譴責、減俸及免職トス

第十五條 懲戒ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス
第十六條 居留民團ノ設立ニ係ル在外指定學校職員ニ對シ懲戒處分ヲ行フトキハ本人ニ處分書ヲ交付スヘシ
第十七條 減俸ハ一箇月以上一箇年以下俸給月額三分ノ一以下ヲ減ス

第十八條 第十四條乃至第十七條ノ規定ハ委任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル在外指定學校ノ職員ニハ之ヲ適用セス

第十九條 第十四條規定以外ノ在外指定學校ノ職員ニシテ同條ニ該當セル所爲アリト認メタルトキハ所管領事官ハ學校ノ設立者又ハ其ノ代表者ニ對シ其ノ解職ヲ命スルコトヲ得

第二十條 領事官ハ第十四條又ハ前條ニ依リ免職又ハ解職セラレタル者アルトキハ其ノ氏名職名及事由ヲ具

シ外務文部兩大臣ニ報告スヘシ但シ免職又ハ解職セラレタル者ニシテ教員免許狀ヲ有スルモノナルトキハ其ノ免許狀ノ寫ヲ添付スヘシ

第二十一條 在外指定學校職員ノ職務並服務及俸給ニ關スル規程ハ所管領事官之ヲ定メ外務文部兩大臣ニ報告スヘシ

第二十二條 在外指定學校職員ノ旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ學校ノ設立者若ハ其ノ代表者之ヲ定メ所管領事官ニ報告スヘシ

第二十三條 在外指定學校ハ居留民團法ニ依ル監督ノ外所管領事官及外務文部兩大臣ノ監督ヲ受クヘキモノトス

第二十四條 在外指定學校ニシテ第三條ノ要件ヲ失ヒ又ハ學校ノ設立者若ハ其ノ代表者ニ於テ外務文部兩大臣又ハ所管領事官ノ爲ス命令ニ違背スルトキハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

第二十五條 本令ニ依リ學校ノ設立者若ハ其ノ代表者ヨリ外務文部兩大臣ニ提出スヘキ書類ハ總テ所管領事官ヲ經由スヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●在外指定學校職員ノ名稱待遇及任用解職ニ關スル制

三十八年十一月 勅令第二百三十號

朕在外指定學校職員ノ名稱待遇及任用解職ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 在外指定學校中小學校若ハ實業補習學校ノ學科ヲ授クル學校又ハ之ニ準スヘキ學校ニハ左ノ職員ヲ置ク

- 學校長
- 訓 導

准訓導

前項以外ノ在外指定學校ニハ左ノ職員ヲ置ク

- 學校長
- 教諭
- 助教諭
- 舍監
- 書記

在外指定學校ニ於テ必要アルトキハ職員トシテ前二項ニ掲ケタルモノ以外ノ教員ヲ置クコトヲ得

第二條 居留民團ノ設立ニ係ル在外指定學校ノ學校長、教諭、助教諭、訓導、舍監及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但シ前條第二項ノ學校ノ學校長及教諭三名以内ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第三條 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ任免ハ外務大臣及文部大臣之ヲ奏薦シ内閣總理大臣之ヲ宣行シ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ任免ハ所管領事官之ヲ專行ス

第四條 明治二十五年勅令第三十九號ハ文官ト同一ノ待遇ヲ受クル在外指定學校職員ニ關シ之ヲ準用ス

第五條 本令ニ規定スルモノノ外在外指定學校職員ノ懲戒其ノ他進退ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣之ヲ定ム但シ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

明治二十五年四月勅令第三十九號 改正 二五年勅令一一四號、三一年二一四號、三六年六七號

朕公立學校職員等級配當ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ノ官等等級ハ其俸給額ニ應ジ別表ニ依リ文武高等官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス但同官等又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席タルヘシ
(別表ハ略ス)

●小學校規則

四十二年二月 統令第三號

小學校規則左ノ通定ム
小學校規則

第一章 總則

第一條 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條 小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス
尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科ト同一校ニ併置スルモノヲ尋常高等小學校トス

第三條 尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ尋常小學校ノ規定ヲ準用シ高等小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ高等小學校ノ規定ヲ準用ス

第四條 本規則ニ依ラサル學校ハ小學校ト稱スルコトヲ得ス
第二章 設立及廢止

第五條 小學校ヲ設立セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ理事官ノ認可ヲ受クヘシ

一 學校ノ名稱

二 學則

三 開校ノ豫定期日

四 職員ノ履歷書

第十四編 學事及時

- 五 學校ノ位置
- 六 校地及校舍ノ平面圖、地名、坪數、方位、校舍ノ位置及建築ノ概況ヲ記スヘシ
- 七 通學區域内ノ戶數、人口及學齡兒童學年男女別表
- 八 經費及維持方法

前項第一號、第二號、第五號、第六號及第八號ノ變更ハ理事官ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 小學校ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ事由、兒童及財産ノ處分方法ヲ具シ理事官ノ認可ヲ受クヘシ

第三章 教科及編制

第七條 小學校ノ修業年限、教科目、教則及編制ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令及同年文部省令第十四號小學校令施行規則ノ定ムル所ニ依ル但シ同令中府縣知事ノ職權ハ理事官之ヲ行フ

前項教科目ノ外高等小學校ニ於テハ隨意科目トシテ韓語ヲ加フルコトヲ得、其ノ教授要旨及數學級ノ全部又ハ一部兒童ヲ合セテ同時ニ之ヲ教授シ得ル規定ニ關シテハ英語ノ例ニ依ル

第八條 小學校ノ教科目圖書ハ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノタルヘシ但シ修身、日本歴史、地理ノ教科用圖書及國語讀本ヲ除クノ外文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ理事官ノ認可ヲ受ケ學校長ニ於テ之ヲ撰定スルコトヲ得

補習科ノ教科用圖書ハ學校長ニ於テ之ヲ定メ理事官ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 學校長ハ酷暑又ハ嚴寒ノ時季ニ在リテハ各四十日以内ニ於テ毎日ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ減スヘキ教授時數ハ學校長ニ於テ便宜各教科目ノ每週教授時數ヲ斟酌シテ之ヲ定ムヘシ

第十條 尋常高等小學校ハ之ヲ單級編制ト爲スコトヲ得ス

第四章 學年、休業日及式日

第十一條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

學年ハ分テ三學期トシ第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日マテ、第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日マテ、第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日マテトス

第十二條 毎日ノ教授終始ノ時刻ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第十三條 小學校ノ休業日ハ左ノ如シ

一 祝日大祭日

二 日曜日

三 夏季休業 七月二十一日ヨリ八月三十一日マテ

四 冬季休業 十二月二十六日ヨリ翌年一月七日マテ

五 學年末休業 三月二十六日ヨリ同月三十一日マテ

土地ノ情況ニ依リ夏季及冬季ノ休業ハ前項ノ規定ニ拘ラス雨季ヲ通シテ六十日以内ニ於テ理事官ノ認可ヲ受ケ適宜ニ之ヲ定ムルコトヲ得

前二項ノ外臨時休業ヲ要スルトキハ學校長ニ於テ其ノ事由ヲ具シ理事官ノ認可ヲ受クヘシ

天災事變其ノ他前項ノ認可ヲ受クル暇ナキ際ハ學校長ニ於テ休業ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ理事官ニ届出ツヘシ

第十四條 紀元節、天長節及一月一日ニハ職員及兒童學校ニ參集シ左ノ式ヲ行フヘシ

- 一 職員及兒童「君カ代」ヲ合唱ス
- 二 職員及兒童ハ

天皇陛下

皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ

三 學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉讀ス

四 學校長ハ教育ニ關スル勅語ニ基キ聖旨ノ在ル所ヲ誨告ス
 五 職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス
 御影ヲ拜戴セサル小學校ニ於テハ前項第二號ノ式ヲ闕ク

第五章 就 學

第十五條 兒童ノ年齢學年開始ノ前日迄ニ滿六歳ニ達セサル者ハ其ノ學年中之ヲ小學校ニ入學セシムルコトヲ得ス

第十六條 兒童ヲ入學セシメムトスルトキハ其ノ保護者ヨリ左ノ事項ヲ具シ學校管理者ニ申出ツヘシ

- 一 兒童並保護者ノ氏名、出生年月日、本籍地、現住所及族稱
- 二 兒童入學前ノ經歷
- 三 保護者ノ職業及兒童トノ關係

學校管理者ハ前項ノ申出ニ基キ入學スヘキ兒童ヲ決定シ學校長ニ通知スヘシ

第十七條 學校長ハ入學シタル兒童ニ就キ別記第一號書式ニ依リ學籍簿ヲ編製スヘシ

學籍簿記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第十八條 學校長ハ別記第二號書式ニ依リ在學兒童ノ出席簿ヲ作り其ノ出席缺席ヲ明ニスヘシ

第十九條 學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨アリト認めタル兒童ノ出席ヲ停止スルコトヲ得

第二十條 學校長ハ在學兒童ニシテ正當ノ理由ナクシテ一箇月以上缺席シタル者アルトキハ之ヲ除名スルコトヲ得

第六章 職員

第二十一條 小學校教員ニハ小學校教員免許狀ヲ有スル者ヲ採用スヘシ

特別ノ事情アルトキハ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ト爲スコトヲ得

第二十二條 小學校長ハ其ノ學校ノ本科正教員ヲシテ之ヲ兼ネシムヘシ

第二十三條 學校長及教員ノ採用解職ハ特ニ規定スルモノノ外學校管理者ノ申請ニ依リ理事官之ヲ行フ

第二十四條 學校長及教員ノ懲戒ハ特ニ規定スルモノノ外理事官之ヲ行フ

懲戒ハ譴責、減俸及業務停止トス

第七章 授業料

第二十五條 小學校ニ於テ授業料ヲ徴收スルトキハ尋常小學校ニ在リテハ一箇月四十錢以下、高等小學校ニ在リテハ一箇月八十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定ムヘシ

特別ノ事情アルトキハ當該小學校經費ヲ負擔スヘキ地域以外ニ住居スル者ノ兒童ニ限り理事官ノ認可ヲ受ケ前項ノ制限ヲ超ヘタル授業料ヲ徴收スルコトヲ得

附 則

本規則ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

現在ノ小學校ハ本規則施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ第五條ノ手續ヲ爲スヘシ

現在ノ在外指定學校ハ本規則ニ依リ設立セルモノト看做ス但シ其ノ學則中本規則ニ牴觸スルモノハ直ニ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

(別 記)

第一號書式

考備	校高等小		校學小常尋						學年	學業成績										保			氏名							
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年	學年	國語					算術			理科		生活												
								身語		術	理	理	理	地	圖	歌	操	縫	工	語	行	年		月	日	席在	及	中	出	
	第二學年	第一學年	第六學年	第五學年	第四學年	第三學年	第二學年	第一學年	身	語	術	理 <td>理</td> <td>理</td> <td>地</td> <td>圖</td> <td>歌</td> <td>操</td> <td>縫</td> <td>工</td> <td>語</td> <td>行</td> <td>年</td> <td>月</td> <td>日</td> <td>席在</td> <td>及</td> <td>中</td> <td>出</td> <td>氏</td>	理	理	地	圖	歌	操	縫	工	語	行	年	月	日	席在	及	中	出	氏

第二號書式

明治 年 月 分

備考 身體ノ狀況ノ開ハ醫師ナシテ検査ヲ行ハシメタルトキ之ヲ記入スヘシ又修業年限三箇年ノ高等小學校ニ在リテハ第二學年ノ次ニ第三學年ノ開テ設ケヘシ

何學校第何學年兒童出席簿

號番	氏名	日	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	計	計	
																																				日
	氏名	日	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	計	計	
	氏名	日	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	計	計	

擔任官職 氏

名

記載例 出席 ×早退 ○遲到 ○病氣缺席 △事故缺席

●韓國小學校兒童及卒業生ノ他ノ學校へ入學轉學ニ關スル制

四十二年六月 文令第十六號

韓國小學校兒童及卒業生ノ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學校ノ兒童及卒業生ト同一ノ取扱ヲ受ク

第十四輯 學事及時

●韓國京城居留民團立京城中學校生徒並其ノ卒業者ノ

他ノ學校へ入學轉學ニ關スル制 四十二年十月 文告第二百七十五號

韓國京城居留民團立京城中學校生徒並其ノ卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ニ關シ明治三十二年勅令第二十八號中學校令ニ依リ設置シタル府縣立中學校生徒及卒業者ト同等ト認ム但シ第二部生ヲ除ク

●韓國居留民團立高等女學校生徒及卒業者ノ他ノ學校

へ入學轉學等ニ關スル制 四十二年九月 文告第二百三十三號

韓國ニ於ケル居留民團ノ設置セル學校中其ノ生徒、(兒童)及卒業者ノ他ノ學校へ入學轉學等ニ關シ明治三十二年勅令第三十一號高等女學校令ニ依リ設置シタル府縣立高等女學校(同三十三年勅令第三百四十四號小學校令ニ依リテ設置シタル市町村立小學校)ト同等ト認メタルモノ左ノ如シ

釜山居留民團立釜山高等女學校

京城居留民團立高等女學校 (四十二年文告一六〇)

●公立私立學校認定ニ關スル規則 三十二年六月 文令第三十四號 改正 三十四年 三十五年 三十七年 四〇年 文令第五號 三〇號 一一號 三三號

第一條 公立私立學校ニシテ徵兵令第十三條又ハ文官任用令第三條ニ關シ官立府縣立中學校ト同等以上トシテ文部大臣ノ認定ヲ受ケントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其管理者、私立學校ニ在リテハ其ノ學校代表者ニ於テ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添へ申請スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ文部大臣ニ開申シ若クハ其認可ヲ得タル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

- 一 名稱
- 二 位置

三 學校ノ沿革

四 學則

五 學校長、學校長ナキトキハ其學校代表者ノ履歷

六 教員ノ氏名、資格、學業經歷分擔學科及專任兼任ノ區別

七 生徒定員、現在生徒學年及學級別員數

八 卒業生ノ員數及卒業後ノ情況

九 校地、校舍及寄宿舎ノ圖面

十 經費及維持ノ方法

十一 教科書目錄

十二 教授用器具、器械及標本目錄

特別ノ規定アル場合ヲ除ク外學則ニ規定スヘキ事項ニ關シテハ中學校令施行規則第五十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二條 前條ノ申請ニ基キ文部大臣ニ於テ認定ヲ爲スヘキ學校ハ其管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具ヘ左號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一 專門學校(別科ヲ除ク)及實業專門學校(別科ヲ除ク)ニ在リテハ其入學者ハ中學校ヲ卒業シタル者、專門學校令第五條ノ檢定ニ合格シタル者、又ハ當該學校ノ豫科ヲ修了シタル者タルコト

二 實業學校ニ在リテハ甲種實業學校若ハ之下同等以上ノ學科程度ヲ具ヘ修業年限三箇年以上ノモノ

三 其他ノ學校ニ在リテハ其學科程度、入學規則編制及設備等中學校ノ規定ニ準シ且其教員全數ノ三分ノ一以上ハ專任ニシテ中學校ノ教員免許狀ヲ有スルモノ

第三條 文部大臣又ハ地方長官ハ必要ト認メタルトキハ主務官吏ヲシテ認定ヲ受ケタル學校ノ入學試驗ニ立會ハシメ又ハ入學試驗問題其答案ヲ査閱セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ試験ノ問題又ハ方法中不適當ト認めタルモノアルトキハ當該官吏ハ其變更ヲ命スルコトヲ得

第四條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ名稱、位置、學則、生徒定員、校地、校舍及學校維持ノ方法ヲ變更セントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其管理者私立學校ニ在リテハ其學校代表者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但特別ノ規定ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケ又ハ中學校令施行規則ニ依リ文部大臣ニ届出スヘキ事項ニ關シテハ各々其規定ニ依ルヘシ

學校代表者變更ノ場合ニ於テモ前項ノ規定ニ依ルヘシ

第五條 中學校令施行規則第三十四條、第三十九條第二項、第四十八條、第五十一條及第五十二條ノ規定ハ認定ヲ受ケタル學校ニ關シテ之ヲ準用ス

第六條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ第二條ノ規定ニ該當セサル生徒ヲ入學セシムルトキハ其生徒ニ特別ノ名稱ヲ附シ且其學籍簿ヲ別冊トナスヘシ但認定ノ效力ハ本文ノ生徒ニ及ハス

前項ノ生徒ニ關シテハ第五條ノ表簿ヲ便宜省略スルコトヲ得

第七條 認定ヲ受ケタル學校ハ公立學校ニ在リテハ其管理者私立學校ニ在リテハ其學校ノ代表者ニ於テ毎年六月三十日ノ調査ニ依リ翌月中ニ左ノ事項ヲ文部大臣ニ開申スヘシ但特別ノ規定ニ依リ文部大臣ニ開申スヘキ事項ニ付テハ各其規定ニ依ルヘシ

- 一 學校長及教員ノ氏名、資格、學業經歷分擔學科及專任兼任ノ區別
- 二 現在生徒學年及學級別員數
- 三 前學年中ノ卒業生員數及卒業後ノ情況
- 四 當該學年ニ於ケル入學生徒數
- 五 當該年度經費豫算ノ細目
- 六 教科書目錄

前項第二號及第四號ニ規定セル事項ハ認定ノ效力ヲ享ケル者ト享ケサル者トニ區別シ又前項第三號ノ規定中卒業後ノ情況ハ認定ノ效力ヲ享ケタル者ニ限り記載スヘシ

第八條 認定ヲ受ケタル學校ニシテ此規則ニ違背シ又ハ其成績不良ナリト認めタルトキハ文部大臣ハ將來ニ向テ其認定ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 此規則ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルヲ要ス
地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ其書類及實況ヲ精査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

附 則

第十條 本令ハ明治三十二年七月十五日ヨリ施行ス

第十一條 明治二十六年文部省令第十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條 本令施行前ニ爲シタル認定ハ尙其效力ヲ有ス但本令ニ牴觸スル事項アルトキハ當該學校ニ於テ本令施行ノ日ヨリ六箇月内ニ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ修正スヘシ

● 韓國釜山居留民團立釜山商業學校ヲ徵兵令並文官任用令

ニ依リ認定 四十二年四月 文告百四十三號

韓國釜山居留民團立釜山商業學校

右ハ徵兵令第十三條並文官任用令第三條第三號ニ依リ認定ス

● 學校組合令

四十二年十二月 統令第七十一號

學校組合令左ノ通定ム

學校組合令

第一條 學校組合ハ法人トシ官ノ監督ヲ受ケ法令ノ範圍内ニ於テ專ラ教育事務ヲ處理スルヲ目的トス

第十四輯 學事及時

學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ附帶事業トシテ衛生事務ヲ處理スルコトヲ得
 第二條 學校組合ヲ設立セムトスルトキハ其ノ設立地區内ニ居住スル帝國臣民ニ於テ組合同規約ヲ作り統監ノ認可ヲ受クヘシ
 第三條 學校組合地區内ニ居住スル帝國臣民ハ其ノ組合員トス
 第四條 學校組合ノ廢止及組合同規約ノ變更ハ統監ノ認可ヲ受クヘシ
 第五條 學校組合ニ組合會及管理者ヲ置ク
 管理者ハ理事官之ヲ任免ス
 管理者ノ任期ハ三箇年トス
 第六條 學校組合ハ財産ヨリ生スル收入及授業料其ノ他ノ收入ヲ以テ其ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ組合費ヲ賦課徴收スルコトヲ得
 第七條 居留民團法施行規則第三十六條、第三十七條、第三十九條、第四十條、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十三條(但書ヲ除ク)ノ規定ハ學校組合ニ之ヲ準用ス
 附 則
 本令ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 學校組合設立ノ際其ノ地區内ニ居住スル帝國臣民ノ共同財産及負債ノ處分其ノ他本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ理事官之ヲ定ム

●學事月報申報方

四十年八月
 統訓第十八號

正 四一年
 統訓五號

理事廳 (理事廳支廳)

本年四月訓令第十一號學事狀況ニ關スル報告中職員及生徒兒童數ニ關シテハ爾今每月末調ヲ以テ職員ハ別表第一號表、小學校及之ニ類スル各種學校ノ兒童數ハ同第二號表、其ノ他ノ學校生徒數ハ同第三號表ニ據リ翌月

十日迄ニ申報スヘシ

(別 表)

第一號表

立		學校職員表				明治何年何月末調 (何理事廳所管)					
備考	資格	卒業學校 (卒業年月)	俸給	手當	舍宅料	擔任學年 又ハ學科	職名	氏名	本籍	就職 年月日	生年月日

第二號表

第十四輯 學事及時

立 小學校兒童數表

明治何年何月末調
(何理事廳所管)

科 等 高	科 常 尋	學 年	男		女		計
			在籍	平均出席	在籍	平均出席	
計	計	第一學年					
		第二學年					
補習科	補習科	第三學年					
		第四學年					
第六學年	第六學年	第五學年					
		第一學年					
計	計	第二學年					
		補習科					
合計	合計	合計					

考備	合計

注意

尋常小學校ニ在リテハ高等科及合計ノ欄ヲ省除スヘシ
單級又ハ複式教授ヲ爲ス學校ニ在リテハ學級數及教員ノ欄ニ於テ適宜縱線ヲ省除スヘシ
教員欄ニハ職名ト員數トヲ記載スヘシ

第三號表

何立何學校生徒學年學級別數表

明治何年何月末調

備 考	學 年	生 徒 數	學 級 數	教 員

●學事年報申報方

四十年四月
統訓第十一號

改正

四二二年
統訓第二二號

管内學事狀況ニ關シ毎年五月三十一日限リ左記事項ヲ申報スヘシ

一學事施設ノ要領

一學齡兒童

就學ニ關スル狀況ヲ記述スヘシ(別表ヲ添フヘシ)

一各學校ノ現狀

左記各號ニ基キ學校毎ニ一覽ヲ調製スヘシ

一學校ノ名稱

一沿革

一課程表及教科書配當表

一校地、校舍、附屬舎ノ圖面(三百分ノ一)

一生徒(別表ニ依ル)

一圖書館

閱覽人ノ狀況閱覽圖書ノ種類及其ノ閱覽人ヲ各別ニ記述スヘシ

一學校衛生

學校清潔方法施行狀況、學校醫ノ視察及生徒又ハ兒童ノ身體検査ノ狀況、傳染病豫防及消毒ニ關スル施行ノ狀況、生徒又ハ兒童ノ健康ノ狀況ヲ學校別ニ記述スヘシ

一教育會

組織並事業ノ概況ヲ記述スヘシ

一學事關係職員及學事視察

學事關係職員ノ狀況及該職員等ノ學事ヲ視察シタル狀況ヲ記述スヘシ

一學事獎勵

學事獎勵ノ狀況ヲ記述スヘシ

一將來學事施設上須要ノ件

一以上ノ外學事ニ關シ特ニ申報スヘキ事項アルトキハ適宜記述スヘシ

一公學費及資金(別表ニ依ル)

公立學校等ノ歲出入、學校基本財産及其ノ積立ノ方法其ノ他學校等ノ維持ニ係ル狀況ヲ記述スヘシ

一教育補助金

教育補助金ヲ受クル學校ハ其ノ使途ノ狀況ヲ記述スヘシ

以上ノ外學事經濟上ニ關シ特ニ申報スヘキ事項ト認ムルモノハ適宜記述スヘシ

右諸項ハ毎統計年度ノ調査ニ依ル

本取調條項中表式アルモノハ表式ニ示ス事項ノ計數増減ノ事由ヲ各別ニ記述スヘシ

本令ニ統計年度トアルハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ヲ謂フ

(別表)

學齡兒童表

種	別				何居留民團	何	地	何	地	何	地	合計
	就		就									
尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者	尋常小學校ノ教科ヲ卒ヘタル者	尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者	尋常小學校ノ教科ヲ卒ヘタル者	女	男	女	男	女	男	女	男	合計

合計	第一地方部		第二地方部		第三地方部		第四地方部		第五地方部		第六地方部		第七地方部	
	府縣	生徒數	府縣	生徒數	府縣	生徒數	府縣	生徒數	府縣	生徒數	府縣	生徒數	府縣	生徒數
計			東京		茨城		埼玉		千葉		山梨			
計			新瀉		福島									
計			北海道		秋田									
計			三重		滋賀		靜岡		岐阜		福井		石川	富山
計			京都		奈良		兵庫		和歌山		德島		高知	
計			鳥取		岡山		廣島		山口		香川		愛媛	
計			長崎		大分		佐賀		熊本		宮崎		鹿兒島	沖繩
計														

注意 年度最終授業日調査ニ依ル

合計	就學 歩 同右 男女百人中就學	通 計	未夕就學ノ初期ニ達セサル者		合 計		學 計		就 校未 設		不 疾 病		學 計	
			女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男

(別表) 何學校生徒府縣別表

何學校生徒數及授業日數月別表

種別	四月		五月		六月		七月		八月		九月		十月		十一月		十二月		一月		二月		三月		計平均
	計	別	計	別	計	別	計	別	計	別	計	別	計	別	計	別	計	別	計	別	計	別			
在籍生徒數																									
入學生徒數																									
退學生徒數																									
出席百分比																									
授業日數																									
備	本年度及累計卒業者數左ノ如シ																								
考	(小學校ノ場合) 尋常科男何名(累計何名) 女何名(累計何名) 計何名(累計何名) 高等科男何名(累計何名) 女何名(累計何名) 計何名(累計何名) 計 男何名(累計何名) 女何名(累計何名) 計何名(累計何名) (小學校以外ノ場合) 本年度何名 累計何名																								

注意 在籍生徒數ハ當該月末(三月ハ最終授業日)現在數、出席百分比ハ當該月ノ平均數備考欄卒業者累計數ハ開設以來當該年度迄ノ合計數ヲ記載スヘシ

公學費表

種別	何學校	何學校	何幼稚園	何圖書館	其ノ他	合計
學校長園長館長俸給						
正教員訓導俸給						
舍監俸給						
書記俸給						
准教員俸給						
代用教員俸給						
保姆俸給						
旅費						
雜給						
借地借家費						
圖書器械標本費						
器具費						

學 金 額	器 具 價	器 械 標 本 價	圖 書 價	家 屋 價	附 屬 地 價	敷 地 價	家屋坪數		附 屬 地 坪 數	敷 地 坪 數	種 別	何 學 校
							其 他	教 場				
												何學校
												何學校
												何幼稚園
												何圖書館
												其ノ他
												合 計

公學資産表

注意 圓位以下ハ切捨トス

備 考	入 收							合 計	其 ノ 他 ノ 諸 費	修 繕 費	新 營 費	消 耗 品 費
	合 計	國 庫 補 助	雜 收 入	學 校 基 本 財 産 ヨ リ 生 ス ル 收 入	寄 附 金	閱 覽 料	保 育 料					

備考	校 本 財 產				
	其 他 物 格 品	建 物		土 地	
		價	坪 數	價	坪 數

注意 圓位以下及坪以下ハ切捨トス

● 統監府及所屬官署ニ於テ用非ル標準時

四十一年二月
統令第五號

統監府及所屬官署ニ於テ用キル時ハ韓國標準時ニ依ル

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

備	產	財	本	其	後
号	具	生	金	他	上
	具	利	收	項	地
	之	由	入	下	坪
	物	及	支	之	數
	指	收	出	款	
	標	入	支	項	

注意 欄位以下三坪以下三指款下：

◎ 統監府及所屬官署之費用 標準時 西曆一九三九年四月一日

統監府及所屬官署之費用 標準時 西曆一九三九年四月一日

附則

本令自明治四十二年四月一日施行

第十五輯 會社組合

第十五輯 會社組合

●東洋拓殖株式會社法

四十一年八月
法律第六十三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル東洋拓殖株式會社法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
東洋拓殖株式會社法

第一章 總則

- 第一條 東洋拓殖株式會社ハ韓國ニ於テ拓殖事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トシ其ノ本店ヲ韓國ニ置ク
- 第二條 東洋拓殖株式會社ノ資本ハ一千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得
- 第三條 東洋拓殖株式會社ノ株式ハ總テ記名式トシ日韓兩國人ニ限り之ヲ所有スルコトヲ得
- 第四條 東洋拓殖株式會社ノ資本増加ハ株金全額ノ拂込アルコトヲ要セス
- 第五條 東洋拓殖株式會社ノ存立時期ハ設立登記ノ日ヨリ百年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得
- 第六條 東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ支店又ハ出張所ヲ東京其ノ他ノ地ニ置ク

第二章 役員

- 第七條 東洋拓殖株式會社ニ總裁一人、副總裁二人、理事四人以上、監事三人以上ヲ置ク
- 第八條 總裁ハ東洋拓殖株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス
- 副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ
- 副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ分掌ス
- 監事ハ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監査ス

第九條 總裁ハ日本人トシ政府之ヲ命ス

副總裁ハ一人ハ日本人トシ一人ハ韓國人トス

理事及監事ハ其ノ員數ノ少ナクトモ三分ノ二ハ日本人トシ其ノ他ハ韓國人トス

副總裁及理事中日本人ハ政府之ヲ命シ韓國人ハ韓國政府之ヲ命ス但シ理事ノ任命ニ付テハ株主總會ヲシテ

五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ各二倍ノ候補者ヲ選舉セシム

監事ハ株主總會ニ於テ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ之ヲ選舉ス

總裁、副總裁及理事ノ任期ハ五年トシ監事ノ任期ハ二年トス

第十條 總裁、副總裁及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限リニ在ラス

第三章 營業

第十一條 東洋拓殖株式會社ハ左ノ業務ヲ營ムモノトス

一 農業

二 拓殖ノ爲必要ナル土地ノ賣買及貸借

三 拓殖ノ爲必要ナル土地ノ經營及管理

四 拓殖ノ爲必要ナル建築物ノ築造、賣買及貸借

五 拓殖ノ爲必要ナル日韓移民ノ募集及分配

六 移民及韓國農業者ニ對シ拓殖上必要ナル物品ノ供給並其ノ生産又ハ獲得シタル物品ノ分配

七 拓殖上必要ナル資金ノ供給

第十二條 東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ附帶事業トシテ韓國ニ於テ水産業其ノ他拓殖上必要ナル事業ヲ營ムコトヲ得

第十三條 第十一條第七號ノ資金供給ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フヘシ

一 日韓移民ニ對シ二十五年以内ノ年賦償還ノ方法ニ依ル移民費ノ貸付

二 移民及韓國農業者ニ對シ十五年以内ノ年賦償還ノ方法ニ依ル韓國ニ於ケル不動産ヲ擔保トスル貸付

三 移民及韓國農業者ニ對シ五年以内ノ定期償還ノ方法ニ依リ韓國ニ於ケル不動産ヲ擔保トスル貸付

四 移民及韓國農業者ニ對シ其ノ生産又ハ獲得シタル物品ヲ擔保トスル貸付

五 韓國ニ於ケル不動産ヲ擔保トスル三年以内ノ定期償還ノ方法ニ依ル貸付

前項第一號ノ貸付ニ付テハ豫メ其ノ方法及條件ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第一項第二號乃至第五號ノ貸付金總額ハ拂込資本額及社債未償還額ノ合計ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 不動産又ハ動産ヲ擔保トスル貸付金額ハ東洋拓殖株式會社ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内

トス但シ前條第一項第一號ノ貸付ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 不動産ヲ擔保トスル貸付ニ付テハ第一順位ノ擔保ナルコトヲ要ス

第十六條 貸付金ノ年賦償還ニ付テハ五年以内ノ据置年限ヲ定ムヘシ

第十七條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ但シ据置年限間ノ利子ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借用金ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

トヲ得

前項ノ場合ニ於テハ東洋拓殖株式會社ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第十九條 左ノ場合ニ於テハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

一 債務者カ貸付ノ目的ニ反シテ貸付金ヲ使用シタルトキ

二 債務者カ年賦金ノ拂込ヲ遅延シ催告ヲ受クルモ尙拂込ヲ爲ササルトキ

三 擔保タル不動産ノ全部又ハ一部カ公用ノ爲收用セララルトキ但シ債務者ニ於テ收用補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ擔保トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項第三號ノ場合ニ於テ其ノ收用カ一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス
 第二十條 擔保物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十四條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増擔保ヲ要求シ又ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得
 債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得
 第二十一條 營業上ノ餘裕金ハ一時國債證券ヲ買入レ又ハ政府ノ指定シタル銀行ニ預ケ金ヲ爲スノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス
 第二十二條 東洋拓殖株式會社ハ營業上必要アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ借入金ヲ爲スコトヲ得

第四章 東洋拓殖債券

第二十三條 東洋拓殖株式會社ハ拂込資本額ノ十倍ヲ限リ東洋拓殖債券ヲ發行スルコトヲ得
 東洋拓殖債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第九十九條ノ規定ヲ適用セス
 第二十四條 東洋拓殖債券ヲ發行セムトスル場合ニ於テハ毎回其ノ金額、條件並發行及償還ノ方法ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クヘシ
 第二十五條 東洋拓殖債券ヲ發行スル場合ニ於テハ數回ニ分チ拂込ヲ爲サシムルコトヲ得
 第二十六條 東洋拓殖債券ハ全額拂込ノ後ハ無記名式トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名式ト爲スコトヲ得
 第二十七條 東洋拓殖債券ノ所有者ハ東洋拓殖株式會社ノ財產ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス
 第二十八條 東洋拓殖株式會社ハ社債借換ノ爲一時第二十三條ノ制限ニ依ラス東洋拓殖債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月以内ニ其ノ社債總額ニ相當スル舊東洋拓殖債券ヲ償還スヘシ
 第二十九條 東洋拓殖債券ノ據置年限ハ五年以内トシ其ノ償還期限ハ三十年以内トス
 第三十條 東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ東洋拓殖債券ヲ買入消却ヲ爲スコトヲ得

第五章 準備金

第三十一條 東洋拓殖株式會社ハ每營業期ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第六章 政府ノ監督及補助

第三十二條 政府ハ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監督ス
 第三十三條 政府ハ東洋拓殖株式會社監督官ヲ置キ韓國政府ノ任命シタル監督官ト共同シテ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監視セシム
 東洋拓殖株式會社監督官ハ何時ニテモ東洋拓殖株式會社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得
 東洋拓殖株式會社監督官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ東洋拓殖株式會社ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得
 東洋拓殖株式會社監督官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得
 第三十四條 政府ハ東洋拓殖株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得
 第三十五條 東洋拓殖株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルモノト認ムルトキハ政府ハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解職スルコトヲ得東洋拓殖株式會社ノ役員ニ於テ監督官應ノ命令シタル事項ヲ執行セサルトキ亦同シ
 第三十六條 東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非サレハ利益金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス
 第三十七條 東洋拓殖株式會社ニ於テ移住規則其ノ他ノ規定ヲ定ムルトキハ政府ノ認可ヲ受クヘシ
 第三十八條 東洋拓殖株式會社ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ更ニ政府ノ認可ヲ受クヘシ
 第三十九條 政府ハ東洋拓殖株式會社ニ對シ設立登記ノ日ヨリ起算シ八年間ヲ限リ毎年金三十萬圓ヲ每營業期ニ割當テ補給スヘシ但シ每營業期ニ於ケル利益配當カ拂込資本額ニ對シ年八分ノ割合ヲ超過スルトキハ

其ノ超過額ニ相當スル金額ヲ補給金ノ内ヨリ控除ス

第四十條 利益配當カ拂込資本額ニ對シ年一割ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ先ツ之ヲ前條補給金ノ償還ニ充ツヘシ

前項ノ償還ヲ終ヘタルトキハ該超過金額ハ其ノ半額ヲ特別積立金トスヘシ

第七章 罰則

第四十一條 東洋拓殖株式會社ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス其ノ事犯副總裁又ハ理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

- 一 本法ニ於テ政府ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ
 - 二 第十一條ノ規定ニ依ラス業務ヲ營ミタルトキ
 - 三 第十三條乃至第十七條ノ規定ニ違反シ資金ヲ供給シタルトキ
 - 四 第二十一條ノ規定ニ違反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ
 - 五 第二十三條ノ規定ニ違反シ東洋拓殖債券ヲ發行シタルトキ但シ第二十八條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
 - 六 第二十八條ノ規定ニ違反シ東洋拓殖債券ノ償還ヲ爲ササルトキ
 - 七 第三十一條及第四十條ノ規定ニ違反シ利益金ヲ處分シタルトキ
- 第四十二條 東洋拓殖株式會社ノ總裁、副總裁又ハ理事第十條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス
- 第四十三條 前二條ニ規定セル過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

附則

第四十四條 政府ハ設立委員ヲ命シ韓國政府ノ命シタル設立委員ト共同シテ東洋拓殖株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十五條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集スヘシ

第四十六條 設立委員ハ株主ノ募集終リタルトキハ株式申込書ヲ政府ニ差出シ東洋拓殖株式會社設立ノ認可ヲ申請スヘシ

第四十七條 設立認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スヘシ

第四十八條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ東洋拓殖株式會社總裁ニ引渡スヘシ

第四十九條 第一期ノ理事及監事ハ株主總會ノ選舉ニ依ラス之ヲ任命ス其ノ他ノ條件ニ付テハ第九條ノ例ニ依ル

●外國領海水產組合法 三十五年三月 改正 四十二年 法律第三十五號 法律七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國領海水產組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國領海水產組合法

第一條 條約又ハ許可ニ依リ外國領海ニ於ケル水產動物ノ採捕其ノ製造又ハ販賣ヲ業トスル帝國臣民ハ本法ニ依リ水產組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條 組合ノ區域ハ利害關係アル營業區域又ハ住所區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三條 組合ヲ設置セントスルトキハ其ノ區域内ニ於ケル同業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ外務農商務兩大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ二種以上ノ營業者相集リテ組合ヲ設置セントスルトキハ各種營業毎ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第四條 組合ノ區域内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ營業上特別ノ情況ニ依リ外務農商務兩大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 (削除)

第六條 第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス
 第七條 前條ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス
 第八條 組合及組合聯合會ニ關シテハ本法ニ規定アルモノノ外重要物産同業組合法ノ規定ヲ準用ス但シ同法中農商務大臣ニ屬スル職權ハ外務農商務兩大臣之ヲ行フ

附則

第九條 本法ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第十條 本法施行以前ニ於テ條約又ハ許可ニ依リ外國領海ニ於ケル水産動植物ノ採捕其ノ製造又ハ販賣ノ業ニ關シ外務農商務兩大臣ノ認可ヲ經テ設置シタル組合又ハ組合聯合會ニシテ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ抵觸セサルモノハ第三條ニ依リ設置シタルモノト看做ス

●外國領海水產組合法施行規則

三十五年三月 農令第五號

外國領海水產組合法施行規則左ノ通相定ム

外國領海水產組合法施行規則

第一條 外國領海水產組合法ニ依ル水產組合及水產組合聯合會ニハ本則ニ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外重要物産同業組合法施行規則ノ規定ヲ準用ス
 第二條 重要物産同業組合法施行規則ノ規定ニ依リ農商務大臣ノ行フヘキ職務ハ本則ニ於テハ別段ノ定アル場合ヲ除ク外外務、農商務兩大臣之ヲ行ヒ地方長官ノ行フヘキ職務ハ營業區域ニ依ル組合又ハ其ノ聯合會及外國ニ住所ヲ有スル者ノ組織スル住所區域ニ依ル組合又ハ其ノ聯合會ニ在リテハ所轄領事又ハ貿易事務官之ヲ行ヒ其ノ他ノ住所區域ニ依ル組合又ハ其ノ聯合會ニ在リテハ所轄地方長官之ヲ行フ但シ區域カニ以テハ地方長官ノ職權ハ外務、農商務兩大臣之ヲ行フ

第三條 組合又ハ聯合會ノ名稱ニハ外國領海ノ名稱及水產組合又ハ水產組合聯合會ナル文字ヲ附スヘシ
 第四條 住所區域ニ依ル組合ノ區域ハ北海道、府、縣ノ區域ニ依ルヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第五條 組合又ハ聯合會ニシテ一地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ其ノ設置、定款ノ變更、役員ノ選任、經費ノ豫算及徴收法並解散ノ認可ハ地方長官ニ之ヲ申請スヘシ

地方長官前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ外務、農商務兩大臣ニ之ヲ報告スヘシ
 第六條 前條第一項ノ組合又ハ聯合會ニ在リテハ重要物産同業組合法第十四條及第十五條ノ處分ハ外務、農商務兩大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ行フコトヲ得

第七條 第五條第一項ノ組合又ハ聯合會ニ在リテハ經費ノ決算、業務成績ノ報告及定款又ハ業務ノ執行ニ關スル規則ノ届出ハ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ
 第八條 組合又ハ聯合會ノ設置ヲ認可シタルトキハ認可ヲ與ヘタル行政官廳ハ其ノ名稱、組合ノ區域又ハ聯合會ヲ組織スル組合ノ名稱及營業ノ種類ヲ公告スヘシ
 前項ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ組合若ハ聯合會カ解散シタルトキハ當該行政官廳ハ其ノ事項ヲ公告スヘシ

附則

第九條 本則ハ外國領海水產組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第十條 本則施行以前ニ於テ外務、農商務兩大臣ノ認可ヲ經テ設置シタル組合又ハ聯合會ニシテ外國領海水產組合法ノ規定ニ抵觸セサルモノハ本則ニ依リ定款ヲ變更シ本則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ其ノ認可ヲ主務大臣ニ申請スヘシ

●朝鮮海水產組合設置

三十五年九月 農令第十九號

朝鮮海漁業者ハ外國領海水産組合法ノ規定ニ從ヒ營業區域ニ依リ朝鮮海水産組合ヲ設置スヘシ

朝鮮海漁業者外國漁業水産組合法ノ規定ニ從テ營業區域ニ依リ朝鮮海水産組合ヲ設置ス

第十六輯 銀行 度量衡

第十六輯 銀行度量衡

●外國ニ於ケル銀行事業ニ關スル制 三十八年三月 法律第四十七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル外國ニ於ケル銀行事業ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
外國ニ於テ銀行業ヲ營ムモノニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケ之ニ準據セシムルコトヲ得

●韓國ニ於ケル銀行業ニ關スル制 四十年三月 勅令第三十一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ韓國ニ於ケル銀行業ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 韓國ニ於テ銀行業ヲ營マムトスルモノハ統監ノ定ムル規定ニ從ヒ統監ノ定ムル事項ヲ具シテ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可ヲ受タル事項ヲ變更セムトスルトキハ統監ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 銀行業ヲ營ム會社ハ韓國ニ於テ合併シ又ハ組織ヲ變更セムトスルトキハ統監ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 銀行業ヲ營ム爲設立スル會社ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第四條 銀行業ヲ目的トスル株式會社ノ發起人、取締役又ハ株式合資會社ノ無限責任社員ハ第一條ノ認可ヲ受ケタル後ニ非サレハ株式ノ引受又ハ株主ノ募集ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 銀行力第一條第一項ノ認可ヲ受ケタル後一箇年內ニ營業ヲ開始セサルトキハ認可ノ效力ヲ失フ

第六條 銀行ハ毎月ノ營業實際報告、每半箇年ノ營業報告書及貸借對照表ヲ統監ニ差出シ且貸借對照表ヲ公告スヘシ

第七條 銀行ノ營業時間及休日ニ付テハ統監之ヲ定ム

統監ハ統監府又ハ其ノ所屬官署ノ官吏ニ命シテ銀行ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得

第八條 統監ハ銀行カ法令、定款若ハ本令ニ基キテ發シタル命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲アリト認ムルトキハ役員ノ更任ヲ命シ韓國ニ於テ營業ム業務ノ全部若ハ一部ノ停止ヲ命シ又ハ認可ヲ取消スコトヲ得

第九條 左ノ場合ニ於テハ營業主、發起人、業務執行社員、取締役又ハ韓國ニ於ケル代表者ヲ五十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第一條又ハ第三條ニ違反シタルトキ

二 第五條ノ報告若ハ公告ヲ爲サス又ハ其ノ報告若ハ公告中ニ於テ虛偽ノ事實ヲ掲載シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

三 第七條ニ依ル検査ヲ避ケ又ハ之ヲ拒ミタルトキ

前項ノ過料ニ關シテハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第十條 本令ニ定ムルモノノ外必要ナル規定ハ統監之ヲ定ム

附則

本令施行ノ際現ニ韓國ニ於テ銀行業ヲ營ムモノ一箇月以内ニ第一條第一項ノ認可事項ヲ統監ニ届出タルトキハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

●韓國ニ於ケル銀行業ニ關スル規則

四十年五月 統令第二十號

改正

四一年統令七號 四二年二五號

韓國ニ於ケル銀行業ニ關スル規則左ノ通定ム

第一條 個人ニシテ銀行業ヲ營ムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ統監ノ認可ヲ受ヘシ

一 商號

二 本店及支店ノ所在地

三 資本金額

四 營業科目

第二條 銀行業ヲ目的トスル會社ヲ設立セムトスル者ハ定款、營業科目及株式ヲ募集スルトキハ其ノ方法ヲ具シ統監ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ會社カ成立シタルトキハ之ヲ統監ニ届出ツヘシ

第三條 韓國外ニ本店ヲ有スル銀行ニシテ韓國ニ於テ其ノ業務ヲ營ムトスルトキハ前二條ノ規定ニ準シ統監ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル銀行ハ韓國ニ於ケル代表者ヲ定ムヘシ

第四條 銀行ハ其ノ商號中ニ銀行ノ文字ヲ用ツヘシ

銀行ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ銀行ノ文字ヲ用キルコトヲ得ス

第五條 銀行ハ銀行券其ノ他何等ノ名稱ヲ用ユルニ拘ラス通貨ニ類似スル無記名式一覽拂ノ證券ヲ發行スルコトヲ得ス

第六條 會社ニシテ合併ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ統監ノ認可ヲ受クヘシ

一 合併ニ關スル總會ノ決議錄

二 合併ニ關スル契約書

三 合併ニ依リ存續スル會社又ハ新ニ設立スル會社ノ定款

四 各會社ノ貸借對照表

五 其ノ他合併ニ關シ必要ナル書類

第七條 會社カ其ノ組織ヲ變更セムトスルトキハ組織變更ニ關スル決議書、貸借對照表及定款ヲ添ヘ統監ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 明治四十年勅令第三十一號第五條ノ半箇年ハ一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トシ之ヲ銀行ノ營業年度トス

營業報告及貸借對照表ハ附屬甲號様式ニ依リ調製シ七月及一月中ニ之ヲ差出スヘシ但シ株式會社及株式合

資會社ニ在リテハ商法第九十二條及第二百三十六條ニ依リ總會ノ承認ヲ得タル日ヨリ三週間以内ニ之ヲ差出スヘシ

貸借對照表ノ公告ハ前項ノ期間内ニ二日以上銀行ノ本店及支店ヲ管轄スル理事廳所在地ノ新聞紙ニ掲載スヘシ

毎月營業實際報告ハ附屬乙號様式ニ依リ調製シ翌月十五日迄ニ之ヲ差出スヘシ

第二項及第四項ノ外銀行ハ統監ノ命スル所ニ從ヒ何時ニテモ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲スヘシ

第九條 銀行ノ營業時間ハ左ノ如シ

銀行ノ營業時間ハ午前九時ヨリ午後三時マテトス但シ土曜日ハ午後一時ニ至ル

銀行ハ統監ノ認可ヲ受ケ前項ノ營業時間ヲ變更スルコトヲ得

第十條 銀行ノ休日ハ帝國ノ祭日、祝日、韓國ノ乾元節、開國紀元節及日曜日並其ノ營業地ニ於ケル一般ノ休日トス但シ已ムヲ得サル事故アルトキハ理事官ノ認可ヲ受ケ豫メ第八條ノ新聞紙ニ公告シタル上休業スルコトヲ得

第十一條 銀行ハ其ノ營業主、業務執行社員、取締役及代表者ノ氏名住所及履歷ヲ統監ニ届出ツヘシ

第十二條 銀行カ其ノ營業ヲ開始シタルトキハ之ヲ統監ニ届出ツヘシ其ノ支店ノ業務ヲ開始シタルトキ亦同シ

第十三條 第二條第二項、第十一條及第十二條ニ依ルノ外銀行ハ其ノ登記スヘキ事項ヲ統監ニ届出ツヘシ

第十四條 銀行カ解散シ支拂ヲ停止シ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ營業主、業務執行社員、取締役、代表者、清算人又ハ破産管財人ヨリ之ヲ統監ニ届出ツヘシ

第十五條 銀行カ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ統監ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 銀行ハ其ノ届出タル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ之ヲ統監ニ届出ツヘシ

第十七條 本令ニ依リ統監ニ差出スヘキ書類ハ理事官ヲ經由スヘシ

第十八條 第四條及第五條ノ規定ニ違反シタルトキハ營業主、業務執行社員、取締役又ハ代表者ヲ五十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第十九條 本令ハ明治四十年五月十日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 本令施行ノ際現ニ韓國ニ於テ銀行業ヲ營ムモノ一箇月以内ニ本令ニ規定シタル認可事項ヲ統監ニ届出タルトキハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

(甲號様式)

第何期營業報告書

明治何年何月何日

韓國何道何郡何地

何

銀

行

明治何年七月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル半年間當銀行營業成績ヲ蒐集シ貸借對照表ト共ニ茲ニ之ヲ報告ス

一 資本金

株式會社ハ左ノ如ク記載スヘシ

現在資本金ハ何萬圓株式何株(一株何圓)ニシテ内拂込高何萬圓拂込未済高何萬圓ナリ

資本金ノ増減

株式種類	資		本		金		拂		込	
	前期末現在高	增加高	減少高	前期末現在高	增加高	減少高	前期末現在高	增加高	減少高	
本株		(+)	(-)		(+)	(-)		(+)	(-)	
第一新株										

計								
---	--	--	--	--	--	--	--	--

株式ノ賣買讓與

株式種類	一株ノ拂込高	賣買讓與株數	讓與株數	賣買株數	同上代價	一株平均代價
本株						
第一新株						
計						

株主及株數

氏名	株數	内譯		氏名	株數	内譯	
		本株數	新株數			何某	計何人
同				計何人			
同				外何人			
何某				何某			

(株主ノ氏名及其ノ所有株數ハ所有株數ノ最モ多キモノヨリ順次ニ記シ其ノ株數カ總株數ノ三分ノ一ニ達スルニ至リ止ムヘシ)
 合名又ハ合資會社ハ左ノ如ク記載スヘシ
 現在資本金ハ何萬圓ニシテ社員ハ何人ナリ

資本金ノ増減

科目	前期末現在高	當期增加高	計	當期減少高	當期末現在高
資本金					

入社

出資額	住	所	職	業	氏名
何圓	何	地	何		某
同	同		同		同
同	同		同		同

(合資會社ニ在リテハ氏名ノ右傍ニ有限責任社員若ハ無限責任社員ト記スヘシ以下ニ表亦同シ)

退社

出資額	住	所	職	業	氏名
何圓	何	地	何		某
同	同		同		同
同	同		同		同

社員及出資額

出資額	住	所	職	業	氏名
何	何	地	何		某
同	同		同		
同	同		同		

個人銀行ハ前文ニ準シ記載スヘシ

株式合資會社ハ株式ニ付テハ株式會社ノ例ニ出資金ニ付テハ合資會社ノ例ニ依リ記載スヘシ

二 株主總會(又ハ社員ノ決議)

本項ハ定時及臨時ノ株主總會又ハ社員ニ於テ決議又ハ認定セシ利益ノ配當役員ノ選舉資本金ノ増減支店ノ配置其ノ他定款變更等ニ關スル件ノ要領ヲ記載スヘシ

三 處務ノ要件

本項ハ商業登記簿ニ登記ヲ受ケタル事項官廳へ願伺届等ノ事項訴訟其ノ他重要ノ件ニ關スル要領ヲ記載スヘシ

四 營業ノ景況

半年間ノ商況金融ノ模様此ノ間ニ處セル銀行ノ營業狀況等ヲ略說スヘシ

金利高低表

店名	定期預金(利年)		當座預金(歩日)		小當座預金(口日)		貸附金(利年)		當座預金(越歩日)		割引手形(歩日)	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低

本店												
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(各項ノ金利ハ其ノ標準トナルヘキ利率ヲ記入スヘシ)

支店ヲ有スルモノハ本店ノ次ニ記入スヘシ次表亦同シ

諸勘定増減表

店名	諸預金	諸貸出金及割引	送金爲換取組	送金爲替仕拂	金銀出納
本店					

(諸預金ト諸貸出金ハ一日平均殘高ニ其他ハ當期間内ニ取扱ヒタル總高ニ依リ之ヲ前年同期ニ比シ何割増又ハ減ト割合ヲ記入スヘシ)

五 金銀出納

店名	營業日數	前期繰越高	當期入金高	計	當期出金高	當期末現在高
本店						

(營業日數ハ休日ヲ除キタル半年間ノ日數ヲ記入スヘシ)

支店ヲ有スルモノハ本店ノ次ニ記入シ且本店支店ノ合計ヲ附スヘシ以下諸表亦同シ

六 預リ金

店名	勘定科目	前期繰越高	當期預リ高	計	當期拂戻高	當期末現在高	同上口數
	官公金預金						

店 本		定期預金	當座預金	小當座預金	其ノ他預金

借入金アルトキハ預リ金ノ例ニ準シ記入スヘシ

七 借入金
八 貸出金

店 本		店名	勘定科目	前期繰越高	當期貸出高	計	當期返済高	當期末現在高	同上口數
貸出金	其他								
荷爲換手形									
割引手形									
當座預金貸越									
貸付金									

(政府ニ對スル貸出金アルトキハ右ニ準シ記入スヘシ)

貸出金擔保別

店 本		店名	擔保	貸付金	當座預金貸越	割引手形	荷爲換手形	合計
計								
信用								
雜								
土地建物								
其ノ他商品								
米穀								
木綿絲織物								
株券								
社債								
公債								

(貸出高ハ當期末現在高ヲ記入スヘシ)
割引手形當所他所別

本 店	店 名	當 所	他 所

本店	店名	種類				券面金額	實價
		整理公債	第何回庫債券	外國公債	東京市公債		

十四株 式
十五社 債

株式又ハ社債ヲ所有スルトキハ公債ニ準シ記入スヘシ

(現在高ノ實價ハ取引所價格ニ依ルコト能ハサルトキハ買入價格又ハ應募引受金額ヲ記入スヘシ)

十六地金銀

本店	店名	種類	前期繰越高		當期買入高		計		當期實渡額又ハ本邦 本支店へ送付高(△)		當期末現在高	
			數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
銀												
金												

(現在高ノ價格ハ其ノ銀行ノ最モ近キ第一銀行支店ノ買入値段ニ依リ記入スヘシ)
右地金銀ノ利益又ハ損失ニ歸シタル金額ハ何圓ナリ

十七保護預

本店	店名	種類	當期末現在高

十八營業用地所建物及什器

本店	店名	種類	種類			金額
			地所	建物	什器	
			何坪	何棟	何點	

(金額ハ決算當日ニ於ケル市價ヲ見積リ記入スヘシ)

右地所、建物、什器ノ利益又ハ損失ニ歸シタル金額ハ何圓ナリ

十九抵當質物流込物件

本店	店名	種類	數量	金額

(金額ハ決算當日ニ於ケル市價ヲ見積リ記入スヘシ)

右抵當費物流込物件ノ利益又ハ損失ニ歸シタル金額ハ何圓ナリ

二十「コルレスボンデンス」先

本店ノ「コルレスボンデンス」先ハ現在幾箇所ニシテ前期末ニ比スレハ幾箇所ヲ増又ハ減セリ其ノ取組先ハ左ノ如シ

地名	取引先	本店地名	取引先	支店地名	取引先	會社又ハ個人

本店

二十一 損益

一金 何 圓 本店當期總益金
 一金 何 圓 各支店當期總益金
 計金 何 圓
 一金 何 圓 本店當期總損金
 一金 何 圓 各支店當期總損金
 計金 何 圓
 差引
 一金 何 圓 純益金又ハ純損金
 一金 何 圓 前期繰越金(益又ハ損)
 計又ハ差引金何圓 利益金又ハ損失金
 此配當計算左ノ如シ (利益金アル場合)

一金 何 圓 法定積立金
 一金 何 圓 所有物消却積立金
 一金 何 圓 配當金(年何割)
 一金 何 圓 賞與金
 後期繰込

右之通ニ候也

明治何年何月何日

銀行之印

前記ノ各項調査ヲ遂ケ其ノ正確ナルヲ保證候也

何 銀行 行
 同 取締役 何 某印
 同 同 同
 同 同 同
 同 監査役 何 某印

(個人、合名、合資、合資株式會社モ右ニ準シ記載スヘシ)
 二十二 損益計算書

利	手	割	公	利	手	割	公
利息	料	料	利息	利息	料	料	利息
摘要	金額	損	摘要	金額	損	摘要	金額
摘要	金額	損	摘要	金額	損	摘要	金額
摘要	金額	損	摘要	金額	損	摘要	金額

第十六輯 銀行、度量衡

株券配當金
有價證券賣却益
金銀較差益
流込物件益
前期繰越金

合計

金銀較差損
流込物件損
給付料
諸稅費
雜益
純立益
積立金
配當金
後期繰込金

合計

八一〇

明治何年何月何日

何道府郡何地
何銀行印

貸借對照表
貸借對照表ハ本店並支店各自ノ分ト之ヲ總括シタル分ト各別ニ調製スヘシ
本店貸借對照表

摘要	金額	摘要	金額
	金額		金額
貸付金		官公金預金	
當座預金		定期預金	
割引手形		當座預金	

荷爲換手形
預價證券
有價證券
支店へ貸(幾箇所)
他店ヨリ借(幾箇所)
支拂引受返書手形及保證
債務見返勘定
未拂込資本金
支店元金
營業用地所建物
營業用什器
抵當質物流込物件
金銀有高

小口當座預金
別段預金
支拂送金爲換手形
借入金
支店ヨリ借(幾箇所)
他店ヨリ借(幾箇所)
支拂引受返書手形及保證
債務見返勘定
資本金
法定積立金
任意積立金
未拂配當金
前期繰越金
前期純益金
當期純益金

八一

明治何年何月何日

何道府郡何地
何銀行印

支店貸借對照表

第十六輯 銀行、度量衡

明治何年何月何日 何道何府何地	<table border="0"> <tr> <td>貸付金</td> <td>當座預金</td> <td>割引手形</td> <td>荷爲替手形</td> <td>預爲</td> <td>有價證券</td> <td>本店(貸(幾箇所))</td> <td>支拂引受裏書手形及保證債務見返勘定</td> <td>營業用地</td> <td>營業用什器</td> <td>金銀有高</td> <td>內譯</td> <td>正貨</td> <td>兌換券及銀行券</td> <td>切手々形</td> <td>合計</td> </tr> </table>													貸付金	當座預金	割引手形	荷爲替手形	預爲	有價證券	本店(貸(幾箇所))	支拂引受裏書手形及保證債務見返勘定	營業用地	營業用什器	金銀有高	內譯	正貨	兌換券及銀行券	切手々形	合計
	貸付金	當座預金	割引手形	荷爲替手形	預爲	有價證券	本店(貸(幾箇所))	支拂引受裏書手形及保證債務見返勘定	營業用地	營業用什器	金銀有高	內譯	正貨	兌換券及銀行券	切手々形	合計													
<table border="0"> <tr> <td>官公金預金</td> <td>定期預金</td> <td>當座預金</td> <td>小口當座預金</td> <td>別段預金</td> <td>支拂送金爲換手形</td> <td>他店ヨリ借(幾箇所)</td> <td>支拂引受裏書手形及保證債務</td> <td>借入金</td> <td>本店ヨリ借</td> <td>支拂送金爲換手形</td> <td>別段預金</td> <td>小口當座預金</td> <td>當座預金</td> <td>定期預金</td> <td>官公金預金</td> </tr> </table>													官公金預金	定期預金	當座預金	小口當座預金	別段預金	支拂送金爲換手形	他店ヨリ借(幾箇所)	支拂引受裏書手形及保證債務	借入金	本店ヨリ借	支拂送金爲換手形	別段預金	小口當座預金	當座預金	定期預金	官公金預金	
官公金預金	定期預金	當座預金	小口當座預金	別段預金	支拂送金爲換手形	他店ヨリ借(幾箇所)	支拂引受裏書手形及保證債務	借入金	本店ヨリ借	支拂送金爲換手形	別段預金	小口當座預金	當座預金	定期預金	官公金預金														

第何期貸借對照表

第何期貸借對照表	<table border="0"> <tr> <td>貸付金</td> <td>當座預金</td> <td>割引手形</td> <td>荷爲換手形</td> <td>預爲</td> <td>有價證券</td> <td>本店(貸(幾箇所))</td> <td>支拂引受裏書手形及保證債務見返勘定</td> <td>營業用地</td> <td>營業用什器</td> <td>金銀有高</td> <td>內譯</td> <td>正貨</td> <td>合計</td> </tr> </table>													貸付金	當座預金	割引手形	荷爲換手形	預爲	有價證券	本店(貸(幾箇所))	支拂引受裏書手形及保證債務見返勘定	營業用地	營業用什器	金銀有高	內譯	正貨	合計	
	貸付金	當座預金	割引手形	荷爲換手形	預爲	有價證券	本店(貸(幾箇所))	支拂引受裏書手形及保證債務見返勘定	營業用地	營業用什器	金銀有高	內譯	正貨	合計														
<table border="0"> <tr> <td>官公金預金</td> <td>定期預金</td> <td>當座預金</td> <td>小口當座預金</td> <td>別段預金</td> <td>支拂送金爲換手形</td> <td>他店ヨリ借(幾箇所)</td> <td>支拂引受裏書手形及保證債務</td> <td>借入金</td> <td>本店ヨリ借</td> <td>支拂送金爲換手形</td> <td>別段預金</td> <td>小口當座預金</td> <td>當座預金</td> <td>定期預金</td> <td>官公金預金</td> </tr> </table>													官公金預金	定期預金	當座預金	小口當座預金	別段預金	支拂送金爲換手形	他店ヨリ借(幾箇所)	支拂引受裏書手形及保證債務	借入金	本店ヨリ借	支拂送金爲換手形	別段預金	小口當座預金	當座預金	定期預金	官公金預金
官公金預金	定期預金	當座預金	小口當座預金	別段預金	支拂送金爲換手形	他店ヨリ借(幾箇所)	支拂引受裏書手形及保證債務	借入金	本店ヨリ借	支拂送金爲換手形	別段預金	小口當座預金	當座預金	定期預金	官公金預金													

兌換券及銀行券、 切手々形、 計	合
計	合

明治何年何月何日

何道何郡何地

何銀行印

韓國外ニ本店ヲ有スル銀行ノ支店ハ韓國ニ本店ヲ有スル銀行ニ準シ銀行全體ノ營業報告ヲ差出スヘシ
 韓國外ニ本店ヲ有スル銀行ノ支店ハ支店貸借對照表及銀行全體ノ貸借對照表ヲ差出スヘシ又支店二箇以上
 アルトキハ外ニ韓國各店ヲ總括シタル貸借對照表ヲ添フヘシ

(乙號樣式)

何月實際報告

明治何年何月何日

韓國何道何郡何地

何銀行

明治何年何月當銀行實際報告書ヲ調製シ茲ニ之ヲ提出ス
 何月末日貸借對照表

(月末貸借對照表ハ年度末貸借對照表ニ準シ韓國ニ於ケル本店及各支店各別ノモノト之ヲ總括シタルモ
 ノトヲ調製スヘシ)

預金	金			貸出金	金		
	最高	最低	平均		最高	最低	平均
定期預金				貸付金			

金利

當座預金	當座預金貸越
小口當座預金	割引手形
其ノ他預金	荷爲換手形

(各項ノ金利ハ其ノ標準トナルヘキ利率ヲ記入スヘシ)

最高最低ハ一箇月中ニ利率ノ變動アリシ場合ニ限リ記入スヘシ

小口當座預金ノ科目ヲ設ケス特別當座預金ノ科目ヲ有スル銀行ニ在リテハ小口當座預金ノ欄ニ之ヲ記入スヘシ

約束手形ノ科目ヲ有スル銀行ニ在リテハ割引手形ト看做シ記入スヘシ)

●韓國銀行總裁、理事ニシテ韓國銀行條例違犯ニ對スル制裁 四十二年七月
統令第二十二號

韓國銀行總裁、理事ニシテ韓國銀行條例第四十一條ノ事犯アリタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス
 前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

●度量衡ニ關スル制 四十二年九月
統令第二十三號

第一條 度量衡ニ關シテハ韓國ノ度量衡法及度量衡法施行規則ニ依ル

前項ノ度量衡法及度量衡法施行規則中政府又ハ當該官吏トアルハ本令ノ適用ト韓國政府又ハ韓國ノ當該官
 吏ニ該當ス但シ度量衡法第七條第二項及度量衡法施行規則第十條ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 韓國度量衡法第八條各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 韓國度量衡法施行規則第十一條各號ノ一ニ該當スル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十六輯 銀行、度量衡

第十七輯

特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權

第一章 特許

●韓國特許令

四十二年十月
勅令第三百四號

韓國特許令

- 第一條 韓國ニ於ケル特許ニ關シテハ特許法ニ依ル但シ同法中帝國トアルハ韓國ニ、外國トアルハ日本國及韓國以外ノ國ニ、特許局トアルハ統監府特許局ニ、區裁判所トアルハ統監府區裁判所ニ、大審院トアルハ統監府高等法院ニ、通常裁判所トアルハ統監府裁判所ニ該當ス
- 第二條 特許法第八條ノ政府ハ日本國ノ政府又ハ韓國ノ政府ニ、同法第十二條及第十八條ノ帝國ハ日本國又ハ韓國ニ該當ス但シ同法第十八條ノ場合ニ於ケル第十二條ノ代理人ハ韓國内ニ於ケル代理人ニ該當ス九十九
- 第三條 特許法第三十條第二項ノ規定ニ依ル特許權存續期間ノ延長ニ關シテハ明治四十二年勅令第二百八號ニ依ル但シ同令中主務大臣トアルハ統監ニ、特許局長トアルハ統監府特許局長ニ該當ス
- 第四條 本令ハ日韓兩國ノ臣民ニ對シ發明ニ付同様ノ保護ヲ與ヘ且韓國ニ於テ發明ノ保護ニ關シ治外法權ヲ行使セサル國ノ臣民及人民ニモ之ヲ適用ス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

舊令ニ依リ受ケタル特許ハ本令ニ依リ受ケタルモノト看做ス但シ舊令第四條及第五條ニ依ル特許ニ付テハ舊令第四條第一項但書第二項及第五條但書ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

(參照)

●特許法

四十二年四月
法律第二十號

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

第一章 總則

第一條 新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付本法ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得
 第二條 自己ノ特許發明又ハ特許出願中ノ發明ニ付改良又ハ擴張ヲ爲シタル者ハ其ノ改良又ハ擴張ニ係ル新規ノ發明ニ付追加特許ヲ受クルコトヲ得自己ノ特許發明又ハ特許出願中ノ發明ニ付他人ノ爲シタル改良又ハ擴張ニ係ル新規ノ發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル者亦同シ

前項ノ場合ニ於テ特許出願中ノ發明カ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタルトキハ追加特許ノ出願ハ之ヲ獨立ノ特許出願ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ獨立ノ特許出願ハ追加特許出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三條 職務上又ハ契約上爲シタル發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ハ勤務規程又ハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ職務ヲ執行セシムル者又ハ使用者ニ屬ス

職務ノ執行又ハ契約ノ履行ニ依ル勤務中公務員又ハ被用者ノ爲シタル發明ニシテ職務上又ハ契約上爲シタルモノニ非サル發明ニ付發明前豫メ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ讓渡セシムルコトヲ定メタル勤務規程又ハ契約ノ條項ハ之ヲ無効トス

本條ニ於テ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ指フ

第四條 本法ニ於テ發明ノ新規ト稱スルハ左ノ各號ニ該當セサルモノヲ指フ
 一 特許出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用非ラレタルモノ
 二 特許出願前容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國内ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノ

第五條 發明カ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ之ヲ新規ナルモノト看做ス
 一 發明カ試験ノ爲前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル時ヨリ二年以内ニ特許ヲ出願シタルトキ
 二 同一發明ニ關スル特許出願中若ハ實用新案登錄出願中又ハ其ノ特許權若ハ實用新案權ノ存續中其ノ發明カ前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ

第六條 左ニ掲クル發明ニ付テハ之ヲ特許セス
 一 飲食物、嗜好物
 二 醫藥、其ノ調合法
 三 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ

第七條 特許出願カ二以上ノ發明ヲ包含スルトキハ之ヲ分割スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ最初出願ノ時ニ於テ各出願ヲ爲シタルモノト看做ス

第八條 政府、道、府縣若ハ政府ノ認可ヲ得タルモノノ開設スル博覽會、共進會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ開設スル官設若ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品スル發明ニ付其ノ開會ノ日ヨリ六月以内ニ特許ヲ出願シタルトキハ開會ノ日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ命令ヲ以テ前項ノ出品ニ付豫メ届出ツヘキコトヲ規定シタル場合ニ於テ其ノ届出ヲ忘リタル者ニ對シ之ヲ適用セス
第一項ノ外外國ノ版圖内ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品スル發明ニ付保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第九條 同一發明ニ付各別ニ特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者二人以上アルトキハ最先ニ發明ヲ爲シタル者ニ限り特許ス其ノ同時ノ發明ニ係ルトキ又ハ發明ノ前後不明ナルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタル者ニ限り特許ス但シ同日ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ特許セス

特許權發生後二年ヲ經過シタルトキハ最先ニ與ヘタル特許ニ限り有效トス
第十條 特許ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス
特許ヲ受クルノ權利ノ承繼ハ特許出願前ニ在リテハ特許ヲ出願シ特許出願後ニ在リテハ出願人ノ名義變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ
第三者ニ對抗スルコトヲ得但シ同日ノ出願又ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十一條 特許出願ノ發明カ公益ノ爲普及ヲ要スルモノナルトキ又ハ軍事上必要ナルモノ若ハ秘密ヲ要スルモノナルトキハ特許ヲ與ヘス又ハ制限ヲ付シテ特許ヲ與フルコトヲ得
發明カ軍事上必要ナルモノ又ハ秘密ヲ要スルモノナルトキハ其ノ發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ハ政府ニ於テ之ヲ收用スルコトヲ得

第十二條 帝國内ニ在ラサル者ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外帝國内ニ住所又ハ居所ヲ有スル代理人ニ依ルニ非サレハ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シ又ハ特許權若ハ特許ニ關スル權利ヲ主張スルコトヲ得ス
前項ノ特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ代理人ハ特ニ授ケラレタル權限ノ外本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ因ル手續並特許ニ關スル民事訴訟、私訴及告訴ニ付本人ヲ代表ス

第十三條 前條第二項ノ特許權者又ハ特許權ニ關シテ登錄シタル權利ヲ有スル者ノ代理人ノ選任若ハ變更又ハ其ノ代理權ノ變更若ハ消滅ハ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
前項ニ該當スルモノヲ除クノ外特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ノ代理人ノ變更又ハ其ノ代理權ノ變更若ハ消滅ハ特許局ニ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ特許局ニ對抗スルコトヲ得ス

第十四條 特許ニ關スル代理人アルトキハ特許局ニ對シテハ共同又ハ各別ニ本人ヲ代表ス
第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

第十五條 特許局長ニ於テ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得
特許局長又ハ審判長ニ於テ當事者又ハ其ノ代理人カ手續又ハ演述ヲ爲スノ能力ナシト認ムルトキハ特許辦理士ヲ以テ代理セシムヘキコト
ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ命令アリタル後第一項ノ代理人又ハ第二項ノ當事者若ハ代理人ノ特許局ニ對シテ爲シタル行爲ハ之ヲ無効ト爲スコトヲ得
第十六條 特許局ニ對シテ爲スヘキ事項ノ代理業ハ特許辦理士ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

特許辦理士ノ資格、登録、監督、懲戒等ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十七條 數人共同シテ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者又ハ特許權ノ共有者ハ特許局ニ對シ各人互ニ代表スルモノトス但シ
特ニ代表者ヲ定メ特許局ニ届出タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條第二項ノ規定ハ前項但書ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第十八條 特許權者ニシテ帝國内ニ住所ヲ有セザルトキハ第十二條ノ代理人ノ住所又ハ居所、其ノ代理人ナキモノニ在リテハ特許局ノ所在
地ヲ以テ民事訴訟法第十七條ノ財産所在地ト看做ス

第十九條 特許局長ハ外國又ハ遠隔若ハ交通不便ノ地ニ住居スル者ノ爲職權ヲ以テ又ハ請求ニ依リ特許局ニ對シ手續ヲ爲スヘキ法定ノ期間
ヲ延長スルコトヲ得

第二十條 特許ニ關シ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者ニシテ法定又ハ指定ノ期間ヲ懈怠シタルトキハ其ノ出願、請求其ノ他ノ手續ハ
之ヲ無効ト爲スコトヲ得

法定又ハ指定ノ期間ヲ懈怠シタル場合ニ於テ特許局長又ハ審判長若キハ其ノ障礙ニ因ルモノト認ムルトキハ其ノ障礙ノ止ミタル後十四日
以内ニ限リ請求ニ依リ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得但シ期間満了後一年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 特許局ニ差出スヘキ書類其ノ他ノ物件ニ付差出ノ效力ヲ生スヘキ時期ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ權利義務ハ其ノ特許權又ハ特許ニ
關スル權利ト共ニ移轉ス

本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續ハ特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ承繼人ニ對シ其ノ效力ヲ有ス
第二十三條 特許局ニ事件ノ變換中ニ於テ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ移轉アリタルトキハ承繼人ニ對シテ手續ヲ續行スルコトヲ得

第二十四條 本法ニ規定スルモノノ外特許局ニ登録ノ手續ノ中斷、中止及續行ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 特許ニ關スル證明、特許證ノ複本、書類ノ謄本、圖面ノ複製又ハ書類ノ閲覧若ハ謄寫ヲ要スル者ハ其ノ事由ヲ疏明シ特許局長
ニ之ヲ請求スルコトヲ得但シ特許局長ニ於テ秘密ヲ要スト認ムルモノハ之ヲ許可セズ

第二十六條 軍事上秘密ヲ要スル發明ニ付テハ本法ニ規定スルモノノ外命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十七條 外國人ニシテ帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セザル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外特許權又ハ特許ニ關スル
權利ヲ享有スルコトヲ得ス

特許ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二章 特許權
第二十八條 特許權ハ登録ニ依リ發生ス

特許權者ハ物ノ特許發明ニ在リテハ其ノ發明ニ係ル物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有シ方法ノ特許發明ニ在リテハ其ノ方
法ヲ使用シ及其ノ方法ニ依リテ製作シタル物ヲ使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

新規ナル同一ノ物ハ同一ノ方法ニ依リテ製作シタルモノト推定ス
同一發明ニ關シテハ特許權ハ其ノ出願前ノ出願ニ係ル實用新案權ニ依リ制限ヲ受クルモノトス

第二十九條 特許權ノ效力ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス
一 研究又ハ試験ノ爲ニスル特許發明ノ應用

二 特許出願ノ際現ニ善意ニ帝國内ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ若ハ設備ヲ有スル者又ハ其ノ承繼人ノ特許發明ノ實施

三 單ニ帝國内ヲ通過スル運輸具及其ノ裝置

四 特許出願ノ際ヨリ帝國内ニ在ル物及第一號又ハ第二號ニ依リ製作シタル物

第三十條 特許權ノ存續期間ハ十五年トス但シ特許權カ分割セラレ又ハ追加特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタルトキハ其ノ存續期間ハ原特許
權發生ノ翌日ヨリ起算ス

前項ノ期間ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ三年以上十年以下之ヲ延長スルコトヲ得

第三十一條 冒認シタル他人ノ發明ニ付受ケタル特許權ヲ無効トシ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタルトキハ其ノ特許權ハ無効ト爲リタル特許權
發生ノ日ニ於テ發生シタルモノト看做ス

第三十二條 特許權ハ制限ヲ付シ又ハ付セスシテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十三條 特許權ノ移轉、拋棄ニ依ル消滅若ハ處分ノ制限又ハ特許權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ハ其ノ
登録ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十四條 追加特許權ハ原特許權ニ附隨スルモノトス

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ原權利ノ範圍内ニ於テ特許發明ヲ實施スルノ權利ヲ有ス

一 特許カ第四十八條ノ規定ニ依リ無効ト爲リタル場合又ハ同一發明ニ對スルニ二以上ノ特許中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於テ善意ナル原特許權者

二 前號ノ原特許權ニ付善意ニ使用又ハ實施ノ權利ヲ得テ登錄ヲ受ケタル者

第三十六條 前條ノ權利ハ特許發明實施ノ事業ト共ニスル場合ニ限リ移轉スルモノトス

第三十三條ノ規定ハ前條ノ權利ニ之ヲ準用ス

第三十七條 第三十五條ノ權利ハ其ノ發生後一年以内ニ登錄ヲ受ケルニ非サレハ消滅ス

第三十八條 特許發明カ他人ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ使用スルニ非サレハ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ特許權者又ハ實用新案權者正當ノ理由ナクシテ其ノ使用ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ特許發明ノ使用ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ使用セラルヘキ發明ノ特許權發生ノ日ヨリ三年ヲ經過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ特許發明ヲ使用セラルル者其ノ使用ヲ必要トスル相手方ノ特許發明ニ付使用ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ相手方カ正當ノ理由ナクシテ其ノ使用ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ他人ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ使用スル者ハ特許權者、實用新案權者其ノ他特許權又ハ實用新案權ニ關シ登錄シタル權利ヲ有スル者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

第三十九條 前條ノ規定ニ依リ他人ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ使用セムトスル者ハ補償金ノ支拂又ハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ使用ヲ爲スコトヲ得但シ審決又ハ判決確定前ト雖其ノ審決又ハ判決ニ依ル補償金ヲ供託シタルトキハ其ノ使用ヲ爲スコトヲ得

第四十條 特許權者ハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得

前項ノ實施許諾ヲ得タル者ハ特許權者ノ承諾アルニ非サレハ其ノ實施權ヲ讓渡スルコトヲ得但シ發明實施ノ事業ト共ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條 特許發明ニ付使用ノ許諾、審決、判決又ハ實施許諾ヲ得タル者ニシテ其ノ登錄ヲ受ケルコトキハ其ノ使用權又ハ實施權ハ爾後其ノ特許權ヲ取得シタル者又ハ其ノ特許權ヲ目的トシテ設定シタル質權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第四十二條 特許權者特許發明ノ明細書又ハ圖面ノ不完全ニ作製セラレタルコトヲ發見シタルトキハ特許權改訂ノ許可ヲ受ケルコトヲ得

特許權者特許發明ヲ分割シテ二以上ノ特許權ト爲サムトスルトキハ特許權分割ノ許可ヲ受ケルコトヲ得但シ其ノ各部分カ特許出願ノ當時獨立シテ新規ノ發明ヲ爲ササルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ場合ニ於テハ改訂又ハ分割前ノ發明ノ要部ヲ變更スルコトヲ得ス

特許權ノ改訂及分割ハ登錄ニ依リ其ノ效力ヲ生ス

第四十三條 特許權ハ其ノ制限付讓渡ヲ受ケタル者、實施許諾ヲ得タル者又ハ質權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ之ヲ改訂シ又ハ放棄スルコトヲ得ス

第四十四條 軍事上秘密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナル場合ニ於テハ特許權ハ之ヲ制限シ又ハ政府ニ於テ之ヲ收用シ、特許ハ之ヲ取消シ又ハ政府ニ於テ其ノ發明ヲ實施スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ政府ハ相當ノ補償金ヲ特許權者又ハ特許發明ヲ使用者ハ實施スルノ權利ヲ有スル者ニ支給ス

第四十五條 先取特權又ハ質權ハ本法ニ依リ受ケヘキ補償金其ノ他特許權ノ對價又ハ特許發明ノ使用若ハ實施ニ對シテ受ケヘキ金銀若ハ金錢以外ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第四十六條 特許權ノ收用アリタルトキハ其ノ特許發明ニ關スル特許權以外ノ權利ハ消滅ス

第四十七條 正當ノ理由ナクシテ特許權發生後三年以上其ノ發明ヲ帝國内ニ於テ適當ニ實施セズ又ハ三年以上其ノ實施ヲ中止シタル場合ニ於テハ特許局長ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第四十八條 權利確認ノ査定若ハ之ニ對スル審決確定シ又ハ判決アリタル爲出願カ特許又ハ許可スヘキモノト決定シタルトキハ其ノ抵觸スル發明ニ係ル特許ハ之ヲ無効トス

第四十九條 特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割ノ許可カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 特許カ第一條乃至第三條、第六條、第九條、第十條第二項又ハ第二十七條ノ規定ニ反シタルトキ

二 特許カ特許ヲ受ケルノ權利ヲ冒認シタル者ニ對シテ與ヘラレタルトキ

三 特許權ノ分割シタル部分カ特許出願ノ當時獨立シテ新規ノ發明ヲ爲ササルトキ又ハ特許權ノ改訂若ハ分割カ第四十二條第三項ノ規定ニ反シタルトキ

四 發明ノ明細書ニ其ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ記載セズ又ハ其ノ實施ヲ不能若ハ困難ナラシムル爲必要ナラサル事項ヲ故意ニ記載シタルトキ

特許又ハ許可ハ特許權消滅後ト雖之ヲ無効ト爲スコトヲ妨ケズ

第五十條 特許無効ト爲リタルトキハ特許權ハ初メヨリ存在セサルモノト看做ス

特許ノ取消アリタルトキハ特許權ハ以後其ノ效力ヲ失フ

第五十一條 特許權ハ相續人ナキトキハ消滅ス

第五十二條 特許カ取消サレ若ハ無効ト爲リ又ハ特許權カ放棄ニ依リ消滅シタル場合ニ於テ追加特許權アルトキハ其ノ追加特許權ハ獨立ノ

第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

八二三

特許權ト爲ル

前項ノ場合ニ於テ獨立ノ特許權ト爲リタルモノニ係ル追加特許權アルトキハ其ノ追加特許權ハ獨立ト爲リタル特許權ノ追加特許權ト爲ル

第三章 登録、特許證、公報、特許標記及特許料

第五十三條 特許局ニ特許原簿ヲ備ヘ特許權及之ヲ目的トスル實權ノ設定、變更、移轉、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス

第五十四條 特許スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ特許原簿ニ登録シ特許證ヲ下付ス特許權ノ改訂又ハ分割ヲ許

第五十五條 特許局ハ特許發明ノ明細書及特許公報ヲ發行シ特許發明及之ニ關スル必要ナル事項ヲ記載スヘシ但シ秘密ヲ要スル特許發明ニ

第五十六條 特許權者又ハ特許發明ニ付實施ノ權利ヲ有スル者ハ其ノ特許ニ係ル物ニ特許標記ヲ付スヘシ物ノ性質ニ依リ之ヲ付スルコト能

ハサルトキハ其ノ容器、包裝等ニ之ヲ付スヘシ

特許權者ハ特許發明ニ付使用若ハ實施ノ權利ヲ有スル者又ハ第二十九條第一號若ハ第二號ノ應用者ハ實施ヲ爲ス者ニ對シ特許標記ヲ付ス

ヘキコトヲ請求スルコトヲ得

特許標記ヲ付スルコトヲ忘リタル爲特許ニ係ル物ナルコトヲ知ラスシテ其ノ權利ヲ侵害シタル者ニ對シテハ要價ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

前三項ノ規定ハ特許ニ係ル物ノ一部分分離シテ販賣又ハ擴布スル場合ニ於テ其ノ分離シテ販賣又ハ擴布スル物ニ之ヲ準用ス

第五十七條 特許權ノ登録ヲ受クル者及特許權主ハ特許料トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年乃至第三年分 登録ヲ受クルトキ一時 金二十圓

二 第四年乃至第六年 毎年 金十圓

三 第七年乃至第九年 毎年 金十五圓

四 第十年乃至第十二年 毎年 金二十四圓

五 第十三年乃至第十五年 毎年 金二十五圓

特許權存續期間延長ノ登録ヲ受クル者及其ノ特許權主ハ特許料トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年乃至第三年分 登録ヲ受クルトキ一時 金百五十圓

二 第四年乃至第六年 毎年 金七十四圓

三 第七年乃至第十年 毎年 金百圓

追加特許權ノ登録ヲ受クル者ハ追加特許料トシテ登録ヲ受クルトキ每件一時金十五圓ヲ納付スヘシ

特許權存續期間延長ノ場合ニ於テ追加特許料アルトキハ第二項第一號ノ特許料ニ每件金三十圓ヲ加フ

前四項ノ規定ハ國ニ屬スル特許權ニ付之ヲ適用セス

第五十八條 毎年ノ特許料ハ其ノ翌年分ヲ前納スヘシ但シ數年分ヲ前納スルコトヲ妨ケス

特許料又ハ追加特許料ヲ納付スヘキ者カ發明者又ハ其ノ相續人ニシテ之ヲ納付スルノ實力ナシト認ムル場合ニ於テハ前條第一項第一號ノ

特許料又ハ追加特許料ハ二年以内其ノ納付ヲ猶豫シ又ハ之ヲ減免スルコトヲ得

第五十九條 利害關係人ハ特許料又ハ追加特許料ヲ納付スヘキ者ニ代リ之ヲ納付スルコトヲ得

第六十條 既納ノ特許料及追加特許料ハ之ヲ還付セス

第六十一條 特許料ノ納付ヲ忘リタルトキハ特許ヲ取消スコトヲ得追加特許料ノ納付ヲ忘リタルトキ其ノ追加特許ニ付亦同シ

第四章 審査及再審査

第六十二條 特許ノ出願又ハ特許權ノ改訂若ハ分割許可ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ査定セシム

前項ノ査定ハ第六十三條ノ場合ヲ除クノ外特許スヘキヤ否又ハ許可スヘキヤ否ヲ決定ス

第六十三條 審査官ハ出願ニ係ル發明カ他人ノ出願ニ係ル發明又ハ特許發明ト抵觸スト認メタル場合ニ於テハ發明抵觸ノ査定ヲ爲スヘシ但

シ特許又ハ許可ヲ拒絕スヘキ他ノ理由アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 發明抵觸ノ査定確定シ又ハ審決アリタルトキハ審査官ヲシテ出願者ノ權利確認ノ査定ヲ爲サシム

前項ノ場合ニ於テ特許局長ハ出願者又ハ特許權者ヲシテ權利ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ

前項始末書ノ差出アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ相手方ニ送達シ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第六十五條 第七十一條第二項及第七十六條ノ規定ハ權利確認ノ査定ニ之ヲ準用ス

權利確認ノ査定ニ於テハ出願者カ特許又ハ許可ヲ受クヘキ正當權利者ナリヤ否ヲ決定シ其ノ出願ニ對スル許否ヲ表示スヘシ

第六十六條 第六十二條第二項ノ査定又ハ發明抵觸ノ査定ニ不服アルモノハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ不服理由書ヲ差出シ

再審査ヲ請求スルコトヲ得

再審査ノ請求アリタルトキハ前審査ニ干與セサル審査官ヲシテ之ヲ査定セシム

第六十七條 審査又ハ再審査ニ關シ必要ナル場合ニ於テハ職權ヲ以テ又ハ當事者ノ申立ニ依リ證據調ヲ爲スコトヲ得

第六十八條 審査、特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

八二五

證據調ニ關シテハ民事訴訟法中證據調ニ關スル規定ヲ準用ス但シ特許局ニ於テ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ首渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得ス

證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所其ノ他區裁判所ノ事務ヲ行フ官廳ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第六十八條 本法ニ規定スルモノノ外審査又ハ再審査ニ關スル書類ニシテ送達スヘキモノ及送達ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 審判、抗告審判及出訴

第六十九條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一 第四十九條ノ規定ニ依ル特許又ハ許可ノ無効

二 特許權ノ範圍ノ確認

審判ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限り之ヲ爲スコトヲ得但シ審査官ハ前項第二號ノ審判及第三條、第九條又ハ第十條第二項ノ規定ニ反ストノ理由ニ依ル前項第一號ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第七十條 審判ノ請求ハ審判請求書ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

審判請求書ニハ一定ノ申立及理由ヲ記載スヘシ

第七十一條 審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請求人ニ送達シ期間ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシメ其ノ答辯書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送達スヘシ

審判ニ關シテハ當事者ノ差出シタル書類ニ對シ相手方ナシテ答辯書ヲ差出サシメ又ハ當事者ニ訊問書ヲ發シテ之ニ對スル意見書ヲ差出サシムルコトヲ得

第七十二條 審判ハ審判官三人ノ合議ニ依リ之ヲ行フ

合議ハ過半数ニ依リ之ヲ決ス

審判長ハ審判官中ノ上席者ヲ以テ之ニ充ツ

審判長ハ各審判事件ニ關スル事務ヲ掌理ス

第七十三條 審判官ハ各審判事件ニ付之ヲ指定ス

審判官中審判ニ干與スルニ故障アル者アルトキハ其ノ指定ヲ解キ更ニ他ノ審判官ヲ以テ之ヲ補充ス

第七十四條 審判官ハ左ノ場合ニ於テ審判ニ干與スルコトヲ得ス

一 當事者カ自己又ハ親族ナルトキ

二 當事者ノ法定代理人若ハ保佐人タルトキ又ハ法定代理人若ハ保佐人タリシトキ

三 其ノ事件ニ付當事者ノ代理人タルトキ又ハ代理人タリシトキ

四 其ノ事件ニ付利害關係ヲ有スルトキ

五 其ノ事件ニ付審査官トシテ審査ニ干與シタルトキ

第七十五條 審判長ハ職權ヲ以テ又ハ當事者ノ申立ニ依リ口頭審理ヲ爲スコトヲ得

口頭審理ハ之ヲ公開ス但シ公益又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十六條 請求人又ハ被請求人カ法定若ハ指定ノ期間内ニ手續ヲ爲サス又ハ期日ニ出頭セサルトキハ審判長ハ審判ヲ進行スルコトヲ得

第七十七條 審判ノ結果ニ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ審判ノ終結スル迄請求人又ハ被請求人ノ一方ヲ補助スル爲其審判ニ參加スルコトヲ得

參加人ハ其ノ參加ノ時ニ於ケル審判ノ程度ヲ妨ケサル限り審判ニ關スル總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ補助スル當事者ノ行爲ト牴觸スルモノハ其ノ效力ヲ有セス

第七十八條 參加ヲ爲サムトスル者ハ參加請求書ヲ審判長ニ差出スヘシ

審判長前項ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

當事者ハ參加ニ付指定ノ期間内ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

參加ノ許否ハ決定ヲ以テ之ヲ審判ス

第七十九條 審判ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外審決ヲ以テ之ヲ終結ス

審決ニハ理由ヲ付スヘシ

第八十條 第三十八條ノ規定ニ依ル審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第八十一條 審判ノ審決、權利確認ノ査定又ハ再審査ノ査定ニ不服アル者ハ審決又ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ審決ニ依ル補償金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 第七十條乃至第七十九條ノ規定ハ抗告審判ニ之ヲ準用ス但シ審判官三人又ハ五人ノ合議ニ依ル

審判ニ干與シタル審判官ハ同一事件ニ付抗告審判ニ干與スルコトヲ得ス

第八十三條 抗告審判ニ於テハ其ノ事件ニ付審決ヲ爲スヘシ

再審査ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テハ單ニ其ノ査定ヲ破毀シ更ニ審査ニ付スヘシトノ審決ヲ爲スコトヲ得其ノ破毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其ノ事件ニ付テハ審査官ヲ縛束ス

發明牴觸ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テ其ノ牴觸ナシト認メタルトキハ出願ニ對シ特許又ハ許可スヘキコトヲ併セテ審決スヘシ

第八十四條 第六十七條及第六十八條ノ規定ハ審判及抗告審判ニ之ヲ準用ス

第十七組 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

八二七

第八十五條 抗告審判ノ審決ニ不服アル者ハ其ノ審判カ法令ニ違背シタルコトヲ理由トスル場合ニ限り審決ノ違違ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得但シ再審査ノ査定ニ對スル審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ出訴及裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス

大審院ノ判決ニ於テ審決破毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其ノ事件ニ付テハ特許局ヲ驅束ス

第八十六條 本法ニ依ル補償金額ニ付不服アル者ハ補償金額ノ通知又ハ審決ノ違違ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十七條 特許ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決ノ登錄アリタルトキハ何人ト雖同一事實及同一證據ニ基キ同一審判ヲ請求スルコトヲ得

第八十八條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付特許權ノ效力又ハ範圍ニ關シ査定、審決又ハ判決ヲ待ツノ必要アル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第八十九條 審判及抗告審判ニ關スル費用ノ負擔ハ本案ノ審決ヲ以テ之ヲ定ム

第九十條 審判、抗告審判及出訴ノ費用額ハ請求ニ依リ特許局長之ヲ決定ス

第九十一條 前條ノ費用ノ負擔及費用額ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十二條 前條ノ費用ノ負擔及費用額ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十三條 審判、抗告審判及出訴ノ費用額ノ決定及本法ニ規定スル補償金額ノ確定審決ハ強制執行ニ關シテハ公證人ノ作リタル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ特許局官吏之ヲ付與ス

第九十四條 他人ノ特許權ヲ侵害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ特許權ヲ侵害スヘキ物ヲ輸入シタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第九十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ所爲ヲ以テ特許ヲ受ケタル者

二 特許ニ係ラサル物又ハ其ノ容器、包裝等ニ特許標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ其ノ物ヲ販賣若ハ擴布シタル者

三 特許ニ係ラサル物若ハ方法ヲ販賣若ハ擴布スル爲メ又ハ特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲廣告、看板、引札等ニ其ノ物若ハ方法ヲ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第九十六條 第九十二條ノ犯罪ニ因リ沒收スルコトヲ得ヘキ物ニ付判決官渡前被害者ヨリ請求アリタルトキハ之ヲ相當ノ代價ニ見積リ被害者ニ交付スル旨渡ヲ爲スヘシ

損害ノ額力交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過スルトキハ被害者ハ其ノ差額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第九十七條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第九十八條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 特許辦理士ニ非スシテ特許ニ關スル代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七章 附 則

(四十二年勅令第二百九十三號ヲ以テ明治四十二年十一月一日ヨリ施行ス)

第九十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十九條 従前ノ規定ニ依リ特許ハ本法ニ依リ受ケタルモノト看做ス

第一百條 本法施行前ニ發生シタル特許權ニ關シテハ第九條第二項ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ一年間之ヲ適用セス

第一百一條 本法施行ノ際現ニ特許代理業者タル者ハ特許辦理士トス

第一百二條 第三十五條ノ規定ハ本法施行前無効ト爲リタル特許ニ關シテハ之ヲ適用セス

第四十條 第二項ノ規定ハ本法施行前發生シタル實施權ニ關シテハ之ヲ適用セス

第三十條 舊法第十六條又ハ第十七條ノ報酬額ニ不服アル者ハ本法施行後六十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十條 本法施行前受ケタル特許ニ關スル第三年分迄ノ特許料ニ付テハ舊法ノ規定ニ依ル

前項ノ特許料ヲ除クノ外本法施行前二年分以前納シタル特許料ニ付テハ其ノ未タ納期ニ至ラサルモノニ限り本法ニ依リ納付スヘキ特許料ニ比シテ殘餘アルトキハ順次之ヲ後年分ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ還付ス

本法施行前納シタル特許料ニ付テハ舊法第四十條第二項但書ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ニ依リ還付ヲ受ケムトスル者ハ本法施行後一年以内ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

第一百五條 舊法ニ依リ利害關係人以外ノ者ノ爲シタル審判ノ請求ハ本法施行ノ爲其ノ效力ヲ失フコトナシ

第一百六條 本法施行ノ際現ニ發見スル審判ニシテ其ノ事件カ本法ノ抗告審判事件ニ該當スルモノナルトキハ抗告審判ヲ以テ之ヲ處理スヘシ

本法施行前ノ審決ニシテ其ノ事件カ本法ノ抗告審判事件ニ該當スルモノナルトキハ出訴ニ關シテハ之ヲ抗告審判ノ審決ト看做ス

第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

八二九

(參照)

●特許權ノ存續期間延長ニ關スル制 四十二年十月 勅令第二百九十八號

朕特許權ノ存續期間延長ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 重要ナル發明ノ特許權者ニシテ正當ノ事由ニ依リ其ノ特許權存續期間内ニ其ノ發明ヨリ生スヘキ相當ノ利益ヲ得ルコト能ハサリシ場合ニ於テハ其ノ存續期間ノ延長ヲ出願スルコトヲ得

軍事上秘密ヲ要スル發明ニ係ル特許權ニシテ國ニ屬スルモノニ付主務大臣ニ於テ其ノ存續期間ノ延長ヲ必要ト認メタル場合亦前項ニ同シ

第二條 存續期間ノ延長ヲ出願スル者ハ存續期間満了ノ日ヨリ六月以前ニ其ノ願書ニ特許權發生後ニ於ケル特許發明實施ノ狀況、其ノ發明ニ依リテ受ケタル利益並相當ノ利益ヲ得サリシ事由ヲ詳記シタル書面ヲ添附シ特許局長ヲ經由シテ之ヲ主務大臣ニ差出スヘシ

願書ニハ左ノ事項ヲ記載シ出願人署名捺印スヘシ
一 特許番號
二 發明ノ名稱
三 出願人ノ氏名又ハ名稱、住所
四 延長ノ期間
五 出願ノ要旨及理由

前條第二項ノ規定ニ依リ出願ニ付テハ第一項ノ期間及出願書ニ添附スヘキ書面ニ關スル規定ハ之ヲ適用セス

第三條 特許局長ハ意見書ヲ作リ之ヲ前條ノ願書ニ添附スヘシ

第四條 存續期間延長ノ出願アリタルトキハ主務大臣ハ五人又ハ七人ノ審査委員ヲ命ジ之ヲ審査セシムヘシ

第五條 前條ノ審査ヲ終リタルトキハ主務大臣ハ出願ノ許否ヲ決定スヘシ
決定ニハ理由ヲ附スヘシ

決定ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ決定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

主務大臣ハ出願ニ係ル期間ヲ短縮シ又ハ制限ヲ附シテ出願ヲ許可スルコトヲ得

第六條 第一條第二項ノ規定ニ依リ出願アリタルトキハ主務大臣ハ其ノ出願ヲ許可スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三條乃至第五條ノ規定ハ之ヲ適用セシ

第七條 期間延長ノ許可アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許原簿ニ登錄シ特許證ヲ下付スヘシ

附則

本令ハ特許法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●韓國特許令施行規則 四十二年十一月 勅令第五十六號

韓國特許令施行規則 四十二年十一月 勅令第五十六號

第一條 韓國特許令ノ施行ニ關シテハ特許法施行規則ニ依ル但シ同則中特許局トアルハ統監府特許局ニ、外國人トアルハ日本國及韓國以外ノ國ノ臣民又ハ人民ニ、外國法人トアルハ日本國及韓國以外ノ國ノ法人ニ、遞信者令トアルハ統監府令ニ、官報トアルハ統監府公報ニ、大審院トアルハ統監府高等法院ニ該當ス

第二條 軍事上秘密ヲ要スル發明ノ特許ニ付テハ明治四十二年勅令第二百九十九號ニ依リ但シ同令中特許局長トアルハ統監府特許局長ニ該當ス

第三條 特許ノ登録ニ關シテハ特許登録令及特許登録令施行規則ニ依ル但シ特許登録令中主務大臣トアルハ統監ニ、區裁判所トアルハ統監府區裁判所ニ、裁判所トアルハ統監府裁判所ニ該當ス

第一條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條 特許ニ關スル登録稅及手費料ニ付テハ登録稅法、明治四十二年勅令第三百三號及同年農商務省令第五十二號ニ依ル

附則

本令ハ韓國特許令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

舊韓國特許令第四條ノ特許ニ付テハ特許法施行規則、特許登録令及特許登録令施行規則中特許證及其ノ複本ニ關スル規定ヲ適用セシ

(參照)

●特許法施行細則 四十二年十月 勅令第四十二號

特許法施行細則

第一章 總則

第一條 特許局ニ對シテ爲ス特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ本則ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ書面ハ一件毎ニ一通ヲ作り差出人ノ住所、住所ヲ有セサル者ニ在リテハ居所又ハ營業所及差出ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ但シ第三十五條ニ掲ケル請求ニ在リテハ一件毎ニ一通ヲ作ルコトヲ要セシ

第十七號 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

八三一

本則ニ書式ノ定アル書面ハ其ノ書式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第二條 書面ハ日本語ヲ以テ明瞭ニ之ヲ認ムヘシ

委任狀、國籍證明書其ノ他添附ヲ要スル書類ニシテ外國語ヲ以テ認メタルモノニハ其ノ譯文ヲ添附スヘシ

第三條 書面ヲ以テ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ關係人又ハ相手方アルトキハ其ノ員數ニ應スル副本ヲ添附スヘシ

第四條 特許ヲ受ケルノ權利ヲ承繼シタル者カ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキハ其ノ承繼人タルコトヲ證明スルニ足ル書面ヲ差出スヘシ但シ其ノ事由ヲ附記シ被承繼人ト連署スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 代理人カ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキハ其ノ代理權ヲ證明スルニ足ル書面ヲ差出スヘシ但シ法人ノ代表者其ノ法人ノ名義ヲ以テスルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 外國人ニシテ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキハ國籍證明書、萬國工業所有權保護同盟條約國若ハ帝國ト特許ニ關シ相互保護條約ヲ締結シタル以外ノ國ノ臣民又ハ人民ニ在リテハ尙帝國若ハ萬國工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ住所又ハ現實且直轄ナル工業的若ハ商業的ノ營業所ヲ有スルコトヲ證明書ヲ差出スヘシ

外國法人ニ在リテハ法人タルコトヲ證明スヘシ

第七條 同時ニ數箇ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ前條ニ依リ差出スヘキ證明書ハ一通ヲ差出シ之ヲ添附セサル書面ニハ其ノ旨ヲ附記シテ證明書ノ差出ニ代ユルコトヲ得

第八條 前二條ノ場合ニ於テ他ノ事件ニ付特許局ニ對シ既ニ證明書ヲ差出シタル者ハ其ノ原本ヲ添附シテ證明書ノ差出ニ代ユルコトヲ得

特許局長必要ナル認ムルトキハ前二條ノ場合ニ於テ證明書ノ差出ヲ免除スルコトヲ得

第九條 特許權ニ關シ又ハ特許ニ關スル出願後其ノ出願ニ關シ書類其ノ他ノ物件ヲ差出ストキハ之ニ其ノ特許番號若ハ願書番號及發明ノ名稱ヲ表示シ審判又ハ抗告審判ノ請求後其ノ事件ニ關シ書類其ノ他ノ物件ヲ差出ストキハ之ニ審判番號又ハ抗告審判番號ヲ表示スヘシ

第十條 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ニシテ特許法又ハ本則ニ定メタル方式ニ違背シ若ハ成規ノ手敬料ヲ納メス又ハ差出シタル書類、雛形若ハ見本カ不明瞭若ハ不完備ナル場合ニ於テハ特許局長又ハ審判長ハ其ノ訂正、補充又ハ改造ヲ命スルコトヲ得但シ其ノ要旨ヲ變更スルモノハ此ノ限ニ在ラス

書類ノ番號又ハ之ニ類スル著シキ誤謬アルトキハ特許局長又ハ審判長ハ適宜之ヲ訂正又ハ補充スルコトヲ得

特許局ニ差出シタル書類、雛形又ハ見本ニ付差出人ハ之ヲ訂正、補充又ハ改造スルコトヲ得但シ其ノ要旨ヲ變更スルモノ又ハ審査、再審査、審判若ハ抗告審判ノ際屬中ニ非サルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 前條ノ場合ニ於テ特許願ヲ追加特許願ニ、追加特許願ヲ特許願ニ變更シ又ハ差出人カ明細書ニ記載シタル事項ノ範圍内ニ於テ特許請求ノ範圍ヲ増減、變更シ又ハ審査再審査、審判若ハ抗告審判ノ際屬中番號又ハ之ニ類スル著シキ誤謬ヲ訂正若ハ補充スルハ其ノ要旨ヲ變更スルモノト見做サス

第十二條 特許局長又ハ審判長ハ職權又ハ當事者ノ請求ニ因リ本則ニ定メタル期間又ハ特許法若ハ本則ノ規定ニ依リ特許局長又ハ審判長ノ定メタル期日若ハ期間ヲ變更スルコトヲ得

相手方又ハ關係人アル事件ノ期日若ハ期間ノ變更ノ請求ハ其ノ合意又ハ顯著ナル理由アル場合ニ限り之ヲ許可ス

第十三條 特許法第十五條第一項ノ規定ニ依リ代理人ノ改任ヲ命シタルトキハ特許局長ハ同時ニ其ノ旨ヲ代理人ニ通知スヘシ

第十四條 特許法第十三條第二項又ハ第十七條第二項ノ規定ニ依リ願書ニハ其ノ事實ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第十五條 他人ノ爲テ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者カ代理權ヲ有セザルトキハ特許局長又ハ審判長ハ相當ノ期間ヲ指定シ其ノ追完ヲ命シ假ニ其ノ手續ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ特許局長又ハ審判長ノ指定シタル期間内ニ代理權ノ欠缺ヲ追完セザルトキハ其ノ手續ハ之ヲ却下スヘシ

第十六條 特許法第二十條第二項ノ規定ニ依リ請求ヲ爲ス者ハ請求書ニ障礙ノ事實、其ノ發生及消除ノ年月日ヲ記載シ且之ヲ疎明スヘシ

前項ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ同時ニ其ノ懈怠シタル手續ヲ追完スヘシ

第十七條 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者又ハ其ノ代理人若ハ代表者カ其ノ氏名、名稱、住所又ハ印章ヲ變更シタルトキハ遅滞ナク其ノ旨ヲ特許局ニ届出ツヘシ住所ヲ有セザル者其居所又ハ營業所ヲ變更シタルトキ又ハ特許權者カ印章ヲ變更シタルトキ亦同シ

氏名又ハ印章ノ變更ノ届出ニハ證明書ヲ添附スヘシ

第十八條 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者又ハ特許權者カ死亡シタルトキハ其ノ承繼人又ハ親族ヨリ遅滞ナク其ノ旨ヲ特許局ニ届出ツヘシ

第十九條 審査、再審査、審判若ハ抗告審判ニ關シ必要アルトキハ出願人、當事者又ハ關係人ニ對シ特許局長又ハ審判長ハ雛形若ハ見本ノ差出ヲ命シ又ハ其ノ負擔ニ於テ試験ヲ爲サシムルコトヲ得

製品ノ原料カ發明ノ要部ヲ爲ストキハ雛形又ハ見本ハ其ノ原料ヲ用非テ之ヲ作ルヘシ

物質ノ發明ニ付見本ヲ差出ストキハ試験用ニ供スルニ足ル分量及其ノ成分ヲ提出スヘシ

第二十條 雛形又ハ見本カ破損、變化、紛失若ハ腐敗シ易キモノナルトキ又ハ危險ノ虞アルモノナルトキハ差出人ハ相當ノ手當ヲ爲シテ之ヲ差出スヘシ

雛形又ハ見本カ有毒ナルモノナルトキ又ハ爆發若ハ發火シ易キモノナルトキハ物品、容器又ハ其ノ包装上ニ其ノ旨ヲ表示シテ之ヲ差出ス

第二十一條 特許局ニ差出シタル難形、見本又ハ證據物件ノ運付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ差出ノ際豫メ其ノ旨ヲ申出ツヘシ
前項ノ申出ヲ爲シタル者ハ事件確定ノ日ヨリ六十日以内ニ其ノ受取ノ手續ヲ爲スヘシ但シ難形又ハ見本ニシテ特許局長カ必要ト認メタル
モノハ之ヲ還付セス

差出人ガ第一項ノ申出ヲ爲サザリシトキ又ハ前項ノ手續ヲ忘リタルトキハ特許局長ニ於テ適宜之ヲ處分スルコトヲ得

第二十二條 郵便ニ依リテ書類其ノ他ノ物件ヲ差出シタルトキハ消印記號ニ記載シタル日時ニ於テ差出シタルモノト看做ス

郵便物受領證ニ依リテ消印記號ニ記載シタル日時外ノ日時ニ差出シタルコトヲ證明シタルトキハ其ノ日時ニ差出シタルモノト看做ス其ノ
消印記號ナキ場合又ハ其ノ不明ナル場合ニ於テ郵便物受領證ニ依リテ其ノ差出シタル日時ヲ證明シタルトキ亦同シ

第二十三條 前條ノ場合ノ外書類其ノ他ノ物件ノ差出ノ效力ハ特許局ニ於テ之ヲ受領シタル日ニ於テ生ス

第二十四條 特許局ニ於テ爲スヘキ書類ノ送達ハ本則ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外左ノ規程ニ從ヒ郵便又ハ特許局ノ使丁ヲ以テ之ヲ爲ス

一 審判、抗告審判又ハ權利確認ノ査定ニ關スル書類ノ送達ハ民事訴訟法第三百三十八條乃至第四百零四條、第四百零二條、第四百零四條乃
至第四百零九條、第五百零一條第一項、第二項、第五百零四條及第五百零五條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ使丁又ハ郵便配達夫
ヲ以テ送達吏ニ進視ス

二 前號ノ書類ヲ除クノ外査定書其ノ他期日若ハ期間ノ定アル書類又ハ特許法第四十四條ニ依ル處分書ノ郵便ニ依ル送達ハ逓信省令ヲ以
テ定ムル特別ノ手續ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

特許局ノ使丁ヲ以テ送達ヲ爲ストキハ使丁ハ其ノ書類ノ封皮ニ送達ノ年月日時ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ書類ノ送達ヲ受ケタル者ハ
其ノ受領ノ年月日時ヲ記載シタル受領證ヲ使丁ニ交付スヘシ此ノ場合ニ於テ受取人受取ヲ拒ミ若ハ受領證ノ交付ヲ拒ミタルトキ又ハ
受領證ヲ作ルコト能ハサル旨ヲ述フルトキハ使丁ハ其ノ旨ヲ記載シタル調査書ヲ作り署名捺印シテ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ

三 其ノ他ノ書類ハ普通郵便又ハ特許局ノ使丁ヲ以テ送達ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第四百零九條ノ規定ハ前項第二號及第三號ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 住所又ハ居所ノ不明其ノ他ノ事由ニ因リテ書類ノ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ特許局長又ハ審判長ハ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ
公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ官報掲載ノ日ヨリ起算シテ二十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第二十六條 特許法第十三條第一項ノ規定ニ依リ代理人ノ選任ノ登錄ヲ受ケサル者ニ對スル送達ハ郵便ニ付シタル日ヲ以テ完了シタルモノ
ト看做ス

第二十七條 特許ニ關シ出願又ハ再審査、審判若ハ抗告審判ノ請求ヲ爲シタル者カ死亡シタルトキハ承繼人カ其ノ特許局ニ繫ル手續ヲ受繼
ト看做ス

クマテ之ヲ中断ス審判若ハ抗告審判ノ被請求人又ハ權利確認ノ査定ニ關スル關係人カ死亡シタルトキ亦同シ

第二十八條 特許ニ關スル出願、再審査、審判若ハ抗告審判ノ當事者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ手續カ破産財團ニ關スルトキ
ハ破産ニ付テノ規定ニ從ヒ手續ヲ受繼キ又ハ破産手續ヲ解止スルマテ之ヲ中断ス

第二十九條 特許ニ關スル出願又ハ再審査、審判若ハ抗告審判ノ請求ヲ爲シタル者、審判若ハ抗告審判ノ被請求人若ハ權利確認ノ査定ニ關
スル關係人カ訴訟能力ヲ失ヒ、其ノ法定代理人カ死亡シ又ハ其ノ代理權カ出願人、請求人、被請求人若ハ關係人ノ訴訟能力ヲ得ル前ニ消
滅シタルトキニ特許局ニ繫ル手續ハ法定代理人又ハ新法定代理人カ其ノ任假ヲ特許局ニ届出テ又ハ相手方カ其ノ手續ヲ續行セムトスルコ
トヲ特許局ニ届出ツルマテ之ヲ中断ス

前項ノ届出アリタルトキハ特許局長又ハ審判長ハ之ヲ相手方ニ通知スヘシ

第三十條 委任ニ因ル代理人ニ依リ特許ニ關スル出願又ハ再審査、審判若ハ抗告審判ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ代理權カ消滅シタル
トキハ其ノ届出ニ因リ本人若ハ其ノ代理人カ特許局ニ繫ル手續ヲ受繼クマテ之ヲ中断ス但シ委任ノ解除ニ因ル代理權消滅ノ場合ハ此ノ限
ニ在ラス

審判若ハ抗告審判ノ被請求人又ハ權利確認ノ査定ニ關スル關係人ノ委任ニ因ル代理人ノ代理權カ消滅シタルトキ亦前項ニ同シ

第三十一條 特許ニ關スル出願又ハ再審査、審判若ハ抗告審判ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ出願人、請求人、被請求人又ハ權利確認ノ査定
ニ關スル關係人カ戦時兵役ニ服スルトキ又ハ戰爭其ノ他ノ障礙ニ因リ特許局ト交通ノ絶エタル地ニ在ルトキハ特許局長又ハ審判長ハ申立
ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ障礙ノ止ムマテ特許局ニ繫ル手續ヲ中止スルコトヲ得

第三十二條 特許局ニ繫ル手續ノ中断及中止ハ期間ノ進行ヲ止メ及中断又ハ中止ノ終リタル後更ニ全期間ノ進行ヲ始ムル效力ヲ有ス
中断及中止ノ間其ノ事件ニ關スル手續ヲ爲スモ出願人、當事者及關係人ニ對シ其ノ效力ヲ有セサルモノトス

第三十三條 中断又ハ中止シタル特許局ニ繫ル手續ノ受繼ハ其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ特許局ニ差出シテ之ヲ爲スヘシ

相手方アル場合ニ於テハ特許局長又ハ審判長ハ其ノ書面ノ副本ヲ相手方ニ送達スヘシ

第三十四條 中断又ハ中止シタル特許局ニ繫ル手續ニ付受繼ヲ忘リタルトキハ特許局長又ハ審判長ハ職權又ハ申立ニ因リ相當ノ期間ヲ定メ
受繼ヲ命スヘシ

前項ノ期間内ニ受繼ヲ爲サザルトキハ特許局長又ハ審判長ハ受繼キタルモノト看做スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ當事者ニ通知ス
ヘシ

第三十五條 書類ノ謄本若ハ謄寫、圖面ノ複製書類難形又ハ見本閱覽ノ請求ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

八三五

第三十六條 書類ノ謄本ニハ其ノ末尾ニ原本ト相違ナキコトヲ認證スル旨ヲ記載シ特許局官吏之ニ署名捺印スヘシ

第三十七條 圖面ノ複製ヲ請求セムトスル者ハ請求ノ際難形、見本又ハ下圖ヲ特許局ニ差出スヘシ但シ特許局ニ存スル難形、見本又ハ圖面ニ依リ複製スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 特許局ニ帳簿ヲ備ヘ特許證ノ再下付、特許證ノ複本又ハ原簿ノ謄本下付ノ年月日、事由及請求人ノ氏名ヲ記載スヘシ第八十七條第二項ノ規定ニ依リ特許證ノ下付ニ付亦同シ

第三十九條 特許法又ハ本則ノ規定ニ依リ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲スニ當リ手数料ヲ納付スヘキ場合ハ書面ニ其ノ手数料金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼附シテ之ヲ差出スヘシ

第三十五條ニ依リ口頭ヲ以テ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ特許局官吏ノ作リタル書面ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十條 特許法第四十四條ノ規定ニ依リ特許權ノ制限又ハ特許ノ取消ハ主務官廳ノ請求アリタル場合ニ於テ特許局長之ヲ爲スヘシ

前項ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ特許局長ハ特許權者及其ノ特許權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ付登錄シタル權利ヲ有スル者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第四十一條 特許法第十一條又ハ第四十四條ノ規定ニ依リ政府ニ於テ特許ヲ受クルハ權利若ハ特許權ヲ收用シ又ハ特許發明ヲ實施セムトスルトキハ主務官廳ハ特許出願者、特許權者及其ノ特許權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ付登錄シタル權利ヲ有スル者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第二章 出願
第四十二條 特許ヲ受ケムトスル者ハ一發明毎ニ一通ノ願書ヲ作り之ヲ特許局ニ差出スヘシ

願書ニハ明細書及必要ノ圖面各二通ヲ添附スヘシ

第四十三條 明細書ニハ左ノ事項ヲ記載シ出願人署名捺印スヘシ
一 發明ノ名稱
二 發明ノ性質及目的ノ要領
三 圖面ノ略解
四 發明ノ詳細ナル説明
五 特許請求ノ範圍

他ノ發明ノ改良若ハ擴張ニ係ル發明又ハ他ノ特許發明若ハ登錄實用新案ヲ使用スルニ非サレハ實施スルコト能ハサル發明ノ明細書ニ在リテハ其ノ發明ト他ノ發明又ハ實用新案トノ關係ヲ前項第四號ノ事項中ニ明確ニ記載シ他ノ發明又ハ實用新案カ特許又ハ登錄ニ係ルモノナルトキハ其ノ特許番號又ハ登錄番號、出願中ニ係ルモノナルトキハ其ノ願書番號又ハ符號ヲ併セテ記載スヘシ

第四十四條 圖面ニハ發明ノ説明ニ必要ナル部分ヲ示スヘシ

第四十五條 特許法第三條第一項ノ規定ニ依リ權利者カ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ權利ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第四十六條 特許權ノ改訂ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ改訂明細書及必要ノ圖面各二通並特許證ヲ添附スヘシ

前項ノ出願ニシテ特許法第四十三條ノ規定ニ依リ第三者ノ承諾ヲ要スヘキ場合ニ於テハ其ノ承諾書ヲ添附スヘシ

第四十七條 特許權ノ分割ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ其ノ分割シタル各發明ニ對スル明細書及必要ノ圖面各二通並特許證ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テ追加特許權ノ附隨スルトキハ願書ニ其ノ追加特許權ノ特許番號及其ノ附隨スヘキ分割シタル特許權ノ符號ヲ記載スヘシ

第四十八條 數人共同シテ特許ヲ出願シ又ハ特許法第十條第二項ノ規定ニ依リ名義變更ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ出願人又ハ届出人ノ權利ニ付持分者ハ分割ノ定アルトキ又ハ特許ヲ受ケルノ權利カ組合員ノ共有ニ屬スルトキハ願書又ハ届書ニ其ノ旨ヲ記載シ其ノ事實ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第四十九條 特許ヲ出願スル者其ノ出願ニ付條約ニ依リ優先權ヲ主張セムトスルトキハ最初ニ發明保護ノ條約國ニ特許ヲ出願シタル年月日及發明ヲ證スルニ足ル明細書及圖面ノ謄本ニシテ其ノ政府ノ認證シタルモノ又ハ其ノ政府ノ發行シタル公報若ハ特許證ヲ差出スヘシ

第五十條 特許法第八條第一項ノ規定ニ依リ出願ヲ爲サムトスル者ハ博覽會又ハ共進會ノ開會前三月以内ニ其ノ旨ヲ特許局長ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ依リ届書ニハ其ノ發明ニ關スル説明書及必要ノ圖面ヲ添附スヘシ

第五十一條 特許法第八條第一項ノ規定ニ依リ特許願書ニハ博覽會又ハ共進會ニ出品シタルコトヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ開設スル官設又ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品シタル發明ニ關スル特許願書ニハ前項ノ書面ノ外其ノ開會ノ日ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第五十二條 特許願書又ハ特許權ノ改訂若ハ分割許可ノ願書ヲ受理シタルトキハ之ニ番號ヲ附シ帳簿ニ其ノ番號、發明ノ名稱、出願人及代理人ノ氏名並願書差出ノ年月日ヲ記載シ其ノ番號ヲ出願人ニ通知スヘシ

第五十三條 特許法第九條第一項但書又ハ第十條第二項但書ノ規定ニ依リ關係人ノ協議ヲ必要トスルトキハ特許局長ハ相當ノ期間ヲ指定シ其ノ期間内ニ協議ニ依リ權利者ヲ定メ之ヲ届出ツヘキ旨ヲ關係人ニ通知スヘシ

前項ノ期間内ニ届出ナキトキハ協議調ハサルモノト看做ス

第五十四條 特許法第七條ノ規定ニ依リ特許出願ヲ分割セムトスル者ハ其ノ分割部分ニ對シ新ナル出願ヲ爲シ同時ニ前出願ヲ訂正スヘシ

第三章 審査及再審査
第五十五條 特許局長ニ於テ特許出願ニ係ル發明ニシテ軍事上秘密ヲ要スルモノヲ除クノ外特許法第十一條第一項ノ規定ニ該當スト認ムル

第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許 八三七

トキハ之ヲ主務官廳ニ通知スヘシ

第五十六條 特許法第十一條第一項ノ規定ニ依ル處分ハ主務官廳ノ請求ニ依リ之ヲ爲スヘシ

前項ノ處分ヲ爲ストキハ特許スヘシトノ査定ト共ニ其ノ處分書ヲ出願人ニ送達スヘシ

第五十七條 特許法第六十二條第二項ノ規定ニ依ル査定ニハ左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

一 願書番號

二 發明ノ名稱

三 出願人及代理人ノ氏名

四 査定ノ主文及理由

五 査定ノ年月日

追加特許權ノ附隨スヘキ場合ニ於テ特許權ノ分割ヲ許可スヘシトノ査定ヲ爲ストキハ前項ノ各號ニ掲ケタル事項ノ外其ノ附隨スヘキ分割シタル特許權ヲ表示スヘシ

第五十八條 特許法第六十三條ノ規定ニ依ル査定ニハ前條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

一 抵觸スヘキ發明ノ願書番號又ハ特許番號

二 抵觸スヘキ發明ノ名稱

三 抵觸スヘキ發明ノ出願人又ハ特許主ノ氏名、住所、居所又ハ營業所

前項ノ査定ヲ送達スルトキハ特許局長ハ之ニ抵觸番號ヲ附スヘシ

第五十九條 特許法第六十四條ノ規定ニ依ル査定ニハ前條第一項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

一 抵觸番號

二 關係人ノ申立ノ要領

第六十條 特許法第六十二條ノ規定ニ依ル査定ニ對スル再審査ノ査定ニハ第五十七條第一號、第二號、第四號及第五號ニ掲ケタル事項ノ外

左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

一 再審査請求人及代理人ノ氏名

二 不服理由ノ要領

第六十一條 發明抵觸ノ査定ニ對スル再審査ノ査定ニハ第五十八條第一項及前條ニ掲ケタル事項並ニ抵觸番號ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

第六十二條 特許法第六十四條第二項ニ依リ特許局ニ差出スヘキ始末書ニハ發明ノ完成ニ至ルマテノ顛末ヲ詳細ニ記載スヘシ

第六十三條 發明抵觸ノ査定ヲ送達シタル後其ノ事件ニ關シ差出スヘキ書面ニハ抵觸番號ヲ表示スヘシ

第六十四條 始末書、答辯書其ノ他權利確認ノ査定ニ關シテ差出ス書面ニハ其ノ事實ノ證據方法ヲ記載シ證據物件アルトキハ之ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テ證據物件カ書面ナルトキハ其ノ謄本、其ノ他ノ物件ナルトキハ其ノ圖面、雛形若ハ見本ヲ特許局及關係人ノ數ニ應ジ證據物件ト共ニ之ヲ差出スヘシ

第十九條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第六十五條 特許局ニ於テ特許法第二十三條ノ規定ニ依リ權利確認ノ査定ニ關スル手續ヲ承繼人ニ對シテ續行セムトスルトキハ其ノ旨ヲ關係人ニ通知スヘシ

第六十六條 發明抵觸ノ原因カ消滅シタルトキハ特許局長ハ其ノ旨ヲ關係人ニ通知スヘシ

第六十七條 査定アリタルトキハ特許局長ハ其ノ査定ノ謄本ヲ出願人又ハ請求人及關係人ニ送達スヘシ

第四章 審判及抗告審判

第六十八條 審判又ハ抗告審判ノ請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 請求人及被請求人ノ氏名、住所、居所又ハ營業所、審査官カ請求人又ハ被請求人ナルトキハ其ノ官氏名

二 審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示

三 一定ノ申立及理由

第六十九條 特許法第三十八條ノ規定ニ依ル審判ノ請求書ニハ前條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ補償金額ノ計算ニ關スル書類ヲ添附スヘシ

一 使用ヲ要スル特許發明ノ名稱及特許番號

二 使用セラルヘキ特許發明又ハ實用新案ノ名稱及特許番號若ハ登録番號並ニ其ノ登録ノ年月日

第七十條 答辯書又ハ辯駁書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 審判番號又ハ抗告審判番號

二 請求人及被請求人ノ氏名、審査官カ請求人又ハ被請求人ナルトキハ其ノ官氏名

三 審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示

四 答辯又ハ辯駁ノ要旨及理由

第七十一條 審判又ハ抗告審判ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ニ番號ヲ附シ帳簿ニ其ノ番號、審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示、當事者及

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

八三九

代理人ノ氏名或請求書差出ノ年月日ヲ記載シ其ノ番號ヲ當事者ニ通知スヘシ
第七十二條 敵人ノ所有ニ係ル特許權ニ付特許權者ニ對シ審判又ハ抗告審判ヲ請求セムトスルトキハ其ノ特許權者ノ全員ヲ以テ被請求人ト爲スヘシ

第七十三條 第六十四條ノ規定ハ審判及抗告審判ニ之ヲ準用ス
第七十四條 參加請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 審判番號又ハ抗告審判番號
- 二 當事者
- 三 審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示
- 四 參加人及其ノ代理人ノ氏名、住所、居所又ハ營業所
- 五 利害關係
- 六 參加ノ申立

第七十五條 參加ニ付異議ノ申立アリタルトキハ當事者及參加請求人ヲ審訊シタル後參加ノ許否ヲ決定スヘシ
第七十六條 特許局ニ於テ特許法第二十三條ノ規定ニ依リ審判又ハ抗告審判ニ關スル手續ヲ承繼人ニ對シテ續行セムトスルトキハ其ノ旨ヲ當事者及關係人ニ通知スヘシ

第七十七條 口頭審理ヲ爲ストキハ審判長ハ期日ヲ定メ之ヲ當事者ニ通知スヘシ
第七十八條 口頭審理ニ於テハ日本語ヲ用ユヘシ但シ日本語ニ通セサル者ハ通事ヲ用ユルコトヲ得

第七十九條 口頭審理ニ於テハ調査ヲ作り審判長及之ヲ作りタル官吏署名捺印スヘシ
第八十條 特許局ハ當事者ノ雙方又ハ一方ノ同一ナル審判又ハ抗告審判ニ付其ノ審理若ハ審決ヲ併合シ又ハ之ヲ分離スルコトヲ得
第八十一條 審判又ハ抗告審判ノ請求人方其ノ請求ヲ取下ケタルトキハ特許局長ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スヘシ
第八十二條 審決又ハ決定アリタルトキハ特許局長ハ其ノ審決又ハ決定ノ謄本ヲ當事者ニ送達スヘシ
第八十三條 審決ニハ左ノ事項ヲ記載シ審判官之ニ署名スヘシ

- 一 審判番號又ハ抗告審判番號
- 二 當事者及代理人ノ氏名、住所、居所又ハ營業所
- 三 審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示
- 四 當事者ノ申立ノ要領

五 審決ノ主文及理由

六 審決ノ年月日

第八十四條 大審院ニ於テ審決ヲ破毀シ其ノ事件ヲ特許局ニ差戻シタル場合ニ於テハ抗告審判ノ規定ニ依リ更ニ審判ヲ爲シ再審査ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テ單ニ其ノ査定ヲ破毀シ更ニ審査ニ付スヘシトノ審決アリタルトキハ特許局長ハ審査官ヲシテ更ニ査定ヲ爲サシムヘシ

第八十五條 審判、抗告審判又ハ出訴ノ費用額ノ決定ヲ受ケムトスル者ハ請求書ニ費用計算書其ノ他必要ノ書類ヲ添附シテ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ

第五章 特許證、特許標記及特許料

第八十六條 特許證ハ第七號乃至第十三號ノ書式ニ依リ之ヲ作り特許局長之ニ署名捺印スヘシ

特許證ニハ明細書及必要ノ圖面ヲ添附スヘシ但シ秘密ヲ要スル特許發明ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十七條 特許證ヲ差出スヘキ場合ニ於テ之ヲ差出スコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ證明シ別ニ定ムル手数料ヲ納付シテ特許證ノ差出ノ免除ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ特許局長ハ新ニ特許證ヲ下付スヘシ

第八十八條 特許證カ亡失又ハ毀損シタルトキハ特許證主又ハ其ノ承繼人ハ其ノ事由ヲ疏明シテ特許證ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得

第八十九條 前二條ノ場合ニ於テ特許局長カ新ニ特許證ヲ下付シタルトキハ舊特許證ハ之ヲ無効トス此ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報及特許公報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第九十條 特許ノ無効又ハ特許權ノ改訂若ハ分割許可ノ無効ノ審決確定シタルトキ若ハ判決アリタルトキ又ハ特許權カ消滅シタルトキハ特許證主又ハ特許證複本ノ所有者ハ遲滞ナリ其ノ特許證及其ノ複本ヲ返納スヘシ

第九十一條 特許標記ハ「特許」ノ文字及其ノ特許番號ヲ表示スヘシ

特許法第五十六條第四項ノ場合ニ於ケル特許標記ハ前項ニ依リ記載シ「一部」ノ文字ヲ附加スヘシ

第九十二條 第一乃至第三年分ノ特許料又ハ追加特許料ハ特許スヘシトノ査定若ハ審決確定シ若ハ判決アリタルトキ又ハ特許權ノ存續期間ノ延長ヲ許可スヘシトノ決定アリタル場合ニ於テ其ノ査定、審決又ハ決定書ノ送達アリタル日ヨリ、權利確認ノ査定又ハ之ニ對スル審決ニ在リテハ其ノ確定ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ特許權ノ分割ヲ許可スヘシトノ査定若ハ審決アリタル場合ニ於テ其ノ分割ニ依リ發生スヘキ特許證ノ當該年分ノ特許料亦同シ

第九十三條 特許料又ハ追加特許料ヲ納付セムトスル者ハ納付書ニ收入印紙ヲ貼附シテ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ

第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

第九十四條 特許法第五十八條第二項ノ規定ニ依リ特許料又ハ追加特許料ノ納付ノ猶豫又ハ減免ヲ請求セムトスル者ハ請求書ニ所轄市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ
前項ノ證明書ニハ請求人ノ身分、職業、財産並其ノ納付スヘキ税額ヲ記載シ特許料又ハ追加特許料ヲ納付スヘキ資力ナキコトヲ證明スヘシ

附則

第九十五條 本則ハ特許法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九十六條 第九十一條ノ規定ハ本則施行前ニ附シタル特許標記ニ之ヲ適用セス

第九十七條 本則施行前審決又ハ判決ヲ爲シタル審判又ハ出訴ニ關スル費用ノ負擔及費用額ノ決定ニ關シテハ本則施行後仍從前ノ例ニ依ル

第一號書式

収入
印紙

特許願

一 發明ノ名稱

一 發明完成ノ年月日

一 發明者ノ氏名、住所(居所又ハ營業所)及職業

(本項ハ出願人カ發明者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

私(私共)儀別紙明細書ニ記載スル發明ニ付特許相受度此段相願候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年 月 日

特許局長 氏

名 殿

出 願 人(發明者)

氏

名

印

(法人ナルトキハ
法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

添附書類目錄

一 何々 何通

一 何々 何通

第二號書式

収入
印紙

追加特許願

一 發明ノ名稱

一 發明完成ノ年月日

一 原發明ノ特許番號(願書番號又ハ符號)

一 發明者ノ氏名、住所(居所又ハ營業所)及職業

(本項ハ出願人カ發明者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

私(私共)儀別紙明細書ニ記載スル發明ニ付特許相受度此段相願候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年 月 日

特許局長 氏

名 殿

出 願 人(發明者)

氏

名

印

(法人ナルトキハ
法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

添附書類目錄

一 何々 何通

一 何々 何通

第三號書式

収入
印紙

特許權改訂願

一 特許番號

一 發明ノ名稱

私(私共)儀別紙改訂明細書(改訂圖面)ノ通特許權改訂ノ許可相受度此段相願候也

本籍(國籍)

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

年 月 日

住所(居所又ハ營業所)
職業

氏

名 印
(法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

特許局長 氏

名 殿

添附書類目録

一 何々 何通

一 何々 何通

第四號書式

特許權分割願

一 特許番號

一 發明ノ名稱

一 追加特許權ノ附隨スル場合ニ於テハ其ノ追加特許權ノ特許番號及其ノ附隨スヘキ分割シタル特許權ノ符號
私(私共)儀別紙明細書(及圖面)ノ通特許權分割ノ許可相受度此段相願候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

出願人(發明者)

氏

名 印
(法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

特許局長 氏

名 殿

添附書類目録

一 何々 何通

一 何々 何通

第五號書式

特許權存續期間延長願

一 特許番號

一 發明ノ名稱

一 延長ノ年限

私(私共)儀前記特許權ニ付存續期間ノ延長ノ許可相受度此段相願候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

出願人

氏

名 印
(法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

特許局長 氏

名 殿

添附書類目録

一 何々 何通

一 何々 何通

第六號書式

發明品出品願

一 發明ノ名稱

一 發明者ノ氏名及住所(居所又ハ營業所)

(本項ハ届出人カ發明者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

私(私共)儀別紙說明書(及圖面)ニ記載スル發明品ヲ何年何月何日ヨリ何所ニ於テ政府(何道、何府、何縣)ノ開設スル博覽會(共進會)(萬國博覽會)ニ出品可致候ニ付此段及御届候也

本籍(國籍)

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

シタリ仍テ特許原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日

特許局長

氏 名 印

第十一號書式

第何號(原特許番號)

特許證(追加特許證)

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

發明者 何縣何誰

一發明ノ名稱

前記特許權(追加特許權)ニ付何年間存續期間ノ延長ヲ許可シ特許原簿ニ登録シタリ仍テ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日

特許局長

氏 名 印

第十二號書式

復第何號

特許證複本(追加特許證複本)

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

發明者 何縣何誰

一特許番號

一發明ノ名稱

一特許權(追加特許權)存續期間 自明治何年何月何日 至明治何年何月何日

前記發明ノ特許權(追加特許權)ニ付特許證(追加特許證)複本ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日

特許局長

氏 名 印

第十三號書式

發明者 何縣何誰

一發明ノ名稱

明治何年何月何日第何號特許ニ係ル前記發明ノ特許權(追加特許權)改訂ノ出願ニ對シ特許局審査官ニ於テ特許權(追加特許權)ノ改訂ヲ許可スヘキモノト査定シタリ仍テ特許原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日

特許局長

氏 名 印

第九號書式

第何號(原特許番號)ノ一、二、三

特許證(追加特許證)

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

發明者 何縣何誰

一發明ノ名稱

明治何年何月何日第何號特許ニ係ル前記發明ノ特許權(追加特許權)分割ノ出願ニ對シ特許局審査官ニ於テ特許權(追加特許權)ノ分割ヲ許可スヘキモノト査定シタリ仍テ特許原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日

特許局長

氏 名 印

第十號書式

第何號

追加特許證

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

發明者 何縣何誰

一發明ノ名稱

前記發明ハ明治何年何月何日第何號ノ特許發明ニ付改良(擴張)ヲ爲シタルモノニシテ特許局審査官ニ於テ追加特許ヲ與フヘキモノト査定

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

住所(居所又ハ營業所)
職業

氏 名 印 (法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

年 月 日

特許局長 氏 名 殿

添附書類目録

一何々 何通

一何々 何通

第七號書式

第何號

特許證

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名 印 (名 稱)

發明者 何縣何誰

一發明ノ名稱

前記發明ハ特許局審査官ニ於テ特許スヘキモノト査定シタリ仍テ特許原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長

氏 名 印

第八號書式

第何號(原特許番號)

特許證(追加特許證)

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名 印 (名 稱)

第何號

特許證(追加特許證)

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名 印 (名 稱)

發明者 何縣何誰

一發明ノ名稱

一特許權(追加特許權)存續期間 自明治何年何月何日 至明治何年何月何日

前記發明ノ特許證(追加特許證)何々ノ旨ヲ以テ再下付ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長

氏 名 印

第十四號書式

納付書

特許番號又ハ願書番號

發明ノ名稱

一金何圓也 第何半分特許料(追加特許料)

右納付候也

住所(居所又ハ營業所)

氏 名 印 (法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

特許局長 氏 名 殿

(參 照)

●軍事上秘密ヲ要スル發明ノ特許ニ關スル制 四十二年十月 勅令第二百九十九號

朕軍事上秘密ヲ要スル發明ノ特許ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 軍事上秘密ヲ要スル發明ニ付主務大臣ニ於テ特許ノ出願又ハ特許權ノ改訂者ハ分割許可ノ出願ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ發明ノ明細

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

書及圖面ヲ密封シ之ニ封印スヘシ

第二條 軍事上秘密ヲ要スル發明ニ付特許ノ出願又ハ特許權ノ改訂若ハ分割許可ノ出願アル場合ニ於テ主務大臣ノ請求アリトキハ特許局長ハ遲滞ナク其ノ發明ノ明細書、圖面其ノ他秘密ヲ要スル物件ヲ密封シ之ニ封印スヘシ

第三條 發明ニ付特許ノ出願又ハ特許權ノ改訂若ハ分割許可ノ出願アル場合ニ於テ軍事上秘密ヲ要スルモノト認ムルトキハ特許局長ハ遲滞ナク之ヲ主務大臣ニ移牒シ意見ヲ求ムヘシ

第四條 第一條及第二條ノ場合ニ於テハ特許局長ハ査定ヲ經スシテ特許又ハ許可ノ處分ヲ爲スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ之ヲ特許原簿ニ登錄シ特許證ヲ下付スヘシ

第五條 軍事上秘密ヲ要スル爲密封シタル書類又ハ物件ハ主務大臣ノ請求又ハ承諾アリタル場合ヲ除クノ外之ヲ開封スルコトヲ得ス
前項ノ規定ニ依リ開封シタル書類又ハ物件ハ特許局長ニ密封シ之ニ封印スヘシ

第六條 主務大臣必要アル場合ニ於テハ特許局長ニ對シ軍事上秘密ヲ要スル爲密封シタル書類及物件ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル書類及物件ハ還付前主務大臣ニ於テ更ニ密封シ之ニ封印スヘシ

第七條 軍事上秘密ヲ要スル特許發明ニ對スル審判又ハ抗告審判ノ請求書ハ主務大臣ニ於テ密封シタル書類又ハ物件ノ開封ヲ承諾シタル場合ニ限リ之ヲ受理スルコトヲ得

第八條 軍事上秘密ヲ要スル發明ニシテ之ヲ秘密ニスルノ必要ナキニ至リタル旨主務大臣ノ通知アリタルトキハ特許局長ハ其ノ發明ヲ特許發明ノ明細書及特許公報ニ記載スヘシ

第九條 軍事上秘密ヲ要スル特許發明ニ關スル審判ノ口頭審理ハ之ヲ公開セス
第十條 前條ノ規定ハ軍事上秘密ヲ要スル實用新案ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ特許法及實用新案法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

●特許登錄令 四十二年十月

勅令第二百九十四號

朕特許登錄令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
特許登錄令

第一章 總則

第一條 特許ニ關スル登錄ハ左ニ掲ケタル事項ニ付之ヲ爲ス

一 特許權、實施權、使用權及此等ノ權利ヲ目的トスル實權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限又ハ特許法第四十四條ノ制限
二 特許ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決
三 特許法第十三條第一項ノ規定ニ依リ代理人ノ選任若ハ變更又ハ其ノ代理權ノ變更若ハ消滅

第二條 假登錄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一 登錄ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セザルトキ
二 前條第一號ニ掲ケタル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セムトスルトキ其ノ請求權カ始期附又ハ停止條件附ナルトキ
其ノ他將來ニ於テ確定スヘキモノナルトキ亦同シ

第三條 豫告登錄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一 登錄原因ノ無効又ハ取消ニ依リ登錄ノ抹消又ハ回復ノ訴ヲ提起アリタルトキ但シ登錄原因ノ取消ニ依リ訴ニ付テハ其ノ取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル
二 特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割許可ノ無効審判ノ請求アリタルトキ、特許權ノ範圍確定ノ審判ノ請求アリタルトキ、使用權設定ノ請求ノ審判ノ請求アリタルトキ又ハ發明低價ノ査定確定シ若ハ審決アリタルトキ

第四條 詐欺又ハ強迫ニ依リテ登錄ノ申請ヲ妨ケタル第三者ハ登錄ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス

第五條 他人ノ爲登錄ヲ申請スル義務アル者ハ其ノ登錄ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス但シ其ノ登錄ノ原因カ自己ノ登錄ノ原因ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 左ニ掲ケタル事項ノ登錄ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

一 登錄名義人ノ表示ノ變更
二 實權ノ移轉

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル登錄ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナキトキ又ハ申請書ニ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ附本ヲ添附シタルトキニ限リ附記ニ依リテ其ノ登錄ヲ爲ス

一 特許法第三十二條ノ制限附特許權ノ變更
二 特許權以外ノ權利ノ變更
三 登錄ノ更正

第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

四 一部抹消登録ノ回復

第八條 特許權又ハ之ニ關スル權利ニ關シ登録シタル權利ノ順位ハ登録ノ前後ニ依ル
 第九條 附記登録ノ順位ハ主登録ノ順位ニ依リ附記登録間ノ順位ハ其ノ前後ニ依ル
 第十條 假登録ヲ爲シタルモノニ付本登録ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ順位ハ假登録ノ順位ニ依ル
 第十一條 特許發明ノ明細書及圖面ハ之ヲ特許原簿ノ一部ト看做ス
 原本又ハ謄本ニ依リ特許ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決アリタル旨ノ登録アリタルトキハ其ノ原本又ハ謄本ハ之ヲ特許原簿ノ一部ト看做ス

第二章 登録手續

第十二條 特許權又ハ之ニ關スル權利ノ登録アリタルトキハ其ノ登録權利者又ハ登録義務者ノ共同人名簿ハ之ヲ特許原簿ノ一部ト看做ス
 第十三條 特許原簿、共同人名簿、受付簿其ノ他登録ニ付必要ナル帳簿ノ種類、様式及其ノ記載ニ關スル手續ハ主務大臣之ヲ定ム
 第十四條 特許原簿ノ全部又ハ一部ヲ滅失シタル場合ニ於テ其ノ回復ニ關スル手續ハ主務大臣之ヲ定ム

第一節 通則

第十五條 登録ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外申請又ハ囑託アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 囑託ニ依ル登録ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外申請ニ依ル登録ニ關スル規定ヲ準用ス
 第十六條 登録ノ申請ハ登録權利者及登録義務者ヨリ之ヲ爲スヘシ
 第十七條 審決、判決又ハ相續ニ依ル登録ノ申請ハ登録權利者ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得
 特許法第三十六條第二項及第五十二條第三項ノ登録ノ申請ニ付亦前項ニ同シ
 第十八條 登録名義人ノ表示ノ變更ノ登録ノ申請ハ登録名義人ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得
 第十九條 特許法第十三條第一項ノ規定ニ依ル登録ノ申請ハ本人又ハ受任者ヨリ之ヲ爲スコトヲ得
 第二十條 假登録ハ次條ノ場合ヲ除クノ外假登録權利者ノ申請ニ依リ假登録義務者ノ住所又ハ特許法第十八條ノ規定ニ依ル財産所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ選擇ナク囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ之ヲ特許局ニ囑託スヘシ
 前項ノ假處分命令ハ假登録權利者カ假登録原因ヲ説明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スヘシ
 申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス
 第二十一條 假登録ハ假登録義務者ノ承諾アルトキハ其ノ承諾書ヲ添附シテ假登録權利者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十二條 處分ノ制限ニ關スル登録ハ當該官廳又ハ公署ヨリ選擇ナク囑託書ニ登録原因ヲ記載スル書面ヲ添附シテ之ヲ特許局ニ囑託スヘシ
 公費處分ニ依ル權利移轉ノ登録ニ付登録權利者ノ請求アリタル場合亦同シ

第二十三條 特許法第四十四條ノ規定ニ依リ政府ニ於テ特許權ヲ收用シ又ハ特許發明ヲ實施スル場合ニ於テハ主務官廳ハ特許權ノ移轉ノ登録又ハ實施權設定ノ登録ヲ特許局ニ囑託スヘシ

第二十四條 第三條第一號ニ掲ケタル訴テ受理シタル裁判所ハ職權ヲ以テ選擇ナク囑託書ニ訴狀ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ其ノ豫告登録ヲ特許局ニ囑託スヘシ

第三條第二號ニ掲ケタル審判ノ請求アリタルトキ又ハ査定確定シ若ハ審決アリタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ其ノ豫告登録ヲ爲スヘシ

第二十五條 登録ノ申請書ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ
 一 登録原因ヲ證明スル書面

二 特許證又ハ登録義務者ノ權利ニ關スル登録簿
 三 登録原因ニ付第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證明スル書面

四 外國人ニ在リテハ其ノ國籍ヲ證明スル書面但シ萬國工業所有權保護同盟條約國又ハ帝國ト特許ニ關シ相互保護ヲ約セシ國以外ノ國ノ臣民又ハ人民ニ在リテハ尙同盟國中ノ一國ノ版圖内ニ住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的營業所ヲ有スルコトヲ證明スル書面

五 外國法人ニ在リテハ其ノ法人タルコトヲ證明スル書面
 六 代理人ニ依リテ登録ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證明スル書面

特許法第十三條第一項ノ規定ニ依ル登録ヲ申請スル場合ニ於テハ前項第二號ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス
 第一項第三號ノ書面ニ依リ證明スヘキ事項カ既ニ登録ヲ受ケタルモノナルトキハ同號ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス

他ノ事件ニ付特許局ニ對シ既ニ第一項第四號又ハ第五號ノ證明書ヲ差出シタル者ニシテ其ノ事項ニ變更ナキトキハ更ニ其ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス但シ特許局長ニ於テ其ノ提出ヲ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

特許法第十三條第一項ノ規定ニ依リ登録ヲ受ケタル代理人又ハ同法第十七條第一項但書ノ規定ニ依リ届出タル代表者カ其ノ權限内ニ於テ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ第一項第六號ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス

登録原因ヲ證明スル書面カ執行力アル判決又ハ確定審決ナルトキハ第一項第二號、第三號、第五號ノ書面及國籍ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

數箇ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テ登録原因ヲ證明スル書面カ一箇ナルトキハ其ノ一ノ申請書ニ之ヲ添附シ他ノ申請書ニハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第二十六條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

- 一 特許番號
- 二 發明ノ名稱
- 三 申請人ノ氏名又ハ名稱及住所、代理人若ハ代表者ニ依リテ申請スル場合ニ於テハ尙其ノ氏名又ハ名稱及住所
- 四 外國人ニ在リテハ其ノ國籍但シ萬國工業所有權保護同盟條約又ハ帝國ト特許ニ關シ相互保護條約セシ國以外ノ國ノ國民又ハ人民ニ在リテハ尙同盟國中ノ一國ノ版圖内ニ於ケル住所又ハ現實且其誠ナル工業的若ハ商業的營業所
- 五 登録原因及其ノ日附
- 六 登録ノ目的
- 七 年月日

第二十七條 債權者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登録ヲ申請スルニハ第二十五條第一項ニ掲ケタル書面ノ外代位原因ヲ證明シ書面ヲ添附シ且申請書ニ前條ニ記載シタル事項ノ外債權者ノ氏名又ハ名稱及住所並代位原因ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

第二十八條 登録原因ニ登録ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ其ノ事項ヲ記載スヘシ

第二十九條 登録權利者カ多數ナル場合ニ於テ登録原因ニ持分ノ定アルトキハ申請書ニ其ノ持分ヲ記載スヘシ

特許權又ハ之ニ關スル權利ノ一部移轉ノ登録ヲ申請スル場合亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テ民法第二百五十六條第一項但書ノ規定ニ依リ定アルトキハ之ヲ記載スヘシ

第三十條 左ノ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證明スル戸籍吏ノ書面又ハ之ヲ證明スルニ足ルヘキ書面ヲ以テ登録原因ヲ證明スル書面ト看做ス

一 登録原因カ相繼ナルトキ

二 申請人カ登録權利者又ハ登録義務者ノ相繼人ナルトキ

三 登録名義人ノ表示ノ變更ノ登録ヲ申請スルトキ

第三十一條 申請書ニ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ證明スル書面ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ其ノ第三者ヲシテ申請書ニ署名捺印セシメテ其ノ書面ニ代ユルコトヲ得

第三十二條 登録原因ヲ證明スル書面カ初メヨリ存在セス又ハ之ヲ添附スルコト能ハサルトキハ申請書ノ副本ヲ添附スヘシ

第三十三條 登録義務者ノ權利ニ關スル登録費減失シタルトキハ申請書ニ其ノ登録義務者ノ本人ナルコトヲ證明スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附スヘシ

第三十四條 左ノ場合ニ於テハ登録ノ申請ハ之ヲ却下ス

一 事件カ登録スヘキモノニ非サルトキ

二 申請書カ方式ニ適合セサルトキ

三 申請書ニ掲ケタル特許權又ハ之ニ關スル權利ノ表示カ特許原簿ト抵觸スルトキ

四 第三十條第二號ニ掲ケタル書面ヲ添附シタル場合ヲ除クノ外申請書ニ掲ケタル登録義務者ノ表示カ特許原簿ト符合セサルトキ

五 申請人タル者カ登録名義人タル場合ニ於テ其ノ表示カ特許原簿ト符合セサルトキ

六 代理人又ハ代表者ノ表示カ特許原簿又ハ届出ト符合セサルトキ

七 申請書ニ掲ケタル事項カ登録原因ヲ證明スル書面ト符合セサルトキ

八 申請書ニ必要ナル書面ヲ添附セサルトキ

九 登録税ヲ納付セサルトキ

第三十五條 行政區劃又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルトキハ特許原簿ニ記載シタル行政區劃又ハ其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

大字若ハ字又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキ亦同シ

第三十六條 登録ヲ完了シタル後其ノ登録ニ付錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ登録權利者及登録義務者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ハ第二十七條ノ場合ニ於テハ債權者ニ對シテ亦之ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ通知ヲ受クヘキモノ多數ナル場合ニ於テ其ノ代表者ナキトキハ其ノ一人ニ通知スルヲ以テ足ル

第三十七條 抹消シタル登録ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ勝本ヲ添附スヘシ

第三十八條 特許權又ハ之ニ關スル權利ニシテ工場財團ニ屬スルコトノ登録アルモノニ付變更、制限又ハ消滅アリタルトキハ特許局長ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ

第二節 特許權、實權權及使用權ニ關スル登録手續

第三十九條 特許權移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テ追加特許權アルトキハ同時ニ其ノ移轉ノ登録ヲ申請スヘシ

第四十條 特許權ノ制限附移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ制限ヲ記載シ尙登録原因ニ記載スヘシ又ハ其ノ支拂時期ノ定アルトキハ亦之ヲ記載スヘシ

第四十一條 實權權ノ設定又ハ移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ範圍ヲ記載シ尙登録原因ニ在續期間、報酬又ハ其ノ支拂時期ノ定アルトキ又ハ實權權ノ移轉ヲ許シタルトキハ亦之ヲ記載スヘシ

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許 八五五

實施權移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テ發明實施ノ事業ト共ニ移轉スルトキハ之ヲ讓スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ
第四十二條 使用權設定ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ範圍及使用ヲ要スル特許發明ノ特許番號及名稱ヲ記載シ尙登録原因ニ
存續期間、報酬又ハ其ノ支拂時期ノ定アルトキハ亦之ヲ記載スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ使用ヲ要スル特許發明ノ特許證ヲ添附スヘシ

第四十三條 特許法第三十六條第二項ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ無効トナリタル特許ノ番號ヲ記載シ且善意ナリシコトヲ證ス
ルニ足ル書面ヲ添附スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ第二十五條第一項第二號ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第四十四條 特許法第五十二條第三項ノ規定ニ依ル變更ノ登録ハ登録上利害ノ關係ヲ有スル者之ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三節 質權ニ關スル登録手續

第四十五條 質權設定ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ質權ノ目的タル權利及債權額ヲ記載シ尙登録原因ニ存續期間、辨濟期、利息違
約金若ハ賄償額ニ關スル定アルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキ又ハ民法第三百四十六條但書ノ規定ニ依ル定アルトキハ亦之ヲ記載スヘシ
前項ノ場合ニ於テ質權設定者カ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ債務者ヲ表示スヘシ
質權移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ質權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヤヲ記載スヘシ

第四十六條 一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保タル質權ノ設定ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權ノ價格ヲ記載スヘシ

第四十七條 債權ノ一部讓渡又ハ代位辨濟ニ依ル質權移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記
載スヘシ

第四十八條 未登録ノ制限附特許權又ハ未登録ノ特許權以外ノ權利ヲ目的トスル質權ニ關スル登録ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ
讓スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第四十九條 前條ノ規定ハ未登録ノ制限附特許權又ハ未登録ノ特許權以外ノ權利及之ヲ目的トスル質權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登録ニ之ヲ
準用ス

第五十條 第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ依リ官廳又ハ公署カ未登録ノ權利ニ關スル登録ヲ囑託スル場合ニ於テハ裁判ニ依リテ其ノ權
利ヲ證スルコトヲ要セス

第四節 抹消ニ關スル登録手續

第五十一條 特許權又ハ之ニ關スル權利ノ拋棄ニ依ル登録ノ抹消ハ登録名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第五十二條 登録シタル權利カ或人ノ死亡ニ依リテ消滅シタル場合ニ於テ申請書ニ其ノ死亡ヲ證スル戸籍吏ノ書面其ノ他之ニ相當スル書面
ヲ添附スルトキハ登録權利者ノミニテ登録ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十三條 登録權利者カ登録義務者ノ行方ノ知レサルニ依リテ之ト共ニ登録ノ抹消ヲ申請スルコト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ
公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ除裁判決アリタルトキハ申請書ニ其ノ謄本ヲ添附シ登録權利者ノミニテ登録ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書又ハ元本ノ受取證書及登録セラレタル債務辨濟ノ證書ヲ添附シタルトキハ登録權利者ノミニテ質權
ニ關スル登録ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十四條 登録ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ抹消ニ付登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗
スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第五十五條 假登録ノ抹消ハ假登録名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得
申請書ニ假登録名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登録上利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ假登録ノ
抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十六條 第三條第一號ノ場合ニ於テ訴ヲ却下シタル裁判若ハ之ヲ提起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ宣渡シタル裁判カ確定シタルトキ、訴ノ
取下アリタルトキ、請求ノ拋棄アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ遲滞ナク囑託書ニ裁判ノ謄本若ハ抄
本又ハ訴ノ取下、請求ノ拋棄若ハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登録ノ抹消ヲ特許局ニ囑託スヘシ

第三條第二號ノ場合ニ於テ審判ノ請求ヲ却下シタル審決又ハ請求ヲ否認シタル審決確定シタルトキ、審判請求ノ取下アリタルトキ、請求
ノ拋棄アリタルトキ、請求ヲ否認スル判決アリタルトキ又ハ權利確認ノ査定若ハ之ニ對スル審決確定シ又ハ判決アリタル爲出願カ特許又
ハ許認可ヘカラサルモノト決定シタルトキハ特許局長ハ特許原簿ノ豫告登録ヲ抹消スヘシ

第三章 異議及訴願

第五十七條 登録ニ關スル處分ヲ不當トスル者ハ處分ノ了リタル日ヨリ三十日以内ニ特許局長ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得
第五十八條 異議ノ決定ハ理由ヲ附シテ之ヲ爲スヘシ
決定ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得

附則

本令ハ特許法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
舊特許原簿ハ之ヲ特許原簿ト看做ス
本令施行前ノ特許發明ノ明細書及圖面ハ之ヲ舊特許原簿ノ一部ト看做ス

本令施行前登録セラレタル権利ニ關シ登録ノ申請アリタル場合ニ於テ抹消ヲ除クノ外新特許原簿ニ舊特許原簿中抹消ニ係ラサル登録ヲ移シ
舊特許原簿中新特許原簿ニ移シタル登録ヲ抹消スヘシ

(參照) ●特許登録令施行規則 四十二年十月 農令第四十六號

特許登録令施行規則左ノ通相定ム
特許登録令施行規則

第一章 登録ニ關スル帳簿

- 第一條 特許原簿ハ第一號様式ニ依リ之ヲ作ルヘシ
- 第二條 特許原簿ハ一特許權ニ付一用紙ヲ備フ
- 第三條 共同人名簿ハ第二號様式ニ依リ之ヲ作ルヘシ
- 第四條 登録申請受附簿ハ第三號様式ニ依リ毎年之ヲ作ルヘシ
- 第五條 特許局ニハ特許原簿、共同人名簿及登録申請受附簿ノ外登録ニ關スル左ノ帳簿ヲ備フ
 - 一 通知簿
 - 二 異議ニ關スル書類送達帳
 - 三 特許法第十七條第一項但書ノ規定ニ依ル代表者届出書類送達帳

第六條 前條第一號乃至第三號ノ帳簿ハ一年毎ニ別冊ト爲スヘシ

第七條 特許原簿ノ特許番號欄ニハ各特許ニ付特許原簿ニ始メテ登録ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

第八條 特許權ノ表示ヲ爲シ其ノ變更、消滅、特許法第四十四條ノ制限及特許ノ效力又ハ特許權ノ範圍ノ確定ニ關スル確定審決又ハ
判決ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登録事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ特許權ノ設定、移轉及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ特許法第三十二條ノ制限附特許權ニ關スル事項及其ノ權利ヲ目的トスル實權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ實權、使用權及此等ノ權利ヲ目的トスル實權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ實權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登録事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

代理人欄ニハ特許法第十三條第一項ノ規定ニ依ル代理人ノ選任若ハ變更又ハ代理權ノ變更若ハ消滅ヲ記載ス
追加特許番號欄ニハ其ノ特許ニ關スル追加特許ノ番號ヲ記載ス

第二章 登録手續

第一節 通則

第八條 表示欄ニ登録ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ記載シ事項欄ニ登録ヲ爲ストキハ順位番號欄ニ番號ヲ記載スヘシ

第九條 表示欄ニ登録ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及表示欄ニ縦線ヲ劃シ事項欄ニ登録ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及事項欄ニ縦線ヲ劃シ
餘白ト分界スヘシ

代理人欄及追加特許番號欄ニ登録又ハ記載ヲ爲シタルトキハ同欄ニ縦線ヲ劃シ餘白ト分界スヘシ

第十條 附記ニ依ル登録ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登録ノ番號ヲ用キ其ノ番號ノ左側ニ附記何號ト記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ主登録ノ順位番號ノ左側ニ附記登録番號ヲ記載スヘシ

第十一條 表示欄、事項欄又ハ代理人欄ニ登録ヲ爲シタルトキハ其ノ末尾ニ登録年月日ヲ記載シ登録官吏捺印スヘシ

第十二條 特許原簿ニ住所ヲ記載スヘキ場合ニ於テ住所ナキモハ居所又ハ營業所、外國人ニ在リテハ尙其ノ國籍ヲ記載スヘシ

第十三條 職權又ハ申請若ハ囑託ニ依リ事項欄ニ登録ヲ爲ス場合ニ於テ特許權者又ハ登録權利者多數ナルトキハ願書又ハ申請書ニ掲ケタル
代表者若ハ筆頭者ノミノ氏名又ハ名稱及住所並他ノ人員ヲ登録用紙ニ記載シ其ノ氏名又ハ名稱及住所共同人名簿ニ記載スルコトヲ得登
録義務者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ登録用紙ニ記載スルコトヲ要スル場合ニ於テ登録義務者多數ナルトキ亦同シ

第十四條 登録ヲ完了シタルトキハ申請又ハ囑託ニ依ルモノニ在リテハ申請書、囑託書及其ノ附屬書類、職權ニ依ルモノニ在リテハ其ノ原
因ノ書類ヲ當該特許權ノ特許願書ニ添付スヘシ

第十五條 登録用紙中表頭部又ハ或區カ登録ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中特許番號欄ニ前用紙ノ特許番號ヲ轉寫シ前用紙
ヲ編綴セル特許原簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナルコトヲ記載シ且前用紙中特許番號欄ニ新用紙ヲ編綴セル特許原簿ノ冊數、丁數及之
ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ新用紙中特許番號ノ左側ニ第二ナルコトヲ附記シ前用紙中特許番號ノ左側ニ第一ノ文字ヲ追記スヘシ
前用紙中表頭部又ハ他ノ區ニ餘白アルトキハ表頭部又ハ其ノ區ニ登録スヘキ事項ニ付テハ仍之ニ登録ヲ爲スヘシ
前三項ノ規定ハ代理人欄又ハ追加特許番號欄カ登録又ハ記載ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス
第十六條 前條ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス
第十七條 共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ記載シ共同人名簿ニ特許權者又ハ登録權利者若ハ登録義務者ノ全員ノ氏名又ハ名稱
第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許 八五九

及住所ヲ記載シ備考欄ニ特許番號、出願日附又ハ申請書受附ノ年月日、願書番號又ハ受附番號及順位番號ヲ記載シ登錄官吏捺印スヘシ
第十八條 共同人名簿ニ特許權者又ハ登錄權利者若ハ登錄義務者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載シタルトキハ共同人名簿又持分欄ニ於ケル縱
線ヲ番號欄及備考欄ニ延長シテ餘白ト分界スヘシ
登錄原因ニ持分ノ定キトキハ持分欄ニ朱線ヲ交スヘシ

第十九條 共同人名簿ニ記載シタル特許權者又ハ登錄權利者若ハ登錄義務者ノ氏名又ハ名稱及住所ノ變更又ハ持分ノ移轉若ハ變更ニ付特許
原簿ニ登錄ヲ爲シタルトキハ共同人名簿中備考欄ニ登錄ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及順位番號ヲ記載シ登錄
官吏捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ朱抹スヘシ

第二十條 前條ノ場合ニ於テ備考欄ニ餘白ナキトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ第二ノ文字、前番號ノ用紙ヲ編綴セル共同人
名簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナルコトヲ記載シ共同人名簿ニ特許權者又ハ登錄義務者ノ氏名又ハ名稱ノミヲ記載シ持
分欄ニハ朱線ヲ交シ備考欄ニ登錄ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及順位番號ヲ記載シ登錄官吏捺印スヘシ
前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ前用紙ノ番號ノ左側ニ第一ノ文字、繼續用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ
前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設ケル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ登錄用紙中相當區事項欄ニ爲シタル登錄ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載ス
ヘシ

第二十二條 登錄用紙ヲ閉鎖スルニハ表示欄ニ閉鎖ノ事由及其ノ年月日ヲ記載シ登錄官吏捺印シ特許權ノ表示、表示番號及登錄番號ヲ朱抹
スヘシ

第二節 職權ニ依ル登錄手續

第二十三條 登錄ハ査定若ハ審決確定シ又ハ判決若ハ許可アリタル順序ニ從ヒ、特許登錄令第三條第二號ノ登錄ハ審判ノ請求又ハ査定確定
シ若ハ審決アリタル順序ニ從ヒ、異議ノ決定又ハ派願ノ裁決ニ依リ登錄ハ決定又ハ裁決アリタル順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ但シ特許權ノ
設定、特許權ノ分割ノ許可及特許權ノ存續期間延長ノ許可ノ登錄ハ料金納付ノ猶豫又ハ免除アリタル場合ヲ除クノ外料金納付ノ順序ニ從
ヒテ之ヲ爲スヘシ

第二十四條 特許權ノ設定ノ登錄ヲ爲スニハ特許番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ出願日附、願書番號、特許發明ノ名稱、査定若ハ審決確定
シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附ヲ記載シ甲區事項欄ニ特許權者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

特許法第三十一條ニ依ル特許權設定ノ登錄ヲ爲スニハ前項ノ外表示欄ニ其ノ旨、無効トナリタル特許番號及其ノ登錄日附ヲ記載スヘシ
第二十五條 追加特許權設定ノ登錄ヲ爲スニハ特許番號欄ニ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ原特許權ノ特許番號、其ノ登錄日附及其ノ追加特

許ナル旨ヲ記載シタル後特許權設定ノ登錄ヲ爲シ原特許ノ登錄用紙中追加特許番號欄ニ其ノ番號ヲ記載スヘシ

第二十六條 特許法第四十四條ニ依リ特許權ヲ制限シタルトキハ表示欄ニ其ノ原因、制限及其ノ日附ヲ記載スヘシ

第二十七條 特許權改訂許可ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ出願日附、願書番號、改訂許可ノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日
附ヲ記載シ特許發明ノ名稱ヲ變更シタルトキハ尙其ノ名稱ヲ記載スヘシ

第二十八條 特許權ヲ分割シテ甲及乙ノ二箇ノ特許權ト爲シタル場合ニ於テ分割許可ノ登錄ヲ爲スニハ乙特許權ニ對シ新ニ登錄用紙ヲ起シ
特許番號欄ニ前番號ヲ記載シ其ノ下ニ「」ト記シ表示欄ニ第二十四條ノ規定ニ準シ乙特許權ノ表示ヲ爲スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ原特許權ノ登錄用紙中特許番號欄ノ番號ノ下ニ「」ト記シ表示欄ニ第二十四條ノ規定ニ準シ甲特許權ノ表
示ヲ爲シ分割ニ依リテ乙特許權ヲ特許第何號ニ移シタル旨ヲ記載シ且乙特許權ヲ登錄シタル特許原簿ノ冊數及丁數ヲ記載スヘシ

第二十九條 前條第一項ノ場合ニ於テハ乙特許權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ原特許權ノ登錄用紙ヨリ特許權其ノ他ノ權利ニ關スル登錄ヲ
轉寫シ且甲區ニ記載シタル特許權以外ノ權利ニ關スル登錄中ニ甲特許權ト共ニ其ノ權利ノ目的タル旨、出願日附、願書番號、査定若ハ審
決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附ヲ記載スヘシ

原特許權ノ登錄用紙ヨリ乙特許權ノ登錄用紙ニ甲區ニ記載シタル特許權以外ノ權利ニ關スル登錄ヲ轉寫シタルトキハ甲特許權ノ登錄用紙
中其ノ權利ニ關スル登錄ニ乙特許權ト共ニ其ノ權利ノ目的タル旨ヲ附記スヘシ

登錄名義人カ登錄上乙特許權ニ關シ其ノ權利ナキトキ又ハ分割許可ノ査定又ハ審決確定前ニ該名義人カ其ノ權利ノ消滅ヲ承認シタルコト
ヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁例ノ附本ヲ差出シタルトキハ甲特許權ノ登錄用紙中其ノ權利ニ關スル登錄ニ其ノ旨ヲ附記
スヘシ此ノ場合ニ於テハ乙特許權ノ登錄用紙中ニ其ノ權利ニ關スル登錄ヲ轉寫スルコトヲ要セス

第三十條 特許權ヲ分割シテ甲及乙ノ二箇ノ特許權ト爲シタル場合ニ於テ登錄上乙特許權ノミカ制限附移轉ニ依リ特許權又ハ特許權以外ノ
權利ノ目的タルトキハ乙特許權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ其ノ權利ニ關スル登錄ヲ移シ出願日附、願書番號、査定若ハ審決確定シ又ハ
判決アリタル旨及其ノ日附ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ甲特許權ノ登錄用紙中制限附移轉ニ依リ特許權又ハ特許權以外ノ權利ニ關スル登錄ニ乙特許權ノ表示ヲ爲シ分割ニ依
リテ特許第何號ニ移シタル旨ヲ附記シ其ノ登錄ヲ朱抹スヘシ

分割許可ノ査定又ハ審決確定前ニ制限附移轉ニ依リ特許權又ハ特許權以外ノ權利ノ消滅ヲ承認シタルコトヲ證ス
ル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁例ノ附本ヲ差出シタルトキハ甲特許權ノ登錄用紙中其ノ權利ニ關スル登錄ニ其ノ旨ヲ附記シ其ノ
登錄ヲ朱抹スヘシ此ノ場合ニ於テハ乙特許權ノ登錄用紙中ニ其ノ權利ニ關スル登錄ヲ移スコトヲ要セス

第三十一條 第二十八條ノ場合ニ於テ原特許權ノ登錄用紙中追加特許番號欄ニ記載アルトキハ乙特許權ノ登錄用紙中ノ當該

第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許 八六一

欄ニモ之ヲ記載スヘシ但シ査定、審決又ハ判決ニ依リ甲特許權ノミニ對スル追加特許權トナリタルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス
追加特許權カ査定、審決又ハ判決ニ依リ乙特許權ノミニ對スルモノトナリタルトキハ甲特許權ノ登録用紙中ノ當該欄ニ於ケル該番號ヲ朱
抹シ乙特許權ノ登録用紙中ノ當該欄ニ該番號ヲ記載スヘシ
前二項ノ場合ニ於テ當該追加特許權ノ登録用紙中表示欄ニ其ノ追加特許權ノ附隨スル原特許權タルヘキ特許權ノ特許番號ヲ附記シ舊原特
許番號ヲ朱抹スヘシ

第三十二條 第二十八條ノ場合ニ於テ原特許權ノ登録用紙中表示欄ニ特許ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決ノ登録アリタ
ルトキハ乙特許權ノ登録用紙中表示欄ニ之ヲ轉寫シ甲特許權ト共ニ審決又ハ判決ノ目的タル旨ヲ附記スヘシ
登録用紙中其ノ登録ニ乙特許權ト共ニ審決又ハ判決ノ目的タル旨ヲ附記スヘシ
特許ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決カ登録上甲特許權ノミニ關スルモノナルトキハ甲特許權ノ登録用紙中表示欄ニ其
ノ旨ヲ附記スヘシ此ノ場合ニ於テハ乙特許權ノ登録用紙ニ其ノ審決又ハ判決ノ登録ヲ轉寫スルコトヲ要セス

特許ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決カ登録上乙特許權ノミニ關スルモノナルトキハ乙特許權ノ登録用紙中表示欄ニ審
決又ハ判決ノ登録ヲ移スヘシ
前項ノ場合ニ於テ甲特許權ノ登録用紙中表示欄ノ確定審決又ハ判決ノ登録ニ乙特許權ノ表示ヲ爲シ分割ニ依リテ特許第何號ニ移シタル旨
ヲ附記シ其ノ登録ヲ朱抹スヘシ

第三十三條 前條ノ規定ハ第二十八條ノ場合ニ於テ原特許權ノ表示欄ニ特許法第四十四條ノ規定ニ依ル制限又ハ特許權存續期間延長ノ許可
アリタル場合ニ於テ爲シタル制限ノ登録アリタル場合ニ之ヲ準用ス
第三十四條 第二十八條ノ場合ニ於テ代理人欄ニ特許法第十三條第一項ノ規定ニ依ル代理人ノ登録アルトキハ乙特許權ノ登録用紙中相當欄
ニ之ヲ轉寫スヘシ

第三十五條 前七條ノ規定ハ特許權カ三箇以上ニ分割セラレタル場合ノ登録ニ之ヲ準用ス
第三十六條 特許權存續期間延長許可ノ登録ヲ爲スニハ表示欄ニ出願日附、願番番號、許可アリタル旨及其ノ日附、延長ノ期間並制限ヲ附
シタルトキハ其ノ制限ヲ記載スヘシ

第三十七條 特許權改訂ノ許可カ無効トナリタルトキハ表示欄ニ審判請求書受附ノ年月日、審判、抗告審判又ハ判決ノ番號、改訂許可無効
ノ審決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附ヲ記載シ改訂ノ登録ヲ朱抹スヘシ
第三十八條 特許權分割ノ許可カ無効トナリタルトキハ分割許可ニ依リ新ニ登録用紙ヲ起シタル乙特許權ノ登録用紙中表示欄ニ審判請求書
受附ノ年月日、審判、抗告審判又ハ判決ノ番號、分割許可無効ノ審決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附ヲ記載シ特許權ノ表示、表示

番號及特許番號ヲ朱抹スヘシ
前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ甲特許權ノ登録用紙中特許番號欄ノ番號ノ下ノ「」ノ文字ヲ朱抹シ表示欄ニ審判請求書受附ノ年月日、
審判、抗告審判又ハ判決ノ番號、特許權分割許可無効ノ審決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附ヲ記載シ分割許可ノ登録ヲ朱抹シ表示
シ欄中分割許可ノ登録前ノ番號ニ關シテハ之ヲ其ノ原狀ニ回復シ分割許可後ノ番號ニ關シテハ其ノ登録ニ甲特許權タリシ部分ノミニ關ス
ル旨ヲ附記スヘシ
分割許可ノ登録後乙特許權ノ登録用紙中表示欄ニ特許權分割許可ノ登録以外ノ登録アルトキハ之ヲ轉寫シ其ノ登録カ乙特許權タリシ部分
ノミニ關スル旨、審判請求書受附ノ年月日及審判、抗告審判又ハ判決ノ番號ヲ記載スヘシ

第三十九條 前條ノ場合ニ於テハ甲特許權ノ登録用紙中甲區事項欄ニ乙特許權ノ登録用紙ヨリ制限附移轉ニ依ル特許權以外ノ特許權ニ關ス
ル登録ヲ移シ其ノ登録カ乙特許權タリシ部分ノミニ關スル旨、審判請求書受附ノ年月日及審判、抗告審判又ハ判決ノ番號ヲ記載スヘシ
乙特許權ノ登録用紙ニ制限附特許權又ハ特許權以外ノ權利ニ關スル登録アルトキハ甲特許權ノ登録用紙中相當區事項欄ニ其ノ權利ニ關ス
ル登録ヲ移シ乙特許權タリシ部分ノミカ其ノ權利ノ目的タル旨、審判請求書受附ノ年月日及審判、抗告審判又ハ判決ノ番號ヲ記載スヘシ

第四十條 特許權分割ノ許可カ無効トナリタル場合ニ於テ分割許可ノ登録以前ニ原特許權ノ登録用紙中追加特許番號欄ニ追加特許番號ノ記
載アリタルトキハ當該追加特許權カ無効トナリ又ハ消滅セザリシ場合ニ限り之ヲ原狀ニ回復シ特許權分割許可ノ登録後分割許可ニ依リ新
ニ登録用紙ヲ起シタル特許權ノ登録用紙中追加特許番號欄ニ追加特許番號ノ記載アルトキハ原特許權ノ登録用紙中追加特許番號欄ニ其ノ
番號及乙特許權ニ附隨シタルモノナル旨ヲ記載スヘシ
第四十一條 前條ノ場合ニ於テハ當該追加特許權ノ登録用紙中表示欄ニ其ノ追加特許權ノ附隨スル原特許權タルヘキ特許權ノ特許番號ヲ附
記シ舊原特許番號ヲ朱抹スヘシ

第四十二條 前四條ノ規定ハ特許權カ三箇以上ニ分割許可ノ登録アリタル場合ニ於テ分割許可カ無効トナリタル場合ニ之ヲ準用ス
第四十三條 特許權分割許可ノ登録アリタル後其ノ一若ハ二以上ノ特許權ノ無効ノ登録アリタル場合ニ於テ特許權分割ノ許可カ無効トナリ
タルトキハ殘存スル特許權ノ表示欄ニ審判請求書受附ノ年月日、審判、抗告審判又ハ判決ノ番號、特許權分割許可ノ無効ノ審決確定シ又ハ
判決アリタル旨及其ノ日附ヲ記載スヘシ

特許權分割許可ノ登録アリタル後其ノ各特許權又ハ一若ハ二以上ノ特許權ノ消滅ノ登録アリタル場合ニ於テ特許權分割許可カ無効トナリ
タルトキハ各特許權ノ表示欄ニ前項ニ準シ記載ヲ爲スヘシ
第四十四條 撤棄ニ依ル場合ヲ除クノ外特許權カ消滅シタルトキハ原因及其ノ年月日ヲ記載シ特許權ノ表示、表示番號及特許番號ヲ朱抹ス
ヘシ

第四十五條 特許權カ無効トナリタルトキハ原因及其ノ年月日ヲ記載シテ特許權ノ表示、表示番號及特許番號ヲ朱記シ登録用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四十六條 前二條ノ場合ニ於テ其ノ特許權カ他ノ特許權ト共ニ制限附移轉ニ依ル特許權又ハ特許權以外ノ權利ノ目的タリシトキハ他ノ特許權ノ登録用紙中相當區事項欄ニ其ノ無効トナリ又ハ消滅シタル特許權ノ表示ヲ爲シ、無効トナリ又ハ消滅シタル旨、原因及其ノ年月日ヲ附記シ其ノ特許權ト共ニ制限附移轉ニ依ル特許權又ハ特許權以外ノ權利ノ目的タル旨ヲ記載シタル登録中無効トナリ又ハ消滅シタル特許權ノ表示ヲ朱記スヘシ

追加特許權カ無効トナリ又ハ消滅シタルトキハ其ノ附屬スル原特許權ノ登録用紙中追加特許權欄ニ於ケル其ノ番號ヲ朱記スヘシ

第四十七條 異議ノ決定又ハ訴訟ノ裁決ニ依リテ爲ス登録ハ表示欄又ハ相當區事項欄ニ原因及其ノ年月日ヲ記載シ其ノ登録ヲ爲シ更正又ハ變更ノ登録ニ在リテハ更正又ハ變更シタル登録ヲ朱記スヘシ

第四十八條 特許ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決ノ登録ヲ爲スニハ表示欄ニ審判請求書受附ノ年月日、審判、抗告審判又ハ判決ノ番號審決又ハ判決アリタル旨及其ノ日附、效力又ハ範圍ニ關スル審決又ハ判決ノ要旨ヲ記載スヘシ

第四十九條 特許登録令第三條第二號ノ規定ニ依ル豫告登録ハ登録用紙中表示欄ニ之ヲ爲スヘシ但シ使用權設定ノ請求ノ審判ノ請求アリタルトキハ相當區事項欄ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ登録ヲ爲スニハ審判請求書受附ノ年月日、審判番號及一定ノ申立又ハ抵觸番號及發明抵觸ノ査定者ハ審決ノ要旨及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第五十條 特許法第四十四條ノ規定ニ依リ特許權ヲ制限シタル場合ニ於テ其ノ登録ヲ完了シタルトキハ登録官吏ハ特許權主ニ特許證ノ提出ヲ命シ原因及其ノ年月日並制限ヲ記載シタル上ニテ特許權者ニ還付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ特許證ヲ提出セザルトキハ新ニ特許證ヲ作り之ニ其ノ記載スヘキ事項ヲ記載シ之ヲ特許證主ニ下付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ新ニ特許證ヲ下付シタルトキハ舊特許證ハ之ヲ無効トス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ官報及特許公報ニ公告スヘシ

第三節 申請及囑託ニ依ル登録手續

第五十一條 登録申請書ニハ申請書ニ其ノ登録申請書ニ必要ナル事項ヲ記載シ登録稅法第十一條第三號及第五號ノ登録ニ付テハ尙課稅標準ノ價格ヲ記載スヘシ

第五十二條 登録申請書カ數葉ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ

前項ノ契印ナキモノニ付テハ登録官吏ニ於テ契印スヘシ

第五十三條 特許登録令第三十三條ノ場合ニ於テハ申請書ニ登録證カ減失シタル旨ヲ記載スヘシ

第五十四條 申請書ノ提出アリタルトキハ登録申請書受附簿ニ登録ノ目的、申請人ノ氏名又ハ名稱、受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ申請書ニ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スヘシ但シ申請人カ郵便ニ依リ申請シタル場合ニ於テ其ノ郵便物ノ到達カ執務時間外ニ係ルトキハ其ノ到達ノ時ヲ以テ受附ノ時ト看做ス

前項ノ受附番號ハ受附ノ順序ニ依リ之ヲ附スヘシ但シ同一ノ特許權ニ關シ同時ニ數箇ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ附スヘシ

第五十五條 前條ノ規定ニ依リ登録申請書受附簿ニ申請人ノ氏名又ハ名稱ヲ記載スル場合ニ於テ登録權利者又ハ登録義務者カ多數ナルトキハ代表者又ハ筆頭者ノ氏名又ハ名稱及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第五十六條 受附番號ハ毎年之ヲ更新スヘシ

第五十七條 登録ハ受附番號ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

特許法第五十二條第三項ノ登録ノ申請ハ料金納付ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

第五十八條 表示欄ニ登録ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登録ノ目的其ノ他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ特許權ノ表示ニ關スルモノヲ記載スヘシ

事項欄ニ登録ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登録權利者ノ氏名又ハ名稱及住所、登録原因、其ノ日附、登録ノ目的其ノ他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ登録スヘキ權利ニ關スルモノヲ記載スヘシ

特許登録令第二十七條ノ申請アリタル場合ニ於テ事項欄ニ登録ヲ爲スニハ前項ノ外債權者ノ氏名又ハ名稱及住所並代位原因ヲ記載スヘシ

代理人欄ニ登録ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、代理人ノ氏名及住所、登録原因及其ノ日附、登録ノ目的其ノ他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ代理權ニ關スルモノヲ記載スヘシ

第五十九條 假登録ハ登録用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ其ノ左側ニ餘白ヲ存スヘシ

第六十條 假登録ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縦線ヲ劃シ其ノ左側ニ本登録ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及事項欄ニ縦線ヲ劃スヘシ

第六十一條 假登録ヲ爲シタル後本登録ノ申請アリタルトキハ假登録ノ左側ノ餘白ニ其ノ登録ヲ爲スヘシ假登録ノ抹消ノ申請アリタルトキ亦同シ

第六十二條 特許登録令第三條第一號ニ依リ豫告登録ハ登録用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲スヘシ

第六十三條 登録ノ更正、登録名義人ノ表示ノ變更又ハ權利ノ變更ノ登録ヲ爲ストキハ更正又ハ變更シタル登録事項ヲ朱記スヘシ

第六十四條 登録シタル質權ノ順位ヲ讓渡シ又ハ放棄シタル場合ニ於テ變更登録ヲ爲シタルトキハ其ノ質權ノ登録ノ順位番號ノ左側ニ變更登録ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第六十五條 登録が完了したタルトキハ登録原因が證明され、申請書受附の年月日、受附番號、順位番號及登録済ノ旨ヲ記載シ特許局ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ登録権利者ニ還付スヘシ

申請書ニ添附シタル特許證、登録済證又ハ特許登録令第三十三條ニ掲ケタル書面ニ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登録権利者ノ氏名又ハ名稱及住所、登録原因、其ノ日附、登録ノ目的及登録済ノ旨ヲ記載シ特許局ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ登録義務者ニ還付スヘシ但シ特許證ハ制限附移轉ニ依ル特許權以外ノ特許權移轉ノ登録ノ場合ニ於テハ之ヲ登録権利者ニ還付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ登録名義人多數ニシテ其ノ一部カ登録義務者ナルトキハ登録義務者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ登録権利者又ハ登録義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル代表者又ハ筆頭者ノ氏名又ハ名稱及住所他ノ人莫ク記載スルヲ以テ足ル

特許登録令第二十七條ノ申請ニ依ル登録が完了したル場合ニ於テハ代位原因が證明され書面ニ第一項ノ規定ニ準シ記載ヲ爲シ特許局ノ印ヲ捺捺シテ第一項及第二項ノ規定ニ依リ登録権利者ニ還付スヘキ書類ト共ニ之ヲ債權者ニ還付スヘシ

第六十六條 判決又ハ審決ニ依リ特許證主ヨリスル特許權ノ移轉、實施權若ハ使用權ノ設定又ハ制限附移轉ニ依ル特許權以外ノ特許權ノ目的トスル實權ノ設定ノ登録ノ申請アリタル場合ニ於テ登録が完了したタルトキ特許證ノ添附ナキ場合ニ於テハ登録官吏ハ前特許權者又ハ當該特許權者ニ特許證ヲ提出シ命シ前條第二項以下ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ特許登録令第四十三條又ハ第四十四條ノ登録ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十條第二項及第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十七條 特許登録令第三十三條ノ場合ニ於テ登録官吏カ登録が完了したタルトキハ特許權ノ表示、登録原因、其ノ日附、登録権利者ノ氏名又ハ名稱及住所、登録ノ目的及登録済ノ旨ヲ登録義務者又ハ其ノ一人ニ通知スヘシ

第六十八條 官廳又ハ公署カ登録権利者ノ爲ニ登録ヲ囑託シタル場合ニ於テ特許局ヨリ特許證又ハ登録済證ノ還付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ登録権利者ニ交付スヘシ

第六十九條 登録回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登録が回復スルニハ回復ノ登録が爲シタル後更ニ抹消ニ係ル登録ト同一ノ登録が爲スヘシ

第七十條 使用權設定ノ登録が爲シタルトキハ使用ヲ要スル特許權ノ登録用紙中相當事項欄ニ被使用特許權ノ表示ヲ爲シ其ノ特許權カ使用權ノ目的タル旨、使用權ノ範圍其ノ他申請書ニ記載セル事項ニシテ使用權ニ關スル事項ヲ記載シ使用ヲ要スル特許證ニ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登録原因及其ノ日附及第何號ノ特許權カ本特許權ノ使用權ノ目的タル旨及登録ノ年月日ヲ記載シ特許局ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ登録権利者ニ還付スヘシ

第七十一條 一箇ノ債權ヲ擔保スル爲數箇ノ特許權又ハ之ニ關スル權利ノ目的トスル實權設定ノ登録ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ一箇ノ特許權又ハ之ニ關スル權利ニ付登録が爲ストキハ其ノ特許權ノ登録用紙中相當事項欄ニ他ノ特許權又ハ之ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其ノ權利カ共ニ實權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第七十二條 前條ノ登録アリタル場合ニ於テ其ノ一箇ノ特許權又ハ之ニ關スル權利ノ目的トスル實權ノ變更又ハ消滅ノ登録が爲シタルトキハ他ノ特許權ノ登録用紙中相當事項欄ニ其ノ權利ノ表示ヲ爲シ且其ノ權利ノ變更又ハ消滅シタル旨ヲ附記シ前條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登録中變更又ハ消滅ニ係ル事項ヲ抹消スヘシ其ノ一箇ノ特許權又ハ之ニ關スル權利ノ表示ニ付變更ノ登録が爲シタルトキ亦同シ

第七十三條 特許登録令第四十八條ノ規定ニ依リ登録ノ申請ノリタル場合ニ於テ登録が爲ストキハ登録用紙中相當事項欄ニ權利者ノ氏名又ハ名稱及住所何權利ノ登録ヲ命スル裁判ニ依リテ何權利ノ登録が爲ス旨ヲ記載スヘシ

第七十四條 特許登録令第四十九條ノ規定ニ依リ登録ノ申請アリタル場合ニ於テ登録が爲ストキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第七十五條 特許登録令第四十八條又ハ第四十九條ノ規定ニ依リ登録が爲シタルトキハ特許權ノ表示、登録原因、其ノ日附、登録権利者ノ氏名又ハ名稱及住所、登録ノ目的及登録済ノ旨ヲ特許權者及特許權以外ノ權利者ニ通知スヘシ

第七十六條 特許登録令第二十二條ノ規定ニ依リ官廳又ハ公署ヨリ權利移轉ノ登録ヲ囑託アリタル場合ニ於テハ滯納處分ニ關スル處分ノ制限ノ登録ヲ抹消シ若シ其ノ權利ノ目的トスル實權ノ登録アルトキハ其ノ登録ヲ抹消スヘシ

第七十七條 特許登録令第二十三條ノ規定ニ依リ特許權ノ費用ニ依ル特許權移轉ノ登録ノ囑託アリタル場合ニ於テ其ノ特許權ノ登録用紙中特許權以外ノ權利ニ關スル登録アルトキハ其ノ登録ヲ抹消スヘシ

第七十八條 登録ヲ抹消スルニハ抹消ノ登録が爲シタル後抹消スヘキ登録ヲ抹消スヘシ

前項ノ場合ニ於テ抹消ニ係ル權利ノ目的トスル第三者ノ權利ニ關スル登録アルトキハ登録用紙中相當事項欄ニ其ノ第三者ノ權利ノ表示ヲ爲シ何權利ノ登録ヲ抹消スルニ依リテ抹消が爲ス旨ヲ記載スヘシ

追加特許權ノ拋棄ニ依ル抹消ノ登録アリタルトキハ當該追加特許權カ附隨スル原特許權ノ登録用紙中追加特許番號欄ノ該番號ヲ抹消スヘシ

附則

第七十九條 本則ハ特許登録令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十條 特許登録令附則ノ規定ニ依リ舊特許原簿ヨリ登録ヲ移シタルトキハ表示欄及事項欄ニ移シタル登録ノ末尾ニ舊特許原簿第何冊第何項ノ手摺ヲ爲シタルトキハ舊特許原簿ノ相當欄ニ新特許原簿第何冊第何項ニ移シタル旨ヲ記載スヘシ

第八十一條 受附番號ハ明治四十二年分ニ限り本則施行ノ日ヨリ之ヲ起シ十二月三十一日ニ止ムヘシ

改正

三〇年法律三一號、三三年四四號、三八年九號、三二年六〇號、三四年二六號、三八年五七號、三二年八三號、三五年八號、三八年五八號、三九年三五號、四二年三一號

八七〇

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル登録稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登録稅法

第一條 登録稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス

第二條 不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 法定ノ家督相続ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格

千分ノ五

二 第一號以外ノ家督相続又ハ遺産相続ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格

千分ノ五

三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格

千分ノ四十

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人カ寄附行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ不動産價格ノ千分ノ十

四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格

千分ノ二十五

五 從來保有セル所有權ノ保存

不動産價格

千分ノ二

六 共有物ノ分割

分割ニ因リテ受クル不動産ノ價格

千分ノ五

七 永代ノ地上權ノ取得

不動産價格

千分ノ二十五

八 地上權、永小作權ノ取得

不動産價格

千分ノ二

存續期間二十年未滿

不動産價格

千分ノ三

存續期間三十年未滿

不動産價格

千分ノ四

存續期間三十年以上

不動産價格

千分ノ五

存續期間ノ定メナキモノ

不動産價格

千分ノ五

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス

九 貸借權ノ取得

不動産價格

千分ノ一

存續期間十年未滿

不動産價格

千分ノ一

存續期間十年以上

不動産價格

千分ノ二

存續期間ノ定メナキモノ

不動産價格

千分ノ一

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス

十 地役權ノ取得

要役地價格

千分ノ一

十一 華族世襲財産ノ創設

不動産價格

千分ノ二十

十二 先取特權ノ保存又ハ取得

債權金額又ハ不動産
工事費用豫算金額

千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ算キトキハ先取特權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十三 質權、抵當權ノ取得

債權金額

千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ算キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十四 競賣、強制管理ノ申立

債權金額

千分ノ六

但シ競賣若ハ強制管理ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ算キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十五 假差押、假處分

債權金額

千分ノ四

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ算キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十六 抵當アル債權ノ差押

債權金額

千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ算キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十七 相続財産ノ分離

不動産價格

千分ノ六

所有權ニ付テハ

不動産價格

千分ノ一

所有權以外ノ權利ニ付テハ

不動産價格

金二十錢

十八 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復

不動産每一箇

金二十錢

十九 假登記

不動産每一箇

金二十錢

二十 (削除)

二十一 附記登記

不動産每一箇

金十錢

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超エルトキハ三十錢トス

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

八七一

二十二 登記ノ更正、變更又ハ抹消

不動産每一箇

八七二

但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

金十錢

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

千分ノ三

第三條 船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

千分ノ三

一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得

船舶價格

千分ノ三

二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得

船舶價格

千分ノ二十

三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得

船舶價格

千分ノ十五

四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得

船舶價格

千分ノ一

五 從來保有セル所有權ノ保存

船舶價格

千分ノ一

六 貸借權ノ取得

船舶價格

千分ノ一

存續期間十年未滿

船舶價格

千分ノ一

存續期間十年以上

船舶價格

千分ノ二

存續期間ノ定メナキモノ

船舶價格

千分ノ一

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス

千分ノ六

七 質權、抵當權ノ取得

債權金額

千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

千分ノ六

八 競賣ノ申立

債權金額

千分ノ六

但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

千分ノ四

九 假差押、假處分

債權金額

千分ノ四

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

千分ノ六

十 抵當アル債權ノ差押

債權金額

千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

金二十錢

十一 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復

船舶每一箇

金二十錢

十二 假登記

船舶每一箇

金二十錢

十三 (創除)

十四 附記登記

船舶每一箇

金十錢

但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

船舶每一箇

金十錢

十五 登記ノ更正、變更又ハ抹消

船舶每一箇

金十錢

但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

船舶每一箇

金十錢

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

船舶每一箇

金十錢

第三條ノ二 鐵道抵當原簿又ハ軌道抵當原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

債權金額

千分ノ一

一 抵當權ノ取得

債權金額

千分ノ一

二 強制競賣、強制管理ノ申立

債權金額

千分ノ一

第三條ノ三 工場財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

債權金額

金二圓

一 抵當權ノ取得

債權金額

千分ノ一

二 強制競賣、強制管理ノ申立

債權金額

千分ノ一

三 假差押、假處分

債權金額

千分ノ一

四 登記ノ更正、變更又ハ抹消

每一件

金二圓

第三條ノ四 礦業財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

債權金額

千分ノ一

一 抵當權ノ取得

債權金額

千分ノ一

二 強制競賣、強制管理ノ申立

債權金額

千分ノ一

三 假差押、假處分

債權金額

千分ノ一

四 登記ノ更正、變更又ハ抹消

每一件

金二圓

第四條 船舶ノ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

船舶每一箇

金五十錢

一 新規登録

每十噸

金十錢

二 轉籍

每十噸

金十錢

三 除籍

船舶每一箇

金十錢

四 登録ノ變更

船舶每一箇

八七三

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商號、商標、著作權 第一章 特許

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未満ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

第五條 土地等帳ニ左ノ事項ヲ登錄スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登錄 地價 千分ノ二十
- 二 地價ノ設定 地價 千分ノ十
- 三 地價ノ修正 地價 千分ノ十
- 四 開墾 地價 千分ノ十
- 五 開墾後下年期附與 地價 千分ノ十
- 六 地價据置年期附與 地價 千分ノ十
- 七 新開免租年期延長 地價 千分ノ十
- 八 續下年期、地價据置年期ノ延長 地價 千分ノ十
- 九 低價年期ノ付與 地價 千分ノ十
- 十 地租條例第二十二條ノ地價ノ修正 地價 千分ノ十
- 十一 地價ノ復舊 地價 千分ノ一

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍領地地價ノ比準ニ依ル

第六條 商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ稅金額十四未満ナルトキハ十四トス

- 一 合名會社、合資會社設立 財產ヲ目的トスル出資ノ價格 千分ノ三
- 二 合名會社、合資會社出資増加 財產ヲ目的トスル増出資ノ價格 千分ノ三
- 三 株式會社設立 拂込株金額 千分ノ四
- 四 株式會社資本増加 増資拂込株金額 千分ノ四
- 五 株式會社第二回以後ノ株金拂込 毎回拂込株金額 千分ノ四
- 六 株式合資會社設立 拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ四
- 七 株式合資會社資本増加 増資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ四

八 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込 毎回拂込株金額 千分ノ四

九 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立 拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ一

十 合併ニ因ル會社資本ノ増加 増資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ一

十一 債券發行 債權總金額 千分ノ一

十二 支店設置 每一箇所 金十圓

十三 本店又ハ支店ノ移轉 每一件 金五圓

十四 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金五圓

十五 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金五圓

但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス

十六 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金五圓

十七 解散 每一件 金三圓

十八 清算人ノ選任、解任又ハ變更 每一件 金一圓

十九 清算ノ終了 每一件 金一圓

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金一圓ノ登録稅ヲ納ムヘシ

財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル財團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 法人ノ設立、法人設立後ノ事務所設置、事務所ノ移轉 每一件 金一圓

二 登記事項ノ變更消滅又ハ廢止、登記ノ更正又ハ抹消、解散、清算人ノ選任解任又ハ變更、清算ノ終了 每一件 金五十錢

主たる事務所ニアラサル事務所所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金五十錢ノ登録稅ヲ納ムヘシ

産業組合、産業組合聯合會又ハ産業組合中央會ニシテ登記ヲ受クル場合ニハ前二項ノ規定ニ依ル但シ組合原簿ノ記載ニ付テハ登録稅ヲ課セズ

第六條ノ二 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 商號ノ新設又ハ取得 每一件 金五圓

二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金五圓

三 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金五圓

第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許 八七五

- 四 商法第五條第七條ニ依ル登記 每一件 金二圓
- 五 民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記 每一件 金二圓
- 六 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金一圓
- 七 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金一圓

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金五十錢ノ登録稅ヲ納ムヘシ

- 第七條 左ノ事項ニ付キ辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 新規登録 金二十四
 - 二 登録換 金十四
 - 三 取消ノ請求 金一圓

第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録
 - 醫師 金二十四
 - 藥師 金十二圓
 - 獸醫 金十二圓
 - 蹄鐵工 金五圓
 - 假開業醫師 金五圓
 - 假免許獸醫 金三圓
 - 假免許蹄鐵工 金一圓
- 二 登録事項ノ變更
 - 每一件金五十錢

第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録
 - 甲種船長 金十五圓
 - 甲種一等運轉士 金十四
 - 甲種二等運轉士 金六圓
 - 乙種船長 金十四

- 乙種一等運轉士 金十四
- 乙種二等運轉士 金三圓
- 丙種船長 金六圓
- 丙種運轉士 金二圓
- 機關長 金十五圓
- 一等機關士 金十圓
- 二等機關士 金六圓
- 三等機關士 金三圓
- 水先人 金二十四

二 登録事項ノ變更 每一件 金五十錢

第十條 著作權ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 文藝、學術、美術ノ著作物 每一種一回 金十四
- 但シ演劇脚本及寫眞ヲ除ク
- 一 新聞紙及定期刊行物 每一號 金五十錢
- 一 演劇脚本 每一種一回 金五十圓
- 一 寫眞 每一版 金五圓
- 一 著作權ノ讓渡又ハ買入 每一件 金五圓
- 一 無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登録 每一件 金五圓

第十一條 特許ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 特許權ノ移轉 每一件 金一圓
- 相續 每一件 金十四
- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金十四
- 使用權又ハ實施權ノ設定又ハ保存 每一件 金五圓
- 三 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定 債權金額 千分ノ六
- 四 前二號ノ權利ノ移轉

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

- 相續
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五十錢
- 五 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 每一件 金二圓
- 六 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 千分ノ四
- 債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 意匠權ノ移轉
相續
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
 - 二 實施權ノ設定又ハ保存 每一件 金二圓
 - 三 前二號ノ權利ヲ目的トスル債權ノ設定 每一件 金一圓
 - 四 前二號ノ權利ノ移轉 債權金額 千分ノ六
 - 相續
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五十錢
 - 五 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 每一件 金一圓
 - 六 登録ノ更正變更又ハ抹消 每一件 千分ノ四
 - 債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
 - 第十二條ノ二 實用新案ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 實用新案權ノ移轉
相續
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
 - 二 使用權又ハ實施權ノ設定又ハ保存 每一件 金五圓
 - 三 前二號ノ權利ヲ目的トスル債權ノ設定 債權金額 每一件 金二圓
 - 四 前二號ノ權利ノ移轉 債權金額 千分ノ六
 - 相續 每一件 金五十錢

- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
- 五 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
- 六 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢
- 債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 第十三條 商標ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ但シ聯合商標ニ在リテハ各其ノ半額トス
 - 一 商標ノ移轉
相續
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
 - 一 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金十圓
 - 第十四條 續業權ニ關シ續業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 試掘權ノ設定 每一件 金七十五圓
 - 試掘權ノ變更 每一件 金三十五圓
 - 增區又ハ増減區 每一件 金十四圓
 - 減區 每一件 金十四圓
 - 三 試掘權ノ移轉 每一件 金十四圓
 - 相續
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金三十五圓
 - 四 採掘權ノ設定 每一件 金百五十四圓
 - 新規登録 每一件 金五十四圓
 - 續區合併 每一件 金五十四圓
 - 續區分割 設定續區 每一件 金五十四圓
 - 採掘權ノ變更 每一件 金五十四圓
 - 續區訂正 每一件 金七十五圓
 - 增區又ハ増減區 減區 每一件 金二十四圓
- 第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許 八七九

- 六 採掘權ノ移轉
相續
相續以外ノ原因ニ因ル移轉
每一件 金二十四
- 七 抵當權ノ設定
抵當權ノ設定
每一件 金七十五圓
- 新規登録
債權金額
千分ノ六
- 八 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更
每一件 金五圓
- 九 抵當權ノ移轉
相續
相續以外ノ原因ニ因ル移轉
每一件 金十四
- 相續
每一件 金五圓
- 共同債權者ノ脱退
每一件 金十四
- 十一 滞納處分以外ノ原因ニ因ル債權者又ハ抵當權ノ處分ノ制限
債權金額
千分ノ四
- 十二 廢業ニ因ル債權者ノ消滅
每一件 金五圓
- 十三 登録ノ更正、變更又ハ抹消
每一件 金十錢
- 債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 第十五條 (削除)
- 第十六條 左ノ場合ニ於テ不動産又ハ船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
一 府縣都市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ニ因ル府縣都市町村ノ權利ノ取得
千分ノ一
不動産又ハ船舶ノ價格
千分ノ一
- 二 市町村ノ一部ニ屬スル財産ヲ無償名義ニ因リ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得
千分ノ五
- 三 法人ノ合併又ハ組織變更ニ因ル法人ノ權利ノ取得
千分ノ五
- 前項各號ノ場合ニ於テ稅金額十錢未滿ナルトキハ十錢トス
- 第十七條 登録稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條 登録稅ハ總テ金一錢以上トス一錢未滿ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條 左ニ掲グルモノニハ登録稅ヲ課セス

- 一 政府自己ノ爲ニスル登記
- 二 府縣都市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ノ登記
- 三 社寺、堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記
- 四 明治六年第十八號布告地所賃入書入規則及同八年第四百四十八號布告建物賃入規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債權者ヨリ申請スル登記
- 第十九條ノ二 登記所ニ於テ登記申請者ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不當ト認ムルトキハ二名ノ評價人ヲ選定シ之ヲ評價セシム評價一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム
- 前項ノ評價申請價格ヨリ多キトキハ評價人ニ給スル旅費手當ハ登記申請者ノ負擔トス
- 官吏及當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者ハ評價人トナルコトヲ得ス

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録稅ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附則 (四十二年四月法律第三十一號改正)

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 (明治三十八年一月法律第九號)

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ續業原簿ノ登録ニ付テハ續業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前續業條例ニ依リ續業ニ關スル出願又ハ届出ヲ爲シ既ニ登録稅ヲ納メタル者續業法ニ依リ其ノ事項ニ付續業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ更ニ登録稅ヲ納ムルコトヲ要セス

●特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手数料 四十二年十月 勅令第三百三號

朕特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手数料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 特許法、意匠法、商標法若ハ實用新案法又ハ之ニ基キテ發スル勅令ニ依リ出願、請求若ハ届出ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ

第十七號 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許 八八一

納ムヘシ

- 一 特許出願 每一件 金五圓
- 二 追加特許出願 每一件 金三圓
- 三 特許出願人ノ名義變更届出 每一件 金二圓五十錢
- 四 追加特許出願人ノ名義變更届出 每一件 金一圓五十錢
- 五 特許證書本ノ請求 每一件 金三圓
- 六 追加特許證書本ノ請求 每一件 金一圓五十錢
- 七 特許權存續期間延長ノ請求 每一件 金二十五圓
- 八 特許權改訂許可出願 每一件 金五圓
- 九 特許權分割許可出願 每一件 金五圓
- 十 特許權取消ノ請求 每一件 金十圓
- 十一 意匠登録出願 每一件 金一圓
- 十二 意匠ヲ秘密ニセムトスルノ請求 每一件 金一圓
- 十三 意匠登録出願人ノ名義變更届出 每一件 金五十錢
- 十四 意匠登録證書本ノ請求 每一件 金五十錢
- 十五 實用新案登録出願 每一件 金二圓
- 十六 實用新案登録出願人ノ名義變更届出 每一件 金一圓
- 十七 實用新案登録證書本ノ請求 每一件 金一圓
- 十八 商標又ハ標章ノ登録出願 每一件 金三圓
- 十九 商標又ハ標章ノ登録出願人ノ名義變更届出 每一件 金一圓五十錢
- 二十 商標又ハ標章ノ登録證書本ノ請求 每一件 金一圓五十錢
- 二十一 商標權又ハ標章權存續期間更新ノ登録出願 每一件 金二圓
- 二十二 商標又ハ標章登録取消ノ請求 每一件 金五圓
- 二十三 法定ノ期間延長ノ請求 每一件 金五十錢
- 二十四 法定又ハ指定ノ期間懈怠ノ結果ヲ免レムトスルノ請求 每一件 金一圓

- 二十五 證明ノ請求 每一件 金五十錢
 - 二十六 書類ノ謄本ノ請求 每一件 謄本一枚ニ付金十錢 歐文書類ノ謄本ハ百語ニ付金十錢 百語ニ滿タサルモノ亦同シ但シ書類中圖面アルトキハ其ノ部分ニ關シテハ圖面調製ノ例ニ依ル
 - 二十七 圖面ノ調製ノ請求 圖面一枚ニ付金三十錢以上金三十四圓以下
 - 二十八 書類ノ閱覽ノ請求 每一件 金十錢
 - 二十九 書類ノ謄寫ノ請求 每一件 一時間金二十五錢但シ一時間ニ滿タサルモノハ一時間トス
 - 三十 再審査ノ請求 每一件 金三圓
 - 三十一 審判又ハ抗告審判ノ請求 每一件 金十二圓
 - 三十二 參加ノ請求 每一件 金三圓
 - 三十三 費用額決定ノ請求 每一件 金一圓
 - 三十四 費用額決定又ハ補償金額確定審決ノ執行力アル正本ノ請求 每一件 金一圓
 - 三十五 前條ノ規定ハ國ノ出願、請求又ハ届出ニ之ヲ適用セス
 - 第三條 第一條第十二號乃至第十三號、第十八號、第十九號及第二十一號ニ規定スル手数料ハ同一物品ニ應用スル互ニ相類似スル意匠及聯合商標ニ在リテハ各其ノ半額トス
 - 第四條 手数料ハ收入印紙ヲ願書、請求書又ハ届出書ニ貼付シ之ヲ納ムヘシ
- 附則
- 本令ハ特許法、意匠法、商標法及實用新案法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- (參照)
- 特許、意匠、商標又ハ實用新案ニ關スル請求書及届書ノ手数料 四十二年十月 農令第五十二號
- 明治三十八年農商務省令第四號及第十五號左ノ通改正ス
- 第一條 特許、意匠、商標又ハ實用新案ニ關シ特許局ニ對シ左ニ掲クル請求又ハ届出ヲ爲ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ
 - 一 特許證書再下付ノ請求 每一件 金二圓五十錢
 - 二 追加特許證書再下付ノ請求 每一件 金二圓五十錢
 - 三 特許證書差出免除ノ請求 每一件 金二圓五十錢
- 第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許 八八三

- 四 追加特許證差出免除ノ請求 每一件 金一圓五十錢
- 五 意匠登錄證再下付ノ請求 每一件 金五十錢
- 六 意匠登錄證差出免除ノ請求 每一件 金五十錢
- 七 意匠法施行細則第六條ノ規定ニ依ル請求 每一件 金一圓
- 八 實用新案登錄證再下付ノ請求 每一件 金一圓
- 九 實用新案登錄證差出免除ノ請求 每一件 金一圓
- 十 實用新案權存續期間満了前一月以内ニ於テ爲ス實用新案權存續期間延長ノ請求 每一件 金一圓
- 十一 實用新案法施行規則第六條ノ規定ニ依ル出願變更ノ請求 每一件 金一圓
- 十二 商標登錄證再下付ノ請求 每一件 金一圓
- 十三 商標登錄證差出免除ノ請求 每一件 金一圓
- 十四 商標權存續期間満了前三月以内ニ於テ爲ス商標權存續期間更新ノ請求 每一件 金一圓
- 十五 博覽會又ハ共進會ノ出品ニ關スル届出 每一件 金一圓
- 十六 期日又ハ特許法、意匠法、商標法又ハ實用新案法ニ定アル期間以外ノ期間變更ノ請求 每一件 金五十錢
- 十七 雜形又ハ見本閱覽ノ請求 每一件 金十錢
- 第二條 前條ノ規定ハ國ノ請求又ハ届出ニ付テ之ヲ適用セス
- 第三條 第一條第五號、第六號、第十二號乃至第十五號ニ規定スル手数料ハ同一ノ物品ニ應用スル互ニ相類似スル意匠及聯合商標ニ在リテハ各其ノ半額トス
- 第四條 手数料ハ收入印紙ヲ請求書又ハ届書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ
- 第五條 本令ハ特許法施行細則、意匠法施行細則、商標法施行細則及實用新案法施行規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●特許出願ニ關スル明細書及圖面調製標準

四十二年十一月 統制第四百十四號

第一 特許出願ニ關スル明細書ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ作ルヘシ

- 一 明細書ハ美濃紙ニツ折ニシテ凡ソ其ノ上部曲尺一寸、下部八分、左二分、綴料一寸ヲ餘シ楷書又ハ行書ヲ以テ十二行二十四字語ニ認ムヘシ
- 二 明細書中圖面ト對照シテ説明スルモノアルトキハ其ノ指示スヘキ部分ニ適當ナル名稱及符號ヲ付スヘシ
- 第二 特許出願又ハ實用新案登錄出願ニ關スル圖面ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ作ルヘシ
 - 一 圖面ハ強靱ニシテ平滑ナル白紙若ハ覆寫布ヲ用キ凡ソ其ノ上部曲尺九分、下部七分、左二分、右一寸八分ヲ餘シ堅曲尺七寸五分、横四寸五分以内ノ面内ニ濃墨ニテ鮮明ニ記載スヘシ但シ特ニ細密ヲ要スルモノハ堅又ハ横ノ長サヲ二倍ト爲スコトヲ得
 - 二 圖面ハ著色スルコトヲ得ス
 - 三 圖ノ離レタルモノハ一箇毎ニ番號ヲ附シ又一部分ニシテ數圖ニ互ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用フヘシ但シ番號及符號ハ濃墨ニテ明瞭ニ記スヘシ
 - 四 符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサルトキハ其ノ部分ヨリ少シク離シテ之ヲ記シ點線又ハ細線ヲ以テ其ノ部分ト符號トヲ接續スヘシ陰ヲ施シタル上ニハ符號ヲ記スヘカラス已ムヲ得サルトキハ其ノ部分ニ限リ陰ヲ施サスシテ符號ヲ記スヘシ
 - 五 截断面ヲ現ハスニハ線間凡ソ曲尺三厘ヲ離レタル平行線ヲ斜ニ引クヘシ又截断面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向ヲ異ニシタル斜線ヲ用フヘシ
 - 六 凹凸ノ部分ヲ明瞭ナラシムル爲圖面ニ陰ヲ施ス必要アルトキハ線ヲ用ヒテ簡明ニ畫クヘシ射影ハ成ルヘク施スヘカラス
 - 七 圖面ノ各葉ニハ出願人署名捺印スヘシ
 - 第三 意匠登錄ノ出願ニ關スル圖面ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ作ルヘシ
 - 一 圖面ハ強靱ナル白紙若ハ覆寫布ヲ用キ上部曲尺六分、下部四分、左二分、右一寸四分ヲ餘シ堅曲尺八寸、横四寸八分ノ面内ニ之ヲ認ムヘシ

- 二 寫眞ヲ紙面ニ貼附シタルモノヲ差出シ圖面ノ差出ニ代フル場合ニ於テハ前號ノ例ニ準シ之ヲ貼附スヘシ
- 三 錐形又ハ見本ヲ紙面ニ貼附シタルモノヲ差出圖面ノ差出ニ代フル場合ニ於テハ紙面ノ上部曲尺六分、下部四分、左二分、右一寸四分ヲ餘シ堅曲尺九寸七分以内横六寸以内ノ面内ニ其ノ錐形又ハ見本ヲ貼附スヘシ
- 第四 特許及實用新案ニ關シテ差出スヘキ錐形又ハ見本ハ堅牢ナル材料ヲ用キ曲尺一尺立方以内ニ於テ之ヲ作ルヘシ但シ此ノ制限ニ從ヒ難キトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第五 意匠ニ關シテ差出スヘキ錐形又ハ見本ハ曲尺二尺立方以内ニ於テ之ヲ作ルヘシ但シ此ノ制限ニ從ヒ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

●韓國ニ於ケル特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル審判、

抗告審判及出訴ニ關スル費用 四十二年十月 勅令第三百九號

朕韓國ニ於ケル特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

韓國ニ於ケル特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル審判、抗告審判及出訴ノ費用ニ付テハ明治四十二年勅令第三百一號ニ依ル

附則

本令ハ韓國特許令、韓國意匠令、韓國商標令及韓國實用新案令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

●特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用 四十二年十月 勅令第三百一號

朕特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル審判及抗告審判ノ費用ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第七十二條乃至第七十八條、第八十條乃至第八十二條、第八十三條第一項及第八十六條ノ規定ヲ準用ス但シ再審査ノ査定ニ對スル抗告審判ノ費用ノ負擔ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條 再審査ノ査定ニ對スル抗告審判ニ關スル費用ハ各當事者ノ自辨トス

第三條 審判、抗告審判及抗告審判ニ對スル出訴ノ費用額ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス

附則

本令ハ特許法、意匠法、商標法及實用新案法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

舊特許法、舊意匠法及舊商標法ノ規定ニ依リ審決アリタルモノニ付本令施行後決定スヘキ費用ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

●關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、

商標權及著作權ノ保護ニ關スル制 四十一年八月 改正 四十二年 勅令第二百一號

第一條 帝國臣民又ハ韓國臣民カ帝國ニ於テ享有スル特許權、意匠權、商標權、實用新案權及著作權ノ效力ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民及韓國臣民ニ及ブモノトス

第二條 特許法、意匠法、商標法、實用新案法及著作權法中ノ罪ニ關スル規定ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民及韓國臣民ニ對シ之ヲ適用ス

第三條 日韓兩國以外ノ國ノ臣民又ハ人民カ帝國ニ於テ享有スル工業所有權及著作權ニ付テハ其ノ所屬國カ治外法權ヲ有スル外國ニ於テ日韓兩國ノ臣民ニ對シ工業所有權及著作權ノ保護ヲ與ヘ且韓國ニ於テ工業所有權及著作權ノ保護ニ關シ治外法權ヲ行使セサル場合ニ限り前二項ノ規定ヲ適用ス

附則

第四條 本令ハ明治四十一年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 本令施行ノ際本令ノ保護スル他人ノ商標又ハ之ニ類似スル商標ヲ不正ニ附シタル商品ヲ販賣ノ爲所藏スル者ハ本令施行後六月内ニ其ノ商標ヲ除去若ハ抹消スルカ又ハ該商品ヲ清國市場ヨリ撤去スルコトヲ

第十七號

特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

八八七

要ス

第六條 日本國臣民、韓國臣民及米國人民カ帝國又ハ米國內ニ於テ著作權ヲ享有セル著作物ヲ本令施行前清國ニ於テ著作權者ノ承諾ナクシテ複製シタル者、翻譯シタル者若ハ興行シタル者又ハ複製、翻譯、興行ニ著手シタル者ハ本令施行後一年間ハ之ヲ完成シテ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得

●韓國特許辦理士令 四十二年十月 勅令第三百八號

朕韓國特許辦理士令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

韓國特許辦理士令

韓國ニ於ケル特許辦理士ニ關シテハ特許辦理士令ニ依ル但シ同令中帝國内トアルハ日本國內又ハ韓國内ニ、特許辦理士試験トアルハ同令第一條第二項ノ場合ヲ除クノ外特許辦理士試験又ハ韓國特許辦理士試験ニ、特許辦理士試験委員トアルハ韓國特許辦理士試験委員ニ、特許局長トアルハ統監府特許局長ニ、特許代理業者登錄規則トアルハ韓國特許代理業者登錄規則ニ、官報トアルハ統監府公報ニ該當ス
特許辦理士令第十五條第二項ノ特許局ハ特許局又ハ統監府特許局ニ、第十七條ノ主務大臣ハ統監ニ該當ス
韓國特許辦理士試験ニ關スル事項ハ統監之ヲ定ム

附則

本令ハ韓國特許令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

●特許辦理士令 四十二年十月 勅令第三百號

朕特許辦理士令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特許辦理士令

第一條 帝國内ニ住所ヲ有スル成年以上ノ能力者ニシテ特許辦理士試験ニ合格シタル者ハ特許辦理士タル資格ヲ有ス

特許辦理士試験ニ關スル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

第二條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セスシテ特許辦理士タル資格ヲ有ス

一 釋論士タル資格ヲ有スル者

二 文官高等試験又ハ列事檢事登用試験ニ合格シタル者

三 一年以上特許局若ハ統監府特許局ノ高等文官タリシ者又ハ二年以上特許局審査官補若ハ統監府特許局審査官補タリシ者

第三條 左ニ掲クル者ハ特許辦理士試験委員ノ銜ニ依リ試験ヲ要セスシテ特許辦理士タル資格ヲ有ス

一 學位ヲ有スル者

二 帝國大學分科大學又ハ之ヲ學科程度同等以上ト認ムル内外國ノ學校ニ於テ定規ノ課業ヲ卒ヘタル者

第四條 左ニ掲クル者ハ特許辦理士タルコトヲ得ス

一 特許法第九十二條、第九十三條、第九十七條、意匠法第二十四條、第二十五條、第二十九條、商標法第二十三條、第二十四條、第二十八條又ハ實用新案法第二十二條、第二十三條、第二十七條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタル日ヨリ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタル日ヨリ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復権セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

四 業務停止ノ期間中業務ヲ廢止シ未タ其ノ期間ノ經過セサル者又ハ業務禁止ノ處分アリタル日ヨリ三年ヲ經過セサル者

第五條 特許辦理士タラムトスル者ハ特許辦理士登錄簿ニ登錄ヲ受ケヘシ

前項ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ其ノ住所、氏名及事務所ヲ記載シタル請求書ニ履歷書及登錄ニ必要ナル資格ヲ證スル書面ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ請求スヘシ

第六條 特許辦理士ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ手数料トシテ金十圓ヲ納ムヘシ

前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ請求書ニ貼付シ之ヲ納ムヘシ

第七條 特許辦理士ノ登錄ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ登錄ヲ拒否シタルトキハ特許局長ハ之ヲ請求人ニ通知スヘシ

第八條 特許辦理士ノ登錄ノ拒否ニ對シ不服アル者ハ願願ヲ提起スルコトヲ得

第九條 特許局長ハ特許辦理士登錄簿ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 特許辦理士ノ氏名、住所

第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許

八八九

- 二 事務所
- 三 登録ノ年月日
- 四 懲戒

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ特許局長ハ特許受理士ノ登録ヲ抹消スヘシ

- 一 特許受理士死亡シ若ハ業務ヲ廢止シタルトキ又ハ業務ヲ禁止セラレタルトキ
- 二 特許受理士タルノ資格ヲ具ヘサルカ又ハ具ヘサルニ至リタルトキ

前項第二號ノ事由ニ依リ登録ヲ抹消セムトスルトキハ特許受理士試験委員ノ議ヲ經ヘシ

第十一條 前條第一項第二號ノ事由ニ依リ登録ヲ抹消シタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許受理士ニ通知スヘシ

第十二條 第十條第一項第二號ノ事由ニ依リ登録ノ抹消ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十三條 特許受理士登録簿ノ登録又ハ其ノ抹消若ハ回復ハ官報、特許公報、商標公報及實用新案公報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第十四條 第九條第一號若ハ第二號ノ事項ニ變更アリタルトキ又ハ業務ヲ廢止シタルトキハ特許受理士ハ遲滞ナク之ヲ特許局長ニ届出ツヘシ

特許受理士死亡シタルトキハ其ノ相續人又ハ親族ヨリ遲滞ナク之ヲ特許局長ニ届出ツヘシ

第十五條 特許受理士ハ左ニ掲ケル事件ニ付其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

- 一 相手方ノ代理人トシテ取扱ヒタル事件
- 二 特許局ニ在職中取扱ヒタル事件

第十六條 特許受理士組合ヲ設ケタルトキハ組合規約ヲ定メテ特許局長ノ認可ヲ受クヘシ組合規約ヲ變更シタルトキ亦同シ

特許受理士ノ組合ヲ解散シタルトキハ之ヲ特許局長ニ届出ツヘシ

第十七條 特許受理士ニシテ犯罪又ハ其ノ業務ニ關シ不正ノ行為若ハ甚シキ怠慢アリタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 業務ノ禁止
- 二 一年以内業務ノ停止

附則

本令ハ特許法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特許代理業者登録規則ハ之ヲ廢止ス

舊特許法第四十五條、第四十七條、舊意匠法第十七條、第十九條、舊商標法第十六條、第十七條、舊實用新案法第四十六條、第四十八條又

ハ特許代理業者登録規則第十五條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ三年ヲ經過セサルトキハ特許受理士タルコトヲ得ス

特許代理業者登録規則ニ依ル特許代理業者名簿ハ本令ニ依ル特許受理士登録簿ト看做ス

● 韓國特許受理士試験規則 四十二年十一月 統令第六十號

韓國特許受理士試験規則左ノ通定ム

韓國特許受理士試験規則

韓國ニ於ケル特許受理士試験ニ關シテハ特許受理士試験規則ニ依ル但シ同則中特許局トアルハ統監府特許局ニ、特許局高等官トアルハ統監府及統監府特許局高等官ニ、主務大臣トアルハ統監ニ、官報トアルハ統監府公報ニ該當ス

附則

本令ハ韓國特許受理士令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

● 特別受理士試験規則 四十二年十月 農令第五十號

特許受理士試験規則左ノ通相定ム

特許受理士試験規則

- 第一條 特許受理士試験ハ特許局ニ於テ特許受理士試験委員之ヲ行フ
- 第二條 試験委員長及試験委員ハ特許局高等官中ヨリ主務大臣之ヲ命ス
- 第三條 試験委員長ハ委員ヲ監督シ試験ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス
- 第四條 試験ノ期日ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
- 第五條 特許受理士令第四條ニ該當スル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 第六條 特許受理士試験ヲ受クムトスル者ハ第一號書式ニ依ル願書ニ第二號書式ニ依ル履歷書ヲ添附シ之ヲ試験委員長ニ差出スヘシ
- 第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第一章 特許